

日持ち品質管理と JAS 認証受容性 ～生産者・消費者調査

国産花き日持ち性向上推進協議会

調査:MPS ジャパン株式会社

2019 年 3 月

この調査は、農林水産省の 2018 年度（平成 30 年度）「花き日持ち性向上対策実証事業」において、花の JAS 受容可能性に関する国内生産者および消費者調査として実施したものです。

著者 青木 恭子 (Aoki Kyoko)

題名 日持ち品質管理と JAS 認証受容性～生産者・消費者調査

発行者 国産花き日持ち性向上推進協議会

発行日 2019 年 3 月 31 日

引用は、原則として自由。クレジット記載のこと。

引用例

青木恭子 (2019) 『日持ち品質管理と JAS 認証受容性～生産者・消費者調査』国産花き日持ち性向上推進協議会

Aoki, Kyoko (2019). Vase-life quality management and the acceptability of certifications: Producer and consumer survey report. Council for the Improvement of the Vase-life of Japanese Flowers.

事業に関する問い合わせ先

国産花き日持ち性向上推進協議会 事務局

MPS ジャパン株式会社内

東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル 5 階

TEL.03-3238-2702 FAX.03-3238-2701 <http://www.mps-jfma.net/>

目次

I 調査概要	5
1. 目的	5
2. 概要と構成	5
(1) 構成	5
(2) 実施方法	5
3. 結果の要約	6
(1) 生産者調査	6
(2) 小売店調査	6
(3) 消費者調査	6
4. まとめ	7
(1) 諸認証全体の制度設計の課題	7
(2) 認証のメリットに関する業界共通の理解醸成	7
(3) 消費者へのコミュニケーション	7
(4) 取り組むべき「品質」の幅	8
II 花き認証	9
1. 要約	9
2. 日本の花き認証	10
3. JAS 日持ち生産管理切り花	10
(1) 「花の JAS」概要	10
(2) 管理基準項目	11
4. 「リレーフレッシュネス」(花き日持ち品質管理認証)	11
(1) 「リレーフレッシュネス」概要	11
(2) 認証対象	11
(3) 管理基準項目	11
5. 「日持ちさん」	12
(1) 「日持ちさん」概要	12
(2) 対象品目	12
(3) 管理基準項目	13
6. 「MPS」	13
(1) 「MPS」概要	13
(2) 対象	14
(3) 管理基準項目	14
III 生産者調査	15
1. 結果の要約	15
2. 実施概要	16
(1) 調査方法	16

(2) 回答者属性	16
3. 生産者の品質管理の状況（切り花）	17
(1) 管理	17
(2) 記録とその保存・活用	21
4. 品質管理認証に対する生産者の認知と評価	22
(1) 花きの認証の認知率	22
(2) 花の認証への評価	23
(3) 認証内容に関する選好	24
5. 認証に対する支払意思額	28
(1) 「花の JAS」認証費用に対する支払意思額	28
(2) 「花の GAP」認証費用に対する支払意思額	28
(3) 生産者の許容額	28
6. 生産者の声	29
7. 生産者調査からみた JAS 受容可能性	30
(1) 認証へのリテラシー	30
(2) 認証に対する両義的評価	30
(3) 諸認証の全体スキームの見通しが必要	31
(4) 流通～消費者への認証アピールと、生産者へのフィードバック	31
(5) 中期的課題	31
IV 花小売店調査	32
1. 結果の要約	32
2. 実施概要	33
(1) 調査方法	33
(2) 回答者属性	33
3. 小売店での品質管理の状況	33
(1) 鮮度保持剤の使用	33
(2) 桶の洗浄	33
(3) 花の店頭陳列（滞留）日数	33
(4) 花の下げ時	33
(5) お客様の家での想定日持ち日数	34
(6) 「日持ち保証販売」の認知	34
(7) 「日持ち保証販売」について心配な点	34
4. 品質管理認証に対する小売店の認知と評価	35
(1) 花の認証の認知率	35
(2) 花の認証への評価	35
(3) 認証内容に関する選好	36
5. 認証品の花に対する支払意思額	37
(1) 「日持ち管理認証」取得品に対する支払意思額	37
(2) 「花の JAS」取得品に対する支払意思額	37
(3) 「花の GAP」取得品に対する支払意思額	38
6. 小売店調査からみた JAS 受容可能性	38

V 消費者調査	39
1. 結果の要約	39
2. 実施概要	40
(1) 調査方法	40
(2) 回答者属性	40
3. 花の購買行動	40
(1) 最近1年間の花の購入率	40
(2) 花を購入する際に重視する点	40
(3) 花を買わない理由	41
4. 花の管理	42
(1) 花の管理についての知識	42
(2) 実践していること	42
5. 日持ち保証	43
(1) 「日持ち保証販売」の認知率	43
(2) 満足する日持ち日数	44
6. 農産物の認証やラベルに対する意識	45
(1) 農産物のラベルについて	45
(2) 農産物ラベルの認知率	46
(3) 品質情報の信頼源	48
7. 花きの認証に対する消費者評価	49
(1) 花における表示のニーズ	49
(2) GAPの認知	50
(3) 環境配慮農産物に対する支払意思額	50
(4) GAP認証農産物に対する支払意思額	51
(5) JAS認証の花に対する支払意思額	51
(6) 民間の日持ち品質管理認証の花に対する支払意思額	52
(7) 差別化農産物に対する消費者評価（プレミアム価格の支払意思）	52
8. 消費者調査からみたJAS受容可能性	53
VI まとめ	54
参考資料	56
参考資料1. 「日本農林規格JAS 0001 日持ち生産管理切り花」	56
参考資料2. 単純集計表（生産者調査）	60
参考資料3. 単純集計表（小売店調査）	78
参考資料4. 単純集計表（消費者調査）	88
参考資料5. 花きおよび農業関連認証の見取り図（生産者アンケート添付資料）	98
参考資料6. 認証ラベルの説明	99

花の JAS 受容可能性調査

I 調査概要

1. 目的

2017 年に、農林水産省の国家規格である「日本農林規格」(JAS) 法が改正され¹、新しい JAS 規格の第一号として、「日持ち生産管理切り花」(JAS0001) が創られた。今後、鉢物や流通の規格も発表される予定である。2018 年度以降、輸出での活用も視野に入れながら、日持ち性に優れた花の JAS 認証制度が始まる。

本調査は、JAS をはじめとする花き認証に対する受容可能性を探ることを目的に、企画された。花き業界関係者および消費者を対象に、認証への評価や受容性を調べる。

2. 概要と構成

(1) 構成

本報告書では、花き生産者、小売および消費者に対するアンケート調査結果を柱に、花き認証に対する評価を分析する。調査に際しては、実証事業関係者や流通関係者からの意見聴取を参考にして実施した。

なお、報告書にある各設問の設問文と選択肢ごとのデータは、巻末の単純集計表に掲載されている。

(2) 実施方法

①調査期間

2018 年 7 月～11 月

②調査方法

調査方法は以下の通りである。

生産者調査：全国での日持ち性向上対策啓発セミナー参加者を対象に、アンケート調査（回答者 150 名）

小売店調査：同上（回答者 7 名）

消費者調査：インターネット調査（マクロミルのモニター対象、回答者 520 名）

なお、消費者調査のうち、花き購買行動に関しては、本事業において『日持ち性向上対策消費者動向調査』として別途発表されている。本報告書では、認証受容性の関連部分のみに

¹ 新 JAS では、農林水産「物」だけでなく、生産管理や試験、取扱いの方法にも対象が広げられた。また、海外市場における日本産の品質や特色の訴求手段としての活用も視野に入れられている。

言及する。

③企画・実施・分析

いずれの調査も、企画、設計、実施、分析は、MPS ジャパン(㈱)で行った。

企画、実施、分析および報告書執筆：リサーチャー 青木恭子

3. 結果の要約

(1) 生産者調査

生産者調査は、セミナー出席者対象であるため、花き認証のうちリレーフレッシュネスの認知率は高く、89.9%にのぼった。花の JAS は 65%、花の GAP は 62%の認知だった。

認証は、「業界のレベル向上」(62%)「差別化」(45%)などの点で評価されている。「政府認証」への支持は比較的低く、46%にとどまった。「総合認証」(品質、経営、環境)の支持も 44%と低い。

取得検討条件としては、「取引条件として求められること」67%や、「事実上の標準」「諸認証の関係整備」(各 64%)など、認証スキーム全体のわかりやすさが求められている。

選択肢下限を 3 万円に設定して、年間認証費用の平均支払意思額 (WTP) を尋ねたところ、JAS 43,942 円 < GAP 認証 (国内) 46,100 円 < GAP 国際認証 63,505 円 (無回答者 3 割を除く) の順となった。

生産者の JAS 取得への関心は高いとは言えない。認証は業界水準向上の点から評価はされている一方、コストや認証品への需要、複数認証の存在により、生産者にとっては不確実性が高く、導入には躊躇がある。認証間の関係をわかりやすくし、取引先や消費者へ認証品のメリットを伝えていくことが必要と考えられる。

(2) 小売店調査

花き小売店対象の調査は、回答者が 7 名と非常に少ないとみる。認証については、小売店回答者の 100%が「生産～流通～小売」を通じたサプライチェーン一体型の認証を支持している。また、政府認証についても、100%が肯定的だった。

認証品の花の扱いの受容価格 (支払意思額) を見ても、民間の「日持ち管理認証」はプレミアム価格容認は 57%と低めだが、「花の JAS」(政府認証) では、71%が通常価格の 10%以上の価格を受け入れており、3 割弱は 20%増でも可と答えている。

GAP は花の小売には遠いテーマであるが、国際認証の場合は、JAS と同じく 71%がプレミアム価格を受け入れている。

花き小売店は、JAS はじめ花の認証に対して、経営管理向上などプラス面の効果があると考えている。その半面、生産者同様、認証に伴うコストの価格転嫁や認証品への需要に対する懸念を抱いている。

(3) 消費者調査

花き日持ち性管理認証の「リレーフレッシュネス」の認知度は、現在 4.4%である。一方、

既存の JAS マーク認知率は 84.6%と高く、JAS を関することで、花の JAS についても、一定の認知率の押上効果が期待される。

日持ちは、消費者の花購入時および表示上の重視点の上位にあり、自宅用では、価格、花の種類に次いで、38%が日持ちを重視している。また、花を買わない理由では「すぐに枯れたり萎れて持たない」が 4 割で首位であり、日持ち性の向上は重要である。

一方、花の認証品について、割増価格の受容余地は少ない。認証花きの平均支払意思額 (WTP、通常価格=100 とした場合)、JAS、GAP、民間の日持ち管理認証のどの認証においても、受容可能な割増は 10%に満たない。

4. まとめ

(1) 諸認証全体の制度設計の課題

本調査の結果から、いくつかの課題が浮かび上がる。第一に、諸認証全体の制度設計の課題として、現在並存している 3 つの日持ち管理認証について、認証間の関係を整備し、専門家以外にもわかるように示していく必要がある。認証は業界水準向上の点から評価はされている一方、似たスキームの認証が複数存在し、わかりにくい。何が目安とすべき標準なのかわからなければ、生産者にとっては不確実性が増す。花き認証の受容性を高めるには、諸認証の関係のハーモナイゼーションを前提に、段階的な発展を促すような「見通し」を提示することが望ましい。

(2) 認証のメリットに関する業界共通の理解醸成

認証のメリットに関して、業界で共通の理解を醸成していくことが重要と考えられる。生産者も小売店も、花の認証のプラス面の効果を認めつつも、認証に伴うコストの価格転嫁や認証品への需要に対する懸念を抱いている。実際、認証品が、市場での割増価格に直結するとは限らない。しかし、認証に取り組むことは、取り組みの客観化や継続的な経営改善、生産や流通小売の現場の意識改革を促し、そうした改善の積み重ねを媒介にして全般的な品質向上につながるという効果がある。それを、認証スキームの参加者に理解してもらうことが重要である。

(3) 消費者へのコミュニケーション

取引先の流通や消費者へ、認証品のメリットを伝えていくことが必要と考えられる。認証の取り組みにより品質水準を上げることで、消費者の品質知覚やブランドとしての総体的評価が向上すれば、それが結果としてプレミアム価格やロイヤリティ向上に結び付く。認証は、こうしたプロセスを実現させる手段として重視すべきである。

日持ちは、消費者も重視している。既存の JAS マーク認知率は 8 割を超えており、JAS を冠することで、花の JAS についても一定の認知率の押上効果が期待できるとすれば、こうした梃子効果が十全に生かされるよう、認証品が認証品として流通し、ロゴや文字の表示とともに取引先や消費者に認知されるように、働きかけていくべきである。

(4) 取り組むべき「品質」の幅

現存の日本発の花き認証は、日持ちという特定「品質」に特化している。だが、世界の花き業界における「品質」は多元化している。世界的には、日持ち品質は当然の前提で、そのうえでさらに、環境や労働面での公正さ、経営の質などについて、課題解決を織り込んだ別次元の「品質」が問われている。新しいJASには、輸出ツールとしての性格がある。中長期的には、また輸出先によっては、社会的・環境的な「品質」についても、問われるようになっている。そのことにどう対応すべきかは、現在ある「花のJAS」規格を超える課題である。

II 花き認証

1. 要約

受容性調査に先立って、現在日本で運用されている主な花き認証制度について、ポイントを要約する。

●日本の花き認証

国内の花き認証の主流は日持ち品質管理認証で、「花の JAS」、「リレーフレッシュネス」、「日持ちさん」の 3 つの規格が並存している。国際認証としては、「MPS」と「MPS-GAP」がある。一方、世界の花き認証は、MPS など、社会・環境認証が主流になっている。

●「花の JAS」(切り花)

正式名称は、日本農林規格 JAS 0001「日持ち生産管理切り花」。2018 年度施行。国内と共に輸出ツールとしての活用が目標とされている。鉢物や流通の規格も発表予定(作成中)。

●「リレーフレッシュネス」(花き日持ち品質管理認証)

花きに携わる個人や団体を対象に、花きの日持ちは性向上対策、品質管理がなされている申請者に認証を授与する。生産、流通(市場、仲卸、加工場、輸送)、小売の 3 部門がある。MPS ジャパン(株)が運営。

●「日持ちさん」

日本花き生産協会(JFGA)が策定した品目別生産管理基準。生産管理、衛生管理や適切な前処理の実施等が定められ、80%以上実施している生産者および団体が認証取得を申請可能。

●MPS

花きの先進国オランダ発祥の環境負荷低減のための国際認証。花きの生産業者と流通業者を対象とした、花き業界の総合的な認証システム。鮮度保証、品質管理、顧客対応、トレーサビリティ、労働環境等に関する認証も提供している。

●MPS-GAP

花きにおける国際認証の GAP。MPS 参加者対象。

2. 日本の花き認証

日本の国内の花き認証は、「花の JAS」「リレーフレッシュネス」「日持ちさん」の3つで、どれも日持ち品質管理認証である。これらの主要な管理項目は、圃場・作業場衛生、採花、水揚げ、前処理、温度管理、輸送、履歴、顧客対応などで、項目ごとにチェックポイントが定められている。

国際認証としては「MPS」と、2018年秋から日本にも導入された「MPS-GAP」がある(MPS 参加者対象)。

海外では、MPS やグローバル G.A.P.を中心に、社会・環境認証が主流となっている。

図表 日本の花き認証

認証名	規格	対象	品目	軒数	内容
日持ち性管理切り花(花の JAS)	農林水産省	生産(流通・小売規格作成中)	切花 (鉢物規格 - 作成中)	-	日持ち生産管理
花き日持ち品質管理認証 (リレーフレッシュネス)	MPS ジャパン	生産～流通～小売	切花	生産 129、 流通 41、 小売 457 (団体認証含む)	日持ち品質管理 サプライチェーン全体(生産～流通・加工・輸送～小売)
日持ちは向上品目別生産管理基準認証(日持ちさん)	日本花き生産協会	生産	切花、鉢物	12 (団体認証含む)	日持ち生産管理
花き産業総合認証 (MPS)	MPS (オランダ)	生産、流通	切花、 鉢物	-	環境認証(国際認証) 農薬等環境負荷低減、鮮度・品質管理、労働環境 GAP 認証あり

注:認証者数は、2019年3月現在調べ

出典:MPS ジャパンまとめ

3. JAS 日持ち生産管理切り花

(1) 「花の JAS」概要

正式名称は、日本農林規格 JAS 0001 「日持ち生産管理切り花」。

2017年に、農林水産省の国家規格である「日本農林規格」(JAS)法が改正され、新しいJAS規格の第1号として創設。2018年度施行。国内と共に輸出ツールとしての活用が目標とされている。切り花に続き、鉢物、流通、小売の規格も作成中。

新しいJAS制度では、品質の平準化を目的とする従来のJASと比べて、差別化、ブランド化、国際化、B2B取引の強化を狙った制度である。これまでの政府認証と大きく異なり、民間の提案で、優れた品質や技術、取扱や試験方法、生産流通プロセス等を規格化することが可能になった。

(2) 管理基準項目

規格の項目は以下の通り（切り花）（詳細は巻末参考資料1の規格の原文参照）。

「花のJAS」管理基準項目（例 切り花 生産部門）

項目	チェックポイント	基準
栽培管理	除草、病気に罹患した花きの扱い、栽培期間中の管理温度など	
採花時～水揚げ～前処理の管理	水揚げおよび前処理の管理	
	水道水使用	
	品質保持剤の適切使用	
作業場の管理	温度管理など	作業中 25 °C以下、作業を行わない時は 15 °C以下で保管
採花～出荷までの管理	温度管理など	作業中は 25 °C以下、採花から 24 時間以内に作業終了など
出荷管理	温度管理など	出荷先まで 15 °C以下の温度管理
	品質保持剤の適切使用	湿式輸送での品質保持剤使用
保守点検	設備	
器具	ハサミ等の器具消毒	
表示	出荷の年月日表示	
生産行程の管理体制	施設、生産行程管理者、内部規程、記録管理など	

出典：農林水産省「日本農林規格 JAS 0001 日持ち生産管理切り花」と元に、MPS ジャパン編集

http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/attach/pdf/kikaku_itiran2-4.pdf

4. 「リレーフレッシュネス」（花き日持ち品質管理認証）

(1) 「リレーフレッシュネス」概要

正式名称は「花き日持ち品質管理認証」。MPS ジャパン（株）が運営する第三者認証。

花きに携わる個人や団体の申請者を対象に、花きの日持ちは性向上対策、品質管理について、管理項目のチェック表の申告に基づき、審査員による現地調査を実施して認証が与えられる。



(2) 認証対象

生産部門、流通部門（市場、仲卸、加工場、輸送）、小売部門の3部門があり、サプライチェーンを通じた連携により、新鮮さを「リレー」して消費者に届けるという意味が、「リレーフレッシュネス」の名称には込められている。

(3) 管理基準項目

花き日持ち品質管理認証の管理基準項目は、切り花の生産、流通（市場、仲卸、加工、輸送）および小売部門別に定められている。

「リレーフレッシュネス」管理基準項目(例 生産部門)

項目	チェックポイント	基準
ハウス(圃場)	清掃	ハウス(圃場)は清掃されているか
採花	採花時間	朝、夕の気温の低い時に採花しているか
	バケツに入れるまでの時間	30分以内
	冷蔵庫に入れるまでの時間	夏季25°C以上の場合は30分以内
前処理バケツ	水揚げの清潔度	ルミノメーター1000RLU以内
	前処理剤の使用	適正な前処理剤の使用
	バケツの水替え頻度	水道水使用、適宜交換
	バケツの保管	清潔な場所に保管
選花場	清掃	清掃されているか
	温度・湿度	25°C以下(15°C以下が望ましい)
ハサミ	ハサミの洗浄度	ルミノメーター1000RLU以内
保管庫	温度・湿度	適正温度、10°C以下
滞留日数	採花から出荷までの時間	2日以内
出荷前冷蔵	冷蔵温度・時間	3時間以上冷蔵
輸送時花持ち剤	花持ち剤の使用(湿式)	適正な花持ち剤の使用
出荷所までの輸送	温度	直射日光に当たらない 5~15°C
採花日記録	採花日記録	採花日の記録がされているか
お客様対応	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集
	クレーム処理	対応を含めて記録しているか
	栽培記録	農薬・肥料使用量を記録しているか

出典:MPS ジャパン(花き日持ち品質管理認証)<http://www.mps-jfma.net/rf/shinsei.html>

5. 「日持ちさん」

(1) 「日持ちさん」概要

一般社団法人 日本花き生産協会 (JFGA) が策定した品目別生産管理基準 (切花14品目、鉢物11品目、試行中、2019年3月現在)。

生産管理、衛生管理の徹底や適切な前処理の実施等が定められ、うち80%以上実施している生産者・生産者団体が認証取得を申請可能。基準の各項目の実施状況を記した「自己実施計画」を作成、事務局が書類審査・現地訪問により確認後、協会の委員会に諮り認証の可否が決定される。

図表「日持ちさん」ロゴ



出典:日本花き生産協会 HPより引用

(2) 対象品目

①日持ちは向上生産管理基準策定

切花: バラ、カーネーション、輪ギク、スプレーマム

鉢物: アジサイ、ファレノプシス、シクラメン

②生産管理基準策定

切花：チューリップ、ユリ類、ガーベラ、スターチス類、トルコギキョウ、リンドウ、スイートピー、宿根カスミソウ、アルストロメリア、ダリア

鉢物：エラチオール・ベゴニア、ポットカーネーション、カランコエ、ポインセチア、ポップトマム、ペリカリス・サイネリア、シンビジウム及びノビル系デンドロビウム

出典:日本花き生産協会 <https://www.jfga.or.jp/keep.html>

(3) 管理基準項目

切花生産管理基準の要件（例：輪ギク・施設、生産部門）

項目	チェックポイント	基準
日持ち向上 栽培管理	圃場衛生	除草・清掃
	灌水・肥培管理	適切に灌水、施肥
	温度管理	夏季には高温を避け、冬季は適切に加温
	換気	適切に換気し湿度を下げる
	シェード管理	高温期の夜間は開放
	日照(遮光)	遮光は必要最小限
採花	採花	強光下や葉が萎れた状態では採花しない
	採花後吸水(前処理)までの保管	蒸れないように低温で保管
水あげ、前処理	水揚げの場所	5~10°Cの冷蔵庫内または冷暗所
	水揚げの水(切り水)	水道水または飲用に適する井戸水
	水揚げの水(切り水)の交換	毎回交換
	容器の洗浄	切り水の交換ごとに洗浄する
	前処理剤	適正な前処理剤の使用
冷蔵庫	冷蔵庫の殺菌(ボトリチス)	作ごとに、燻蒸剤、塩素剤などで殺菌
作業場・選花場	清掃	清掃を徹底する
	選花機	定期的な洗浄と消毒
	室温	25°C以下
採花器具	採花器具の洗浄度	定期的に洗剤で洗う
出荷までの保管	温度	5~10°Cの冷蔵庫内または冷暗所
滞留日数	採花から出荷までの時間	3日以内
出荷場までの輸送	温度・雨	直射日光、雨に当てない
栽培履歴	栽培履歴	栽培・採花日・収穫後管理等の履歴を記録
お客様対応	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集
	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録
指導機関	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける

出典:日本花き生産協会 <https://www.jfga.or.jp/keep.html>

6. 「MPS」

(1) 「MPS」概要

MPSは、花きの先進国オランダ発祥の環境負荷低減のための国際認証で、花きの生産業者と流通業者を対象とした、花き業界の総合的な認証システムである。

MPS はオランダ語の「Milieu Programma Sierteelt (ミリイュウ・プログラマ・シールテイルト)」の頭文字を取った語で、元の意味は「花き産業環境プログラム」。MPS は 1994 年に生まれ、2004 年に花き流通業の ISO と呼ばれる認証システム Florimark と合体、さらに、グローバル G.A.P. のベンチマーク認証となり、鮮度・品質保証、労働環境と認証の幅を広げている。

図表 「MPS」ロゴ



「MPS ジャパン」国内ロゴ



出典:MPS ジャパン

(2) 対象

MPS は花きの生産者、流通が一体となった総合認証で、花き生産業者向け「MPS-Florimark Production」、市場業者向け「MPS-Florimark Auction」、流通業者向け「花き流通業者の認証：MPS-Florimark Trade」がある。花き業界の総合認証（MPS）を日本国内で取得した場合、日本産または日本で取得したことを証明するため、MPS ジャパンロゴマークが併用される。

また、鮮度保証や品質管理を認証する品質認証「MPS-Q」、従業員の雇用管理や社会的責任を認証する「MPS-SQ」（社会的責任認証）や、グローバル G.A.P. に相当する花きの生産工程管理認証である「MPS-GAP」もある。「MPS-GAP」は、生産者向けには、農薬、エネルギー、肥料等といった環境負荷項目を次第に減らせるプログラム認証、生産者と流通業者向けには、鮮度保証、品質管理、顧客対応、トレーサビリティ、労働環境等に関する認証も提供している。「MPS-GAP」への参加は MPS-ABC 取得が前提条件とされる。

出典:MPS ジャパン <http://www.mps-jfma.net/about/index.html>

(3) 管理基準項目

MPS-ABC（環境認証）では、5 つの環境負荷要素（農薬、肥料、エネルギー・水の使用状況、廃棄物の分別状況）を登録し、1 期（4 週間）ごとに MPS ジャパンに提出し、審査を受ける。

MPS-GAP では、土地の使用、親株、従業員等の資格、廃棄物処理、貯蔵、農薬、肥料、エネルギー、水の使用と貯蔵等、機械器具の保守管理、安全衛生、経営方針、苦情対策、内部審査について、チェックリストに基づき審査される。

III 生産者調査

1. 結果の要約

生産者調査のポイントは、以下の点である。

●家族経営が主流

回答者(計 150 名)の 6 割近くは家族経営・ほ場は 3,000 坪未満。約半数がスタッフ 5 人未満・50 代以下。2~5 品目栽培が 4 割。

●品質管理の実態(回答者 44 名)

前処理剤は 7 割が使用、輸送時の花持ち剤使用は 3 割強、18%はハサミ等の使用前消毒を 18% は全く行わない。記録はあまり保存されておらず、データ活用にもつながっていない。データ活用は「農薬肥料使用」が最も高い。

●花き認証の認知(以下、回答者 149 名)

「リレーフレッシュネス」は 90%が認知、36%は認証取得済。「日持ちくん」の認知率は 62%、取得済は 14%。「花の JAS」はセミナー前(事前)認知率 65%、セミナー後知った人 34%。「花の GAP」認知率は事前 62%、事後 37%。

●さまざまな花の認証に対する評価

「業界のレベル向上」(62%)「品質向上と差別化」(45%)「経営改善手段」(45%)として評価される半面、「コストの価格転嫁」(32%)など認証の費用対効果や需要に懐疑的。花では「標準が見通せない」(13%)と躊躇もある。

●認証に対する姿勢

要求レベルとしては、77%が「ベーシックで取り組みやすい水準」を支持。「差別化になる高めの水準」は 58%が肯定的である。「政府認証」の支持は少数派(46%)で、66%は「民間認証でよい」とする。「国際認証」への評価は 48%だった。認証の内容としては、「生産特化型」への支持は 40% に留まる一方、「生産～小売まで」の認証に対しては 76%が肯定的だった。GAP 型の「総合認証」(品質～環境)支持は 44%にとどまる。

認証取得の検討条件では、「取引条件として求められれば」が 67%で最多だった。また、業界での「事実上の標準」「諸認証の関係整備」もそれぞれ 64%が考慮条件として挙げており、認証スキーム(間)の見通しとわかりやすさが求められている。

●認証費用 支払意思額(年間、審査交通費等除く)

JAS は半数が「3 万円程度」、GAP(国内)「3 万円程度」42%、「5 万円程度」20%。GAP 国際認証「3 万円程度」35%。平均支払意思額(WTP)(無回答者を除く)は JAS 43,942 円 < GAP 認証(国内)46,100 円 < GAP 国際認証 63,505 円の順だった。無回答者(取得意向がない可能性)は 3 割程度にのぼった。

2. 実施概要

(1) 調査方法

①手法

花き小売関係者に対し、品質管理の実態や花の認証の認知度、評価、支払意思額を調査する。「花き日持ち性向上対策推進セミナー」(全国9か所)の参加者を対象に、アンケートを実施した。アンケート用紙(QRコード付きで、ウェブ回答も可能)を配布し、セミナー終了後回収した。全体で生産者の参加者は266名、うち150名から回答を得て、回収率は56.4%となった。

ランダム化されたサンプリング方式ではなく、統計的に代表性がある生産者データとは言えない。

②バージョン

調査票は、品質管理状況と認証評価の各部分だけの版と、両者の統合版との計3つの版がある。共通部分の設問や選択肢は同じで、以下の集計では統合した値を用いている。

質問票は、認証に関するセミナーの説明後の実施を想定して作成しており、セミナーのないIFEX(国際フラワー&プランツ EXPO)では、

生産管理の現状についてのみ質問した。版を分けたのは、回答状況や記入時間等を勘案したためである。

バージョン	管理状況	認証評価	対象地域	回答数
基本版(ver.1)		○	山形、秋田会津、福岡、八代	105
拡張版(ver.2)	○		高知、静岡、函館、長沼	44
IFEX版(ver.3)	○		IFEX	1

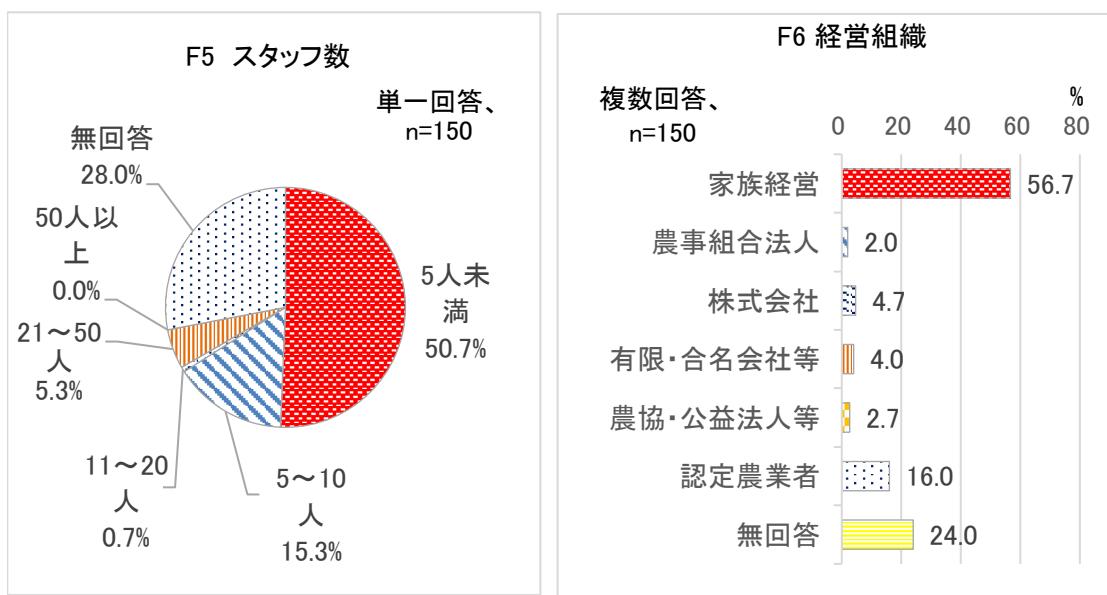
(2) 回答者属性

調査回答者は、切り花農家が66%で、栽培品目数は「2~5品目」が38%で最も多かった(F3)。品目は多様だが、「トルコキキョウ」は2割を占め突出している。切り花の生産者が66.4%を占める(F4)。

スタッフ数5人未満の生産者が過半数を占め(F5)、経営組織は家族経営がマジョリティである(56.7%)(F6)。

ほ場面積は「1,000~3,000坪」が29.3%で最も多く、次いで「1,000坪未満」26.7%だった(F7)。栽培形態は3分の2が施設栽培(67.3%)で、露地は13.3%と少数派である(F8)。

回答者(出席者)は男性が中心で66%、女性10%、無回答24%(F9)、年齢は60代以上が23.3%と最多だが、50代以下が過半数だった(F10)。

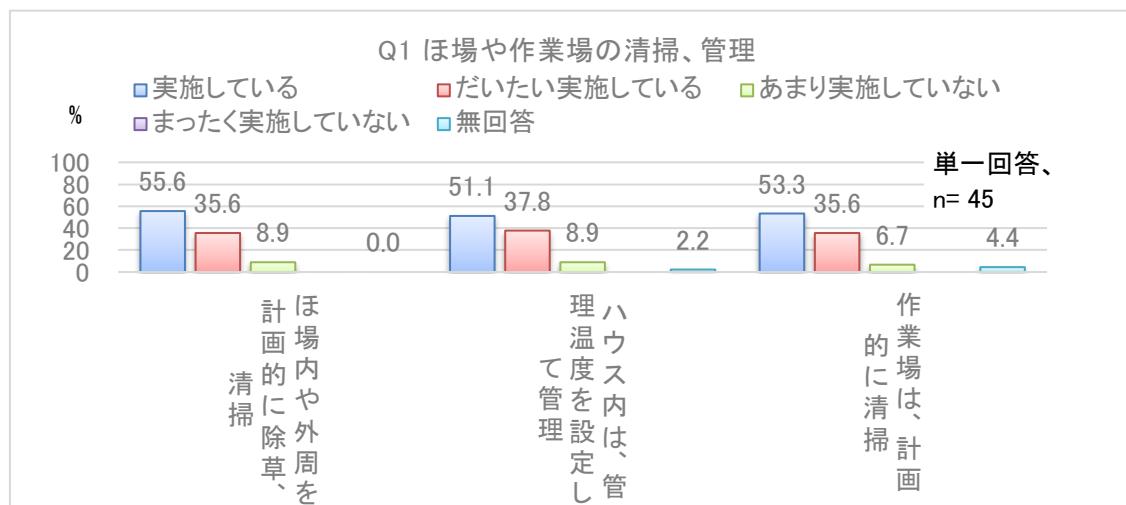


3. 生産者の品質管理の状況（切り花）

（1）管理

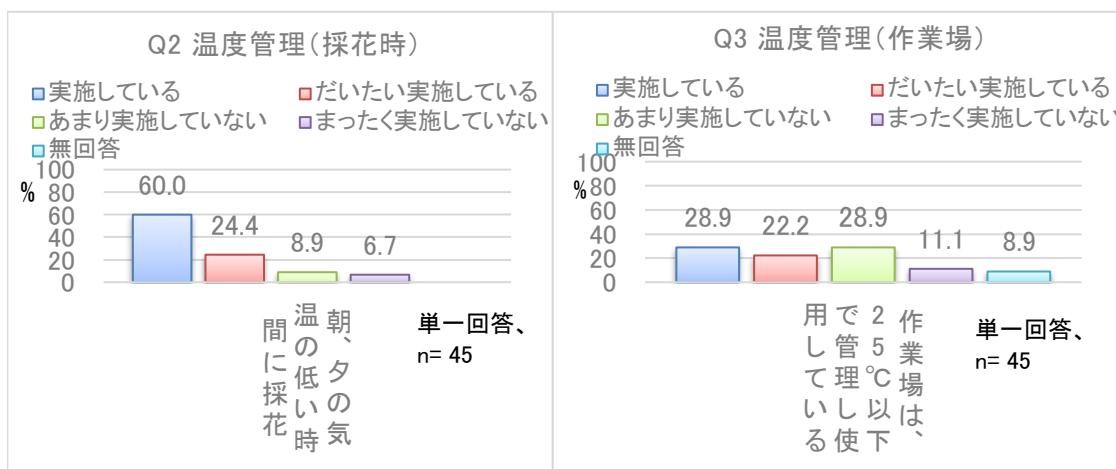
①ほ場や作業場の清掃

ほ場や作業場の清掃、管理は、約半数が「実施」、3割超が「だいたい実施」している（Q1）。



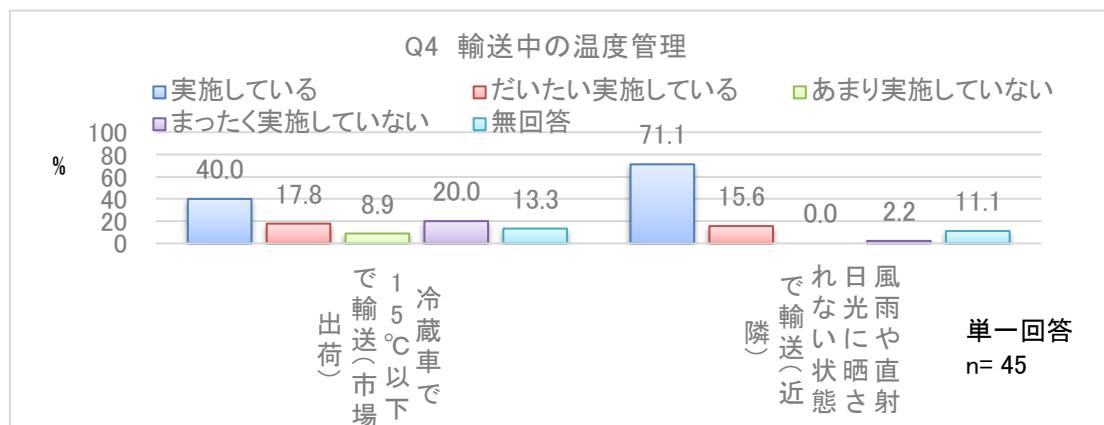
②温度管理（採花時、作業場）

採花時の温度管理は、「実施」「だいたい実施」合わせて 84.4%が行っている（Q2）。一方、作業場の温度管理（25°C以下）は、「あまり」「まったく」実施していない生産者が 4割を占めた（Q3）。なお、回答者 45 名中、15 名（33%）は北海道の生産者である。



③輸送中の温度管理

輸送中の温度管理については、冷蔵庫の輸送（15°C以下）を行っているのは5割超で、2割の生産者は、まったく行っていない（Q4）。風雨や直射日光を避けることについては、86.7%の農家が配慮している。

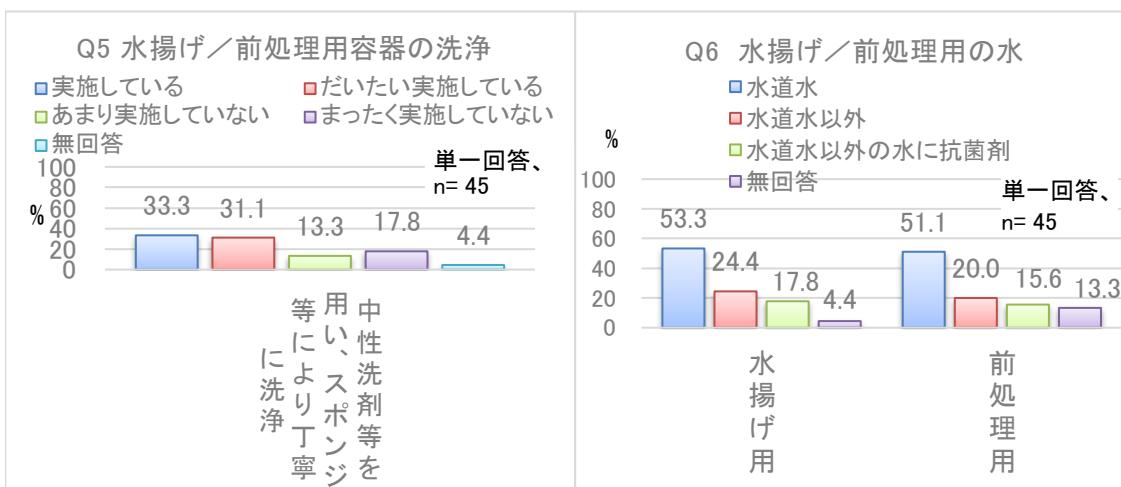


④水揚げ／前処理用容器の洗浄

水揚げ／前処理用容器の洗浄状況は、「中性洗剤等で丁寧な洗浄」の「実施」33.1%、「だいたい実施」31.1%、一方、「まったく行っていない」生産者は17.8%だった（Q5）。

⑤水揚げ／前処理用の水

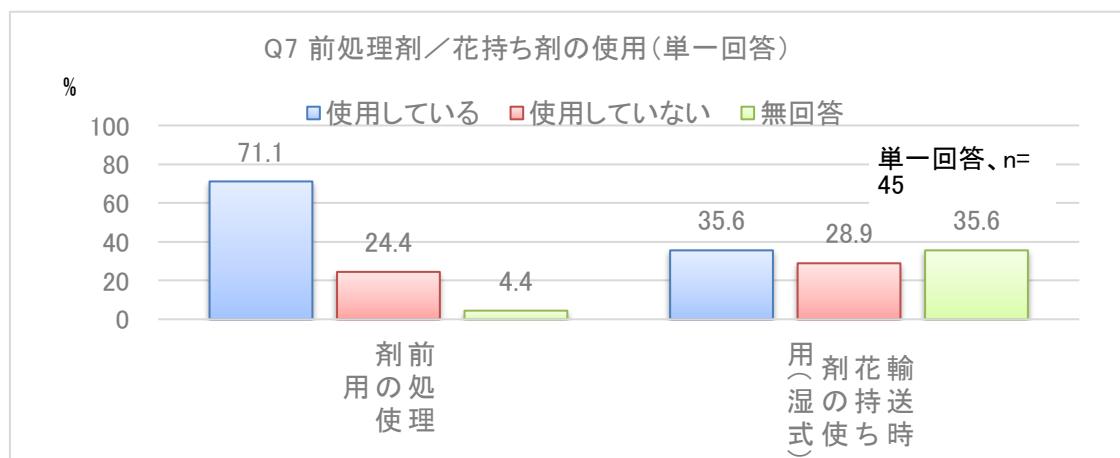
水揚げ、前処理用とも、生産者の5割超が水道水を使っている（Q6）。



⑥前処理剤／花持ち剤の使用

前処理剤は 71.1%が使用している一方、輸送時の花持ち剤（湿式）使用は 35.6%、使用しない生産者は 28.9%だった（無回答 35.6%）（Q7）。

前処理剤、花持ち剤の使用銘柄を尋ねたところ、「クリザール」 12.5%が一番多かった（Q7_S1、S2、自由回答、回答対象は Q7_1「前処理剤使用」と答えた 32 名、回答者は 9 名）。

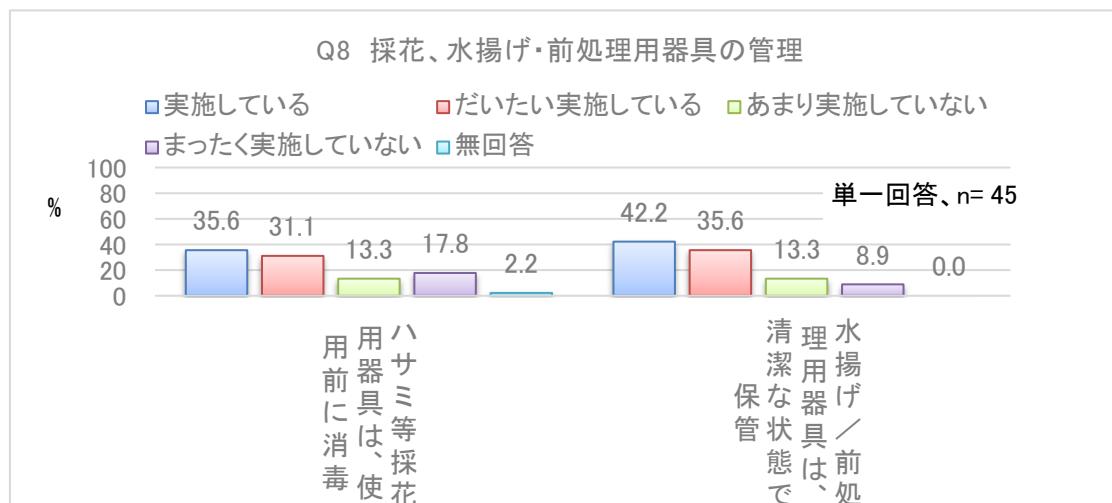


Q7-SQ1 前処理剤の使用銘柄(自由回答)	N	%
クリザール	4	12.5
クリザール K20C	1	3.1
クリザール K-200	1	3.1
美咲プロ	1	3.1
ハイフローラ	1	3.1
ケミクロソ	1	3.1
美ターナル	1	3.1
無回答	22	68.8
回答者数	9	28.1
N(全回答者数)	32	100.0

Q7-SQ2 花持ち剤の使用銘柄(自由回答)	N	%
クリザール パケット	1	6.3
エコゼリー	1	6.3
無回答	14	87.5
回答者数	2	12.5
N(全回答者数)	16	100.0

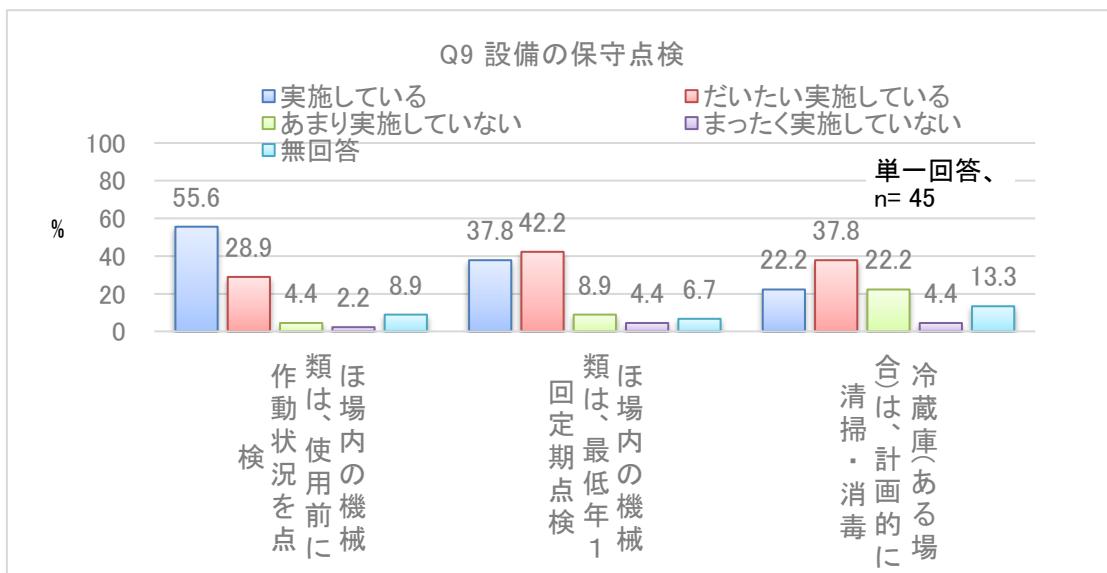
⑦採花、水揚げ・前処理用器具の管理

採花、水揚げ・前処理用器具の管理では、ハサミ等の器具の使用前消毒を必ず行っているのは 35.6%にすぎず、17.8%は消毒を「まったく実施していない」と答えている（Q8）。



⑧設備の保守点検

設備の使用前点検や定期点検は、回答者のうち 8割は「実施」「だいたい実施」しているが、冷蔵庫（ある場合）の計画的清掃や消毒は実践度が下がる（Q9）。

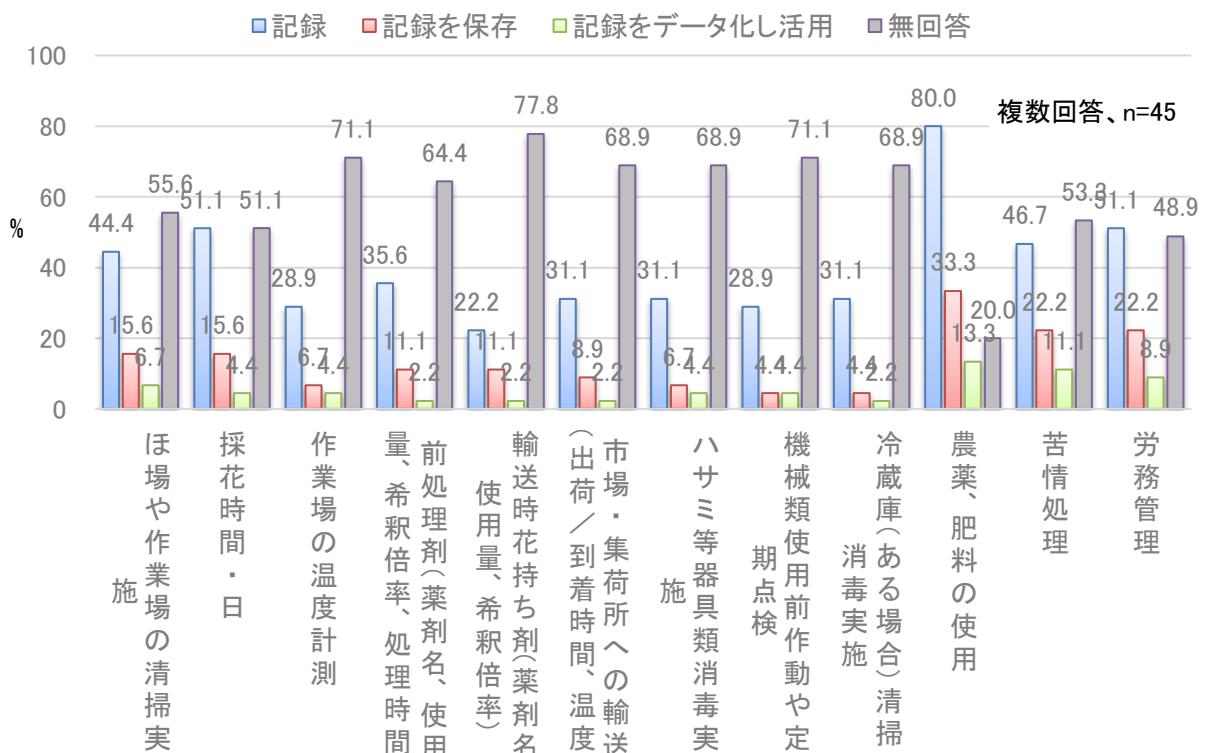


(2) 記録とその保存・活用

生産者による作業の記録、およびその保存、活用状況について尋ねた（Q10）。記録は必ずしも取られておらず、取られている場合でも、ほとんどの項目で、保存やデータ活用は進んでいない。農薬肥料や苦情処理では、ある程度データ活用がされている。

なお、本設問では、「記録をデータ化」は「記録を保存」を、「記録を保存」は「記録」を包含する概念とみなして集計している。

Q10 記録とその保存・活用



注:「記録をデータ化」は「記録を保存」を、「記録を保存」は「記録」を包含する概念とみなしてデータ処理

4. 品質管理認証に対する生産者の認知と評価

以下、品質管理認証に対する生産者の認知と評価について尋ねた。IFEX ではこの部分は非実施のため、以下の調査の回答者数は 149 名である。前セクション同様、以下のデータも、セミナー参加者の回答を集計したもので、生産者一般を代表するデータではない。

(1) 花きの認証の認知率

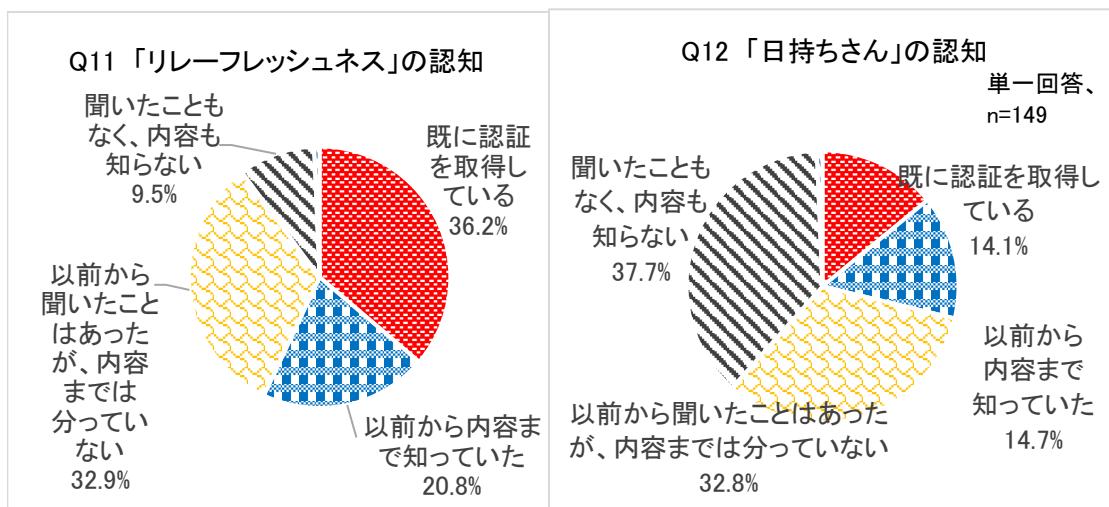
①花き日持ち品質管理認証（リレーフレッシュネス）

各種の花きの認証について、認知を尋ねた。「花き日持ち品質管理認証（リレーフレッシュネス）」の認証取得者は 36.2%、「以前から内容まで知っていた」 20.8%、「以前から聞いたことがあった」 32.9%で、以上を合計した認知率は 89.9%を占めた（Q11）。

認知率は、「認証取得済」 + 「以前から内容まで知っていた」 + 「以前から聞いたことがあったが内容まで分っていなかった」の合計である。

②「日持ちさん」

「日持ちさん」認知率は 61.6%、認証取得済の生産者は 14.1%だった（Q12）。

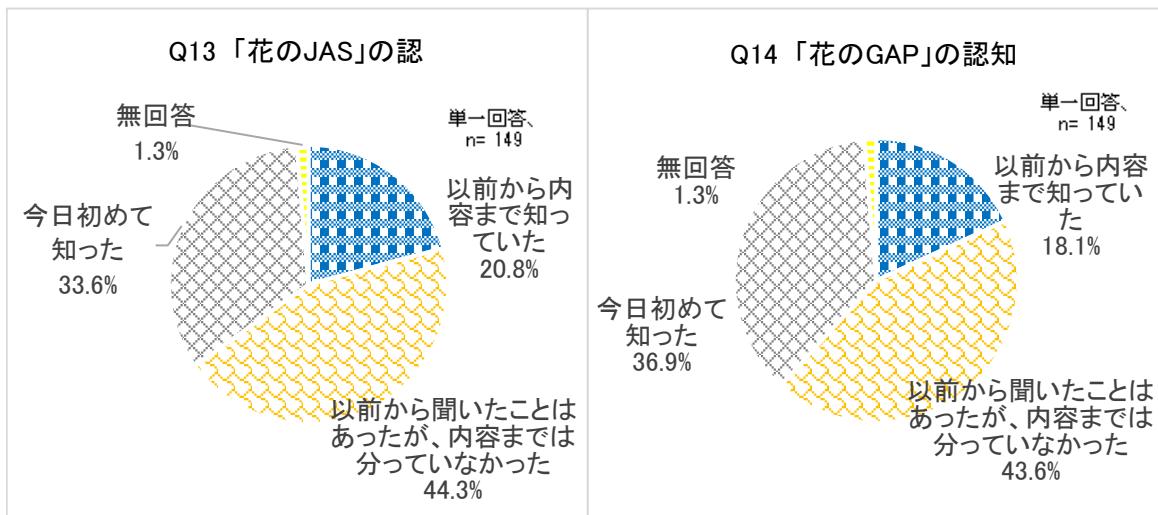


③「花の JAS」の認知

「花の JAS」は、セミナー前の認知率 65.1%、セミナーで初めて知った人が 33.6%だった (Q13)。認証実務はまだ始まっていないため「認証取得済」の選択肢はなく、花の JAS と GAP の認知率は、「以前から知っていた」と「以前から聞いたことがあったが内容まで分っていなかった」の合計である。

③「花の GAP 認証」の認知率

「花の GAP 認証」については、セミナー前の認知率 61.7%、セミナーで初めて知った人が 36.9%だった (Q14)。なお、現在ある主な花の GAP は、MPS-GAP (日本では 2018 年開始) と、グローバル G.A.P.の花き認証 (消費者向けラベルは GGN) である。



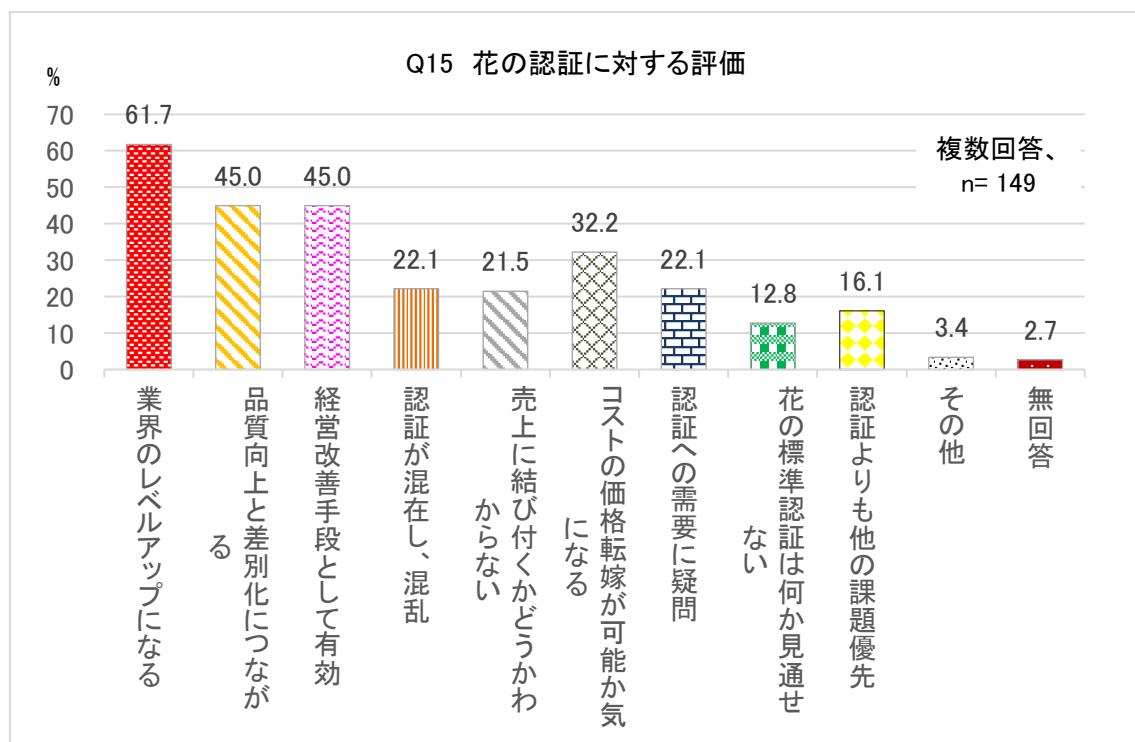
(2) 花の認証への評価

花の認証一般について、生産者の評価を尋ねた (Q15)。花の認証は、「業界のレベルアッ

プ」(61.7%) や「品質向上と差別化手段」(45%) 「経営改善手段」(45%) としての有効性に期待がかけられている。一方、「コストや事務負担の価格転嫁」(32.2%) や「認証への需要」(22.1%)、「売上への結び付き」(21.5%) など、認証が経営的に引き合うものかどうかについて、疑問は根強い。

また、「認証が混在し、混乱」(22.1%)、さらに、他の作物では GAP が推奨されているが、花には規範的・標準的認証がないことから、「何が標準になるのか見通せない」(12.8%)、という躊躇もある

また、農家の 16.1%は、認証よりも「他の課題を優先したい」と考えている



認証評価の自由回答 (Q15_FA)

- 花は生ものでもあるが、ほとんどは食べ物ではない生産品です。その中で、一嗜好品として、製品としての花の価値を上げるために必要なことなのかとは思います。
- GGAP は日本に合わない部分があるのではないか？
- 認証団体の認証商売でしかない。

(3) 認証内容に関する選好

以下、回答者にとって望ましい認証の内容について、項目別に 4 点尺度で尋ねた。

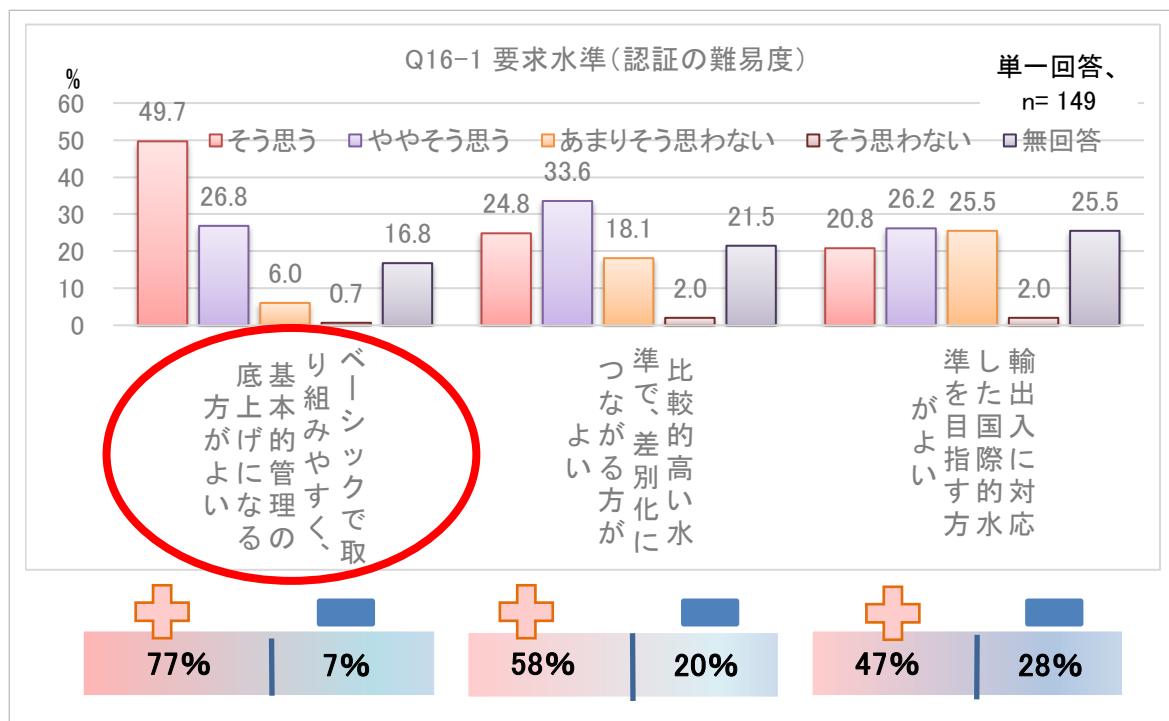
認証の内容選択肢は 4 段階だが、以下、「そう思う」「ややそう思う」の合計を肯定的、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計を否定的姿勢とみなして集計している。

①難易度（要求水準）

認証の難易度（要求水準）としては、回答者の 76.5%が「ベーシックで取り組みやすい水準」を支持している（Q16-1）。

「差別化につながる高めの水準」では、肯定的評価がやや 58.4%へとやや下がる。

「輸出対応の国際的水準」を評価する割合は、半数以下の 47%だった。

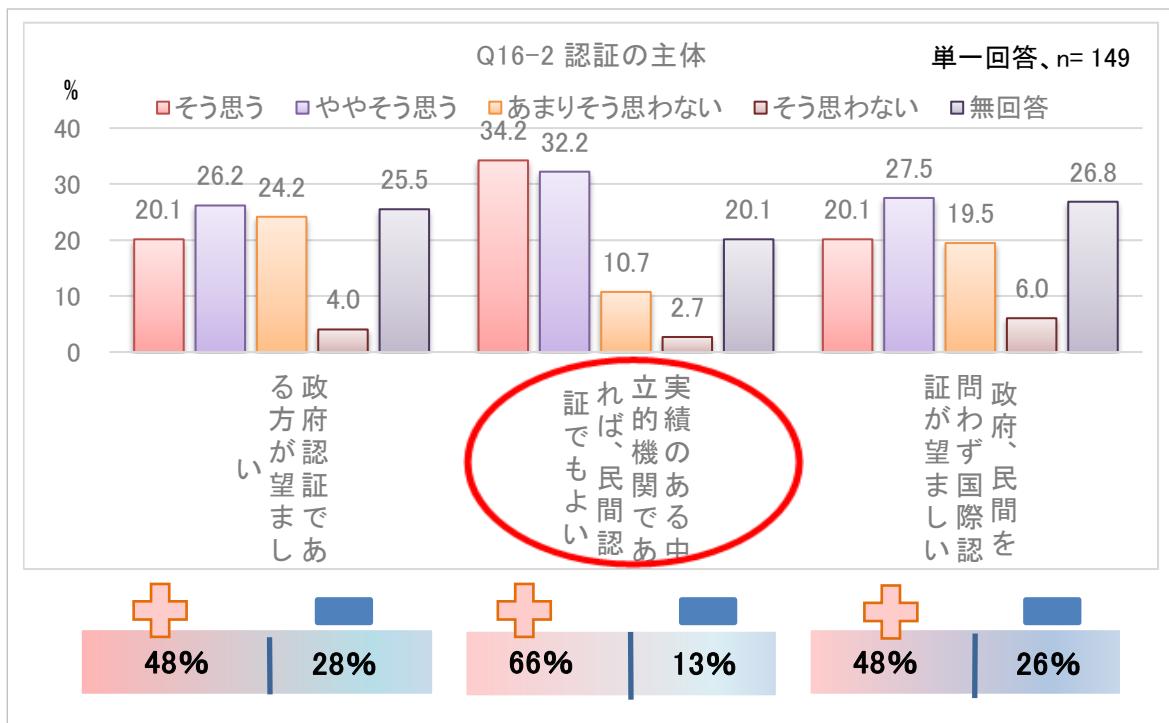


②認証の主体

認証の運営主体については、66.4%の回答者は、「民間認証でよい」と考えている（Q16-2）。

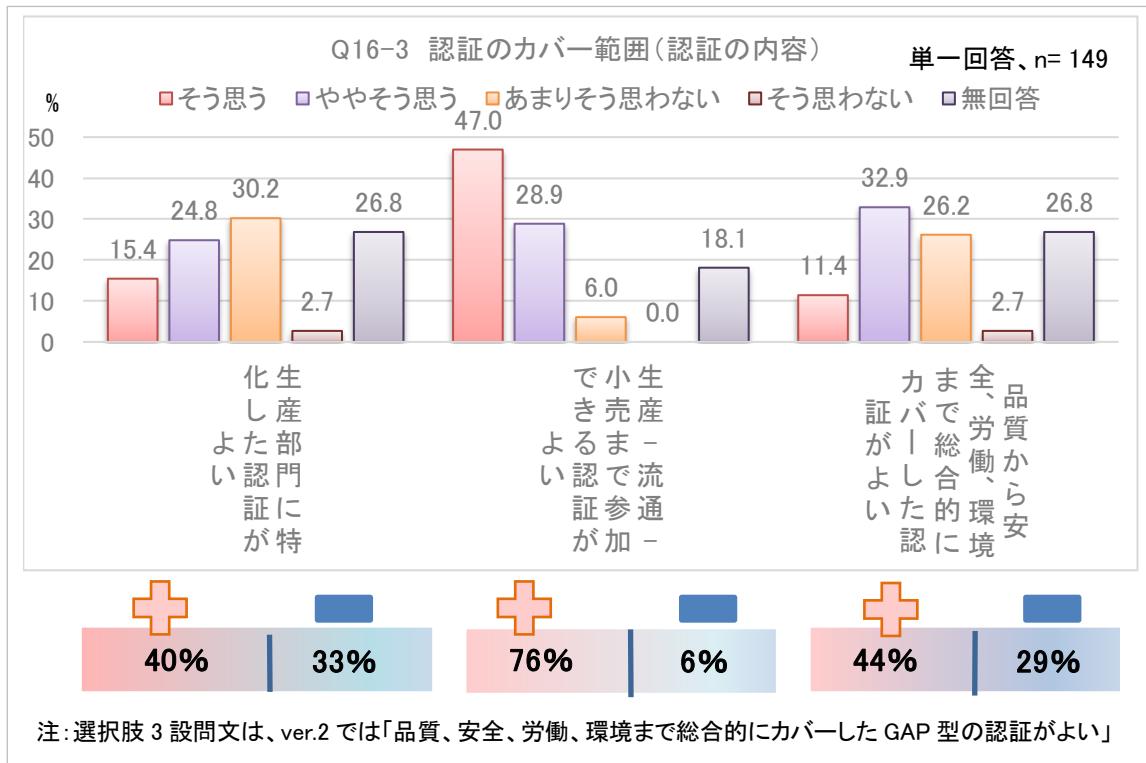
生産者にとって、政府による認証であることは、さほど重視されない。「政府認証」への支持は 46.3%、あまり望ましいと思わない人は 24.2%で、無回答も 25.5%と高めである。小売調査においては政府による認証に対する評価が高く、肯定評価は 100%であったのとは対照的である（小売調査 Q15-2）。

「国際認証」については、47.6%が肯定的だった半面、無回答が 26.8%と高く、現実的選択肢ととらえられていない可能性がある。



③カバー範囲

生産部門特化型（40.2%）よりも、生産～流通～小売と、サプライチェーンを通じて品質管理を行う形の認証（75.9%）への評価が高い（Q16-3）。

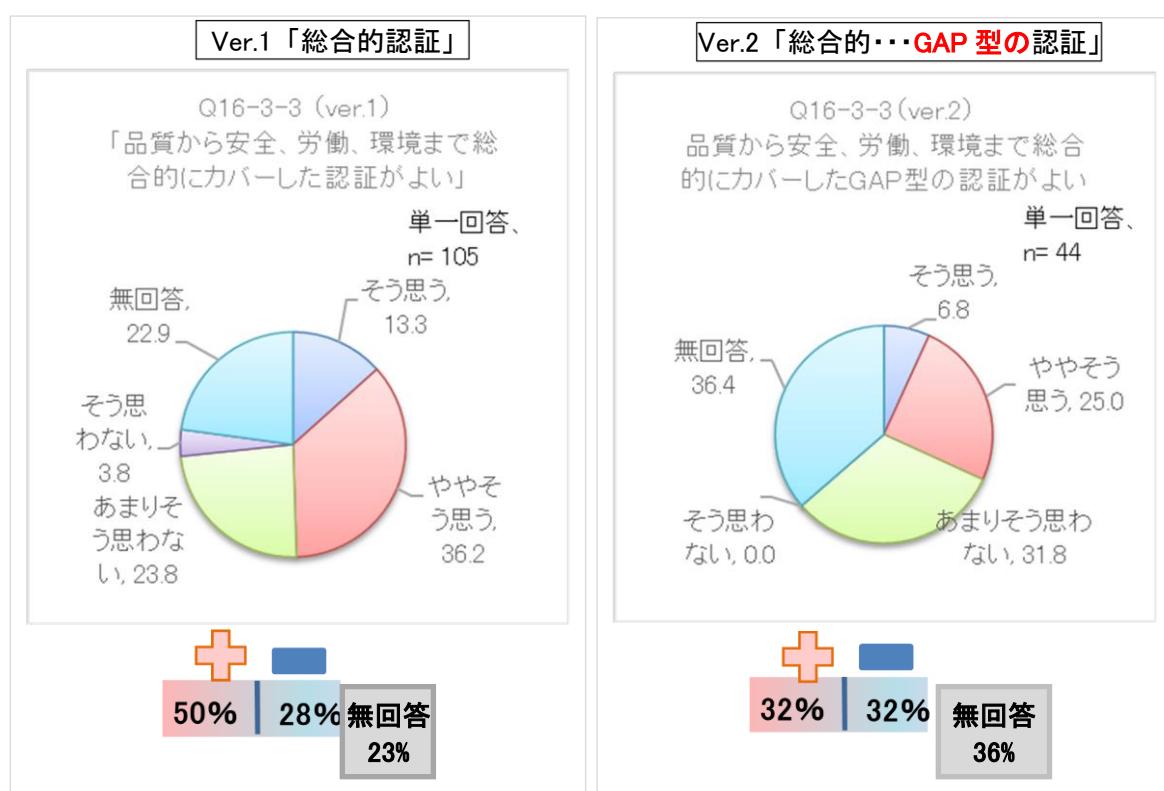


<補足 設問文ワーディング別評価の差：「総合的な認証」か、「GAP」>

選択肢3の設問文は、ver.2では「品質、安全、労働、環境まで総合的にカバーしたGAP型の認証がよい」となっている。

認証のカバー範囲に関する設問の選択肢の中（Q16-3-3）で、「総合的な認証」への評価を聞く際、調査票のVer.2では、「GAP型」のという語を加えてみたところ、無回答が増え、肯定的回答が減るという結果になった。「総合的認証」だと肯定49.5%、無回答は22.9%だが、「総合的…GAP型の」と入れた場合は、肯定的評価が31.8%に下がって否定的評価(31.8%)と同水準になり、無回答は36.4%になった。

GAPは日持ち品質管理認証よりも、さらにハードルの高いものと考えられているという解釈も可能な結果である。ただし、ver.2はサンプルサイズn=44人と少なく、セミナーごとの参加者層の違いもあり、あくまで参考値である。



④認証取得の検討条件

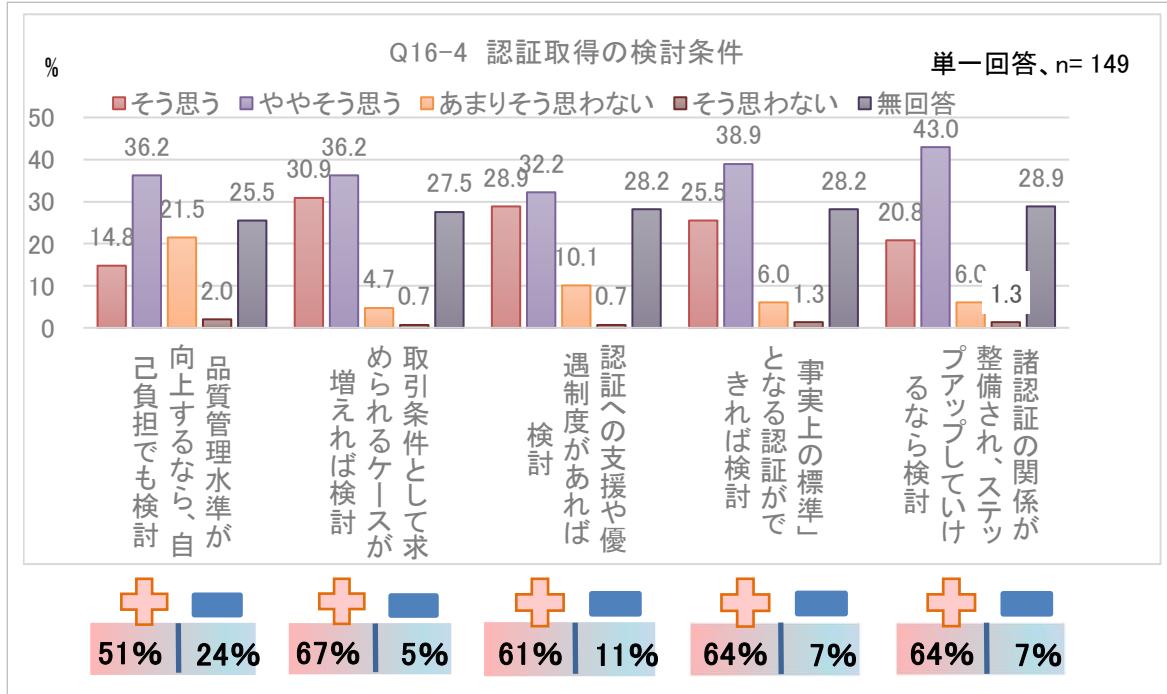
認証取得を検討する条件として、生産者は「取引条件として求められることが増え」ること（67.1%）を最も重視している（Q16-4）。

また、「事実上の標準となる認証ができれば、扱いたい」（64.4%）、「認証間の関係が整備され、ステップアップしていくなら扱いたい」（63.8%）も考慮条件として挙げられており、認証スキーム（間）の見通しとわかりやすさが求められている。

一方、品質管理向上を目指して「自己負担でも扱いたい」は51%で生産者の半数は、認証取得を自身の課題として、前向きに受け止めている。

認証品取り扱いの検討条件として、小売店調査では「支援や優遇制度があれば」が71.4%

で最も高かったが（小売店調査 Q15-5）、生産者は優遇制支持は 61.1%と、小売ほど高くなく、むしろ取引先の反応を注視している。



5. 認証に対する支払意思額

(1) 「花の JAS」認証費用に対する支払意思額

花きの各認証に対して、生産者に認証費用の支払意思額（WTP=Willingness To Pay）（年間、審査交通費等除く）を尋ねた（Q17）。² 日持ち管理認証については、すでに一定の認証金額で制度が運用されているので、質問しなかった。

「花の JAS」では半数（50%）が「3万円程度」と回答している。

(2) 「花の GAP」認証費用に対する支払意思額

「GAP 国内認証」の場合、「3万円程度」は 41.6%。「5万円程度」が 19.5%である。

「GAP 国際認証」では「3万円程度」は 34.9%に減り「50万円程度」の回答も 1.3%ある。

20万円程度以上を選ぶのは、MPS など花き認証取得済の生産者や法人経営者が多い。

(3) 生産者の許容額

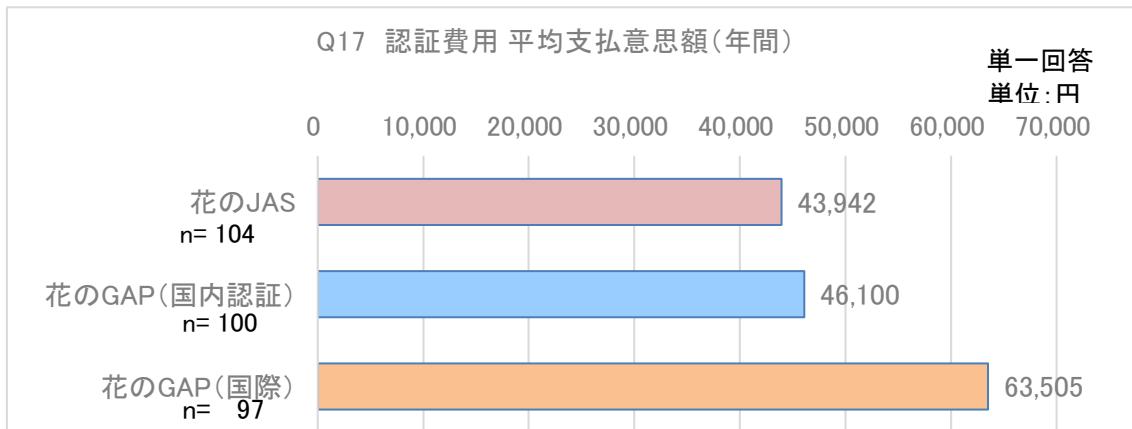
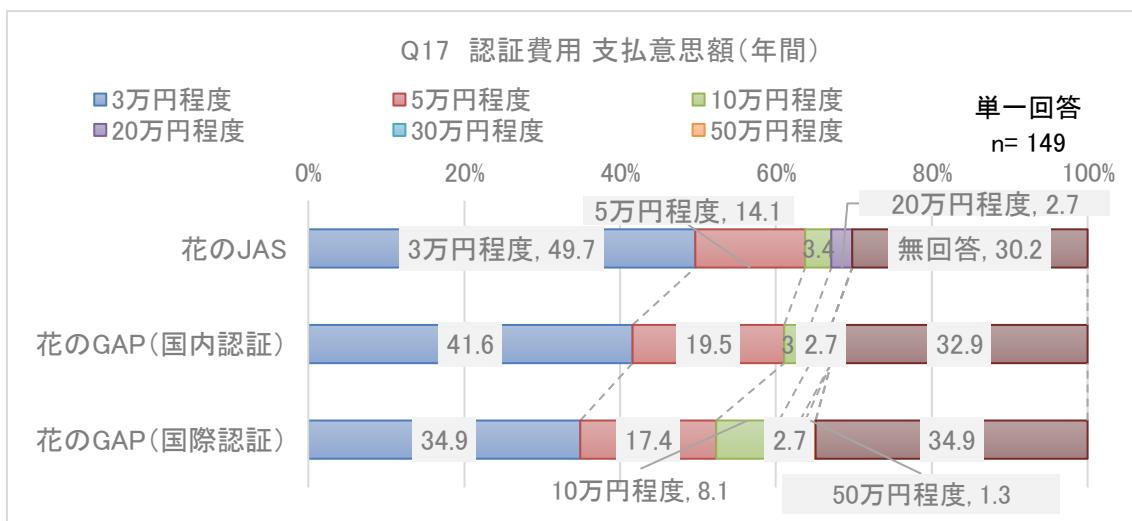
認証費用の平均支払意思額（無回答者を除く）を算出すると、「花の JAS」43,942 円、

² 支払意思額（WTP = Willingness to Pay）は、ある問題の解決や新しいサービスなどに対して、人々が最大限支払ってもよいと考える金額。WTP の調査は、環境経済学の分野でよく用いられる。通常、アンケートで直接市民に尋ね、便益を推計する。質問の尺度や順序など設問設計によって結果が変わるというバイアスがあり、回答者が現実に市場で回答通りに振る舞うとは限らないが、まだ市場にない財やサービスの受容や社会的効用について、比較的低成本で調べられるというメリットがある。

「GAP 認証（国内）」 46,100 円、「GAP 認証（国際）」 63,505 円となる。

支払意思額の調査結果を見ると、政府認証（JAS）、民間認証（国内 GAP）、国際認証（GAP）に関わらず、認証費用で生産者が許容できる価格は「3万円以下」が最多である。家族経営が半数で、許容額は低い。平均支払意思額は、選択肢の下限を「3万円程度」にして算出したもので、これを仮に「5,000 円」に下げたとすれば、支払意思額は大きく下がるのではないかと推測される。

認証取得済や法人経営者的一部では支払意思額が市場価格に近い回答もあるが、3割は無回答で取得に興味がない（値が付かない）か、「認証」になじみがなく相場観がわからず、回答が困難だったと推測される。



注:無回答者を除く。平均値は、「3万円程度」は「3万円」（以下同）とし、「50万円以上」はそれ以前の選択肢の増分から70万円と仮定（「30万円」から「50万円」=20万円と同じ）して算出した。審査交通費等は除く。

6. 生産者の声

花の品質管理や認証について、自由回答で生産者の意見を聞いた（Q18）。

「認証金額が高い」という意見が多い。「認証の数が多くないので、まとめてほしい」とい

う声もある。

また、「消費者へもっと認証のメリットを伝えてほしい」という不満が複数ある。「小売店、消費者に認証が浸透する前に、なぜ生産者だけが認証のコスト負担をしなければならないのか」という不公平感もつづられている。

認証を広めるにあたり、店頭や消費者レベルでのコミュニケーションや、取得者のインセンティブのあり方など多くの課題があることが、生産者の生の声に端的に表れている。

Q18 花の品質管理や認証についての生産者の意見(自由回答、抜粋)

- コールドチェーン、リレーフレッシュネス等については知っているが、家族経営の農家が多く、設備の導入にかかる資金が問題となっている。
- リレーフレッシュネスを取得しているので、(他の認証は)不要。もっと消費者へメリットを伝えてほしい。生産者の所得につながないと、取得件数の向上や、取り組み姿勢の変化はしづらい。
- 花の生産をはじめたばかりで、かつ、小規模で家族のみで生産している我が家では、少し不安があります(認証が受けられず、出荷を市場にすることができなくなってしまうのではないか)。
- 消費者サイドにも広く理解をしてほしい。
- 品質管理、確かに重要ですが、追えば追うほどコストは上がる。薬剤が有効なのはもちろんわかりますが、自然と共に生きるのが農家です。薬剤はそのまま捨ててもいいのか?できるだけ、生産の技術で花持ちを大幅に伸ばす努力をしたい。自然素材の花持ち剤であれば、積極的に使いたい。
- 野菜でもそうだが、認証の数が多くなりすぎている。国内で取得すべき認証をまとめた方がよい。
- 認証の金額が高くなると、やりたくない。団体で安く。個人では高い(同様の回答複数)
- 鶏が先か、卵が先か...そんな話になるかもしれません、花屋さん、消費者までこうした取り組みが浸透する前に費用の掛かる認証の必要性には、疑問を感じてしまいます。
- 皆が取り組めるものとより高度なもの、またはレベルを2段階に設けてもよいかもしれない。

7. 生産者調査からみた JAS 受容可能性

(1) 認証へのリテラシー

品質管理の実態(回答者44名)を聞くと、回答者の18%はハサミ等の使用前消毒をまったく行っていない。記録はあまり保存されておらず、データ活用にもつながっていない。現状を鑑みると、まずはベーシックなレベルで認証へのリテラシーを広げ、業界の品質管理の水準の底上げを図ることが必要と考えられる。認証は信頼のインフラであり、生産者だけでなく、小売など他段階のプレーヤーや、農業以外の産業と共に通の意識・言語を持つことにつながる。

(2) 認証に対する両義的評価

認証に対する生産者の評価は、両義的である。管理技術向上などプラス面は評価されてい

る一方、コストの価格転嫁や認証の需要への懸念がある。

また、「生産～流通～小売」一体型の認証への支持は高い一方、小売や消費者へのアピール不足という不満が寄せられている（自由回答、ヒアリング）。

支払意思額の調査結果を見ると、認証費用で生産者が許容できる価格は下限の選択肢である「3万円以下」が最多である。家族経営が半数で、経済的な許容額は低いということも理由の一つと思われるが、それとともに、認証のメリットに関する理解が共有されておらず、インセンティブ設計に課題があることが示唆される。

(3) 諸認証の全体スキームの見通しが必要

花き認証に対する川下での需要が見えにくいうえ、認証も似たスキームが混在してわかれにくいため、生産者には、特定の認証に経営資源（コスト、時間）を投下しても、回収できない（サンクコスト）になるのではという疑念がある。中期的には、諸認証の関係を調整し、ステップアップを促す「見通し」を提示すべきと考えられる。

(4) 流通～消費者への認証アピールと、生産者へのフィードバック

生産者は品質管理のために、労力的にも経済的にも、コストを負担している。認証取得の検討条件として、「取引条件として求められれば」が最多であることと併せて考えるとなおさら、流通および小売店頭や消費者向けの認証アピールは、生産者にとっても重要である。さらに、川中～川下での取り組みやPR情報を、生産者へフィードバックし、見える化していく取り組みが必要だろう。

(5) 中期的課題

現状、生産の各段階において、データ活用（継続的品質改善のツール）はおろか、記録保存までいたっていない花農家は少なくない。また、労働、安全、環境までカバーする（GAP型）総合的認証について、花農家の関心は高いとはいえない。しかし、認証はIT化＝栽培・経営情報のデータ化・可視化と親和性が高いので、将来を見据えた見通しが要る。

IV 花小売店調査

1. 結果の要約

小売店調査のポイントは、以下の通りである。

●品質管理の実態

- ・鮮度保持剤は、「いつも使用する」が4割。桶の洗浄は「水だけ」が57%。花の下げ時は、あらかじめ基準を設定している店舗はほとんどなく、首下がりなどの見た目の判断が主である。
- ・日持ち保証販売の実施店舗は14%、認知率は100%である。日持ち保証販売を実施する場合の不安点として、7割が継続的に取り組めるかどうかについて懸念している。

●認証の認知

- ・日持ち管理認証（「リレーフレッシュネス」や「日持ちはん」）の認証取得者は29%、認知率は86%。
- ・「花のJAS」はセミナー前（事前）認知率71%、事後認知率29%。「花のGAP」認知率は事前29%、事後71%。

●さまざまな花の認証に対する評価

- ・認証は「業界のレベル向上」（86%）「品質向上と差別化」（43%）「経営改善手段」（43%）として評価される半面、一方、「コストや事務負担の価格転嫁」（29%）や、「売上との結び付き」（14%）など、生産者同様、経営面での疑念もある。

●認証に対する姿勢

- ・要求レベル：「ベーシック水準」と「差別化・高めの水準」の支持が拮抗。
- ・認証の主体：生産者と比べると、政府による認証の方が評価が高い（肯定評価100%）。
- ・内容：生産～流通～小売と、サプライチェーンを通じた形の品質管理認証（100%）が支持されている。
- ・検討条件：「支援や優遇制度があれば」が71.4%で最も高い。

●認証品扱いの許容価格（支払意思額）

- ・「日持ち管理認証」は、通常価格と10%増が43%ずつ、「花のJAS」では、ややプレミアム価格が上がる（10%増43%、20%増が29%）。「GAP」は、国際認証の場合、7割以上が、何らかのプレミアム価格を受け入れている。

2. 実施概要

(1) 調査方法

花き小売関係者に対し、品質管理の実態や花の認証の認知度、評価、支払意思額を調査する。「花き日持ち性向上対策推進セミナー」(全国9か所)の参加者を対象に、アンケートを実施した。アンケート用紙(QRコード付きで、ウェブ回答も可能)を配布し、セミナー終了後回収した。全体で小売店の参加者は9名、うち7名回答で、回収率は77.8%だった。

(2) 回答者属性

調査回答者は、花小売店関係者7名。回答者の店舗は、1店舗43%(スタッフ数3~5人)、3~5店舗28.6%で、個店が多かった。

本年度実証事業は生産者が主対象のため、小売については付随的調査として、参考値にとどめる。また、日持ち啓発セミナーの参加者へのアンケートであるため、花小売店一般を代表する数値ではない。日持ち保証販売の認知や実施率をはじめ、全般的に数値が高くなっている可能性が高く、注意が必要である。

3. 小売店での品質管理の状況

(1) 鮮度保持剤の使用

鮮度保持剤は、水揚げ時、店頭陳列時とも、「いつも使用する」が4割を占めた(Q1、Q2)。顧客への鮮度保持剤配布は、「すべての商品に無料提供する」43%、「一定金額以上のお客様に無料提供する」29%と、多くの店舗で行っている(Q3)。

(2) 桶の洗浄

桶を洗う道具は、「たわし」57%、「スポンジ」29%だった(Q4-1)。桶を洗うタイミングは「花の入荷時」57%、「汚れたと感じた時」29%だった(Q4-2)。桶を洗う際の使用薬品は、「中性洗剤使用」が29%、一方、「水だけ」で薬剤は使用しない店舗が57%で多数を占めた(Q4-3)。

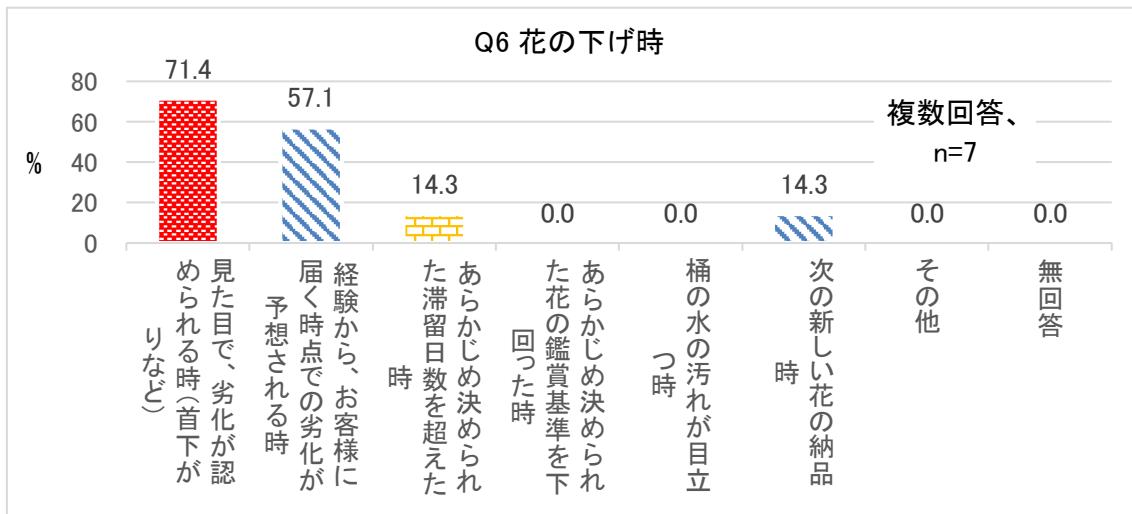
(3) 花の店頭陳列(滞留)日数

お花の店頭陳列(滞留)日数は、「4日」57%、「5日」15%だった(Q5)。

(4) 花の下げ時

① 下げ時の判断

花の下げ時の判断は、首下がりなどの見た目(71%)や経験(57%)が主である(Q6)。花の下げ時について、あらかじめ基準を設定している店舗はほとんどない。



② 下げた花の扱い

下げた花の扱いについて尋ねたところ、「破棄」が 71% を占めた (Q7)。ブーケなどに仕立て直している店舗はゼロで、「サービス品として値引き販売」は 41% だった。

(5) お客様の家での想定日持ち日数

お客様の家での想定日持ち日数は、キクでは「10 日以上」が 43%、バラでは「3 日」「5 日」がともに 43%、カーネーションでは「10 日」 43%、ガーベラでは「5 日」が 43% だった (Q8)。切り花全般では、「5 日」 29%、「7 日」 57% で、7 日以下が多数であった。

ブーケについては、「3 日」「5 日」「7 日」がそれぞれ 29% ずつで、他の花より日持ちの想定が短めだった。

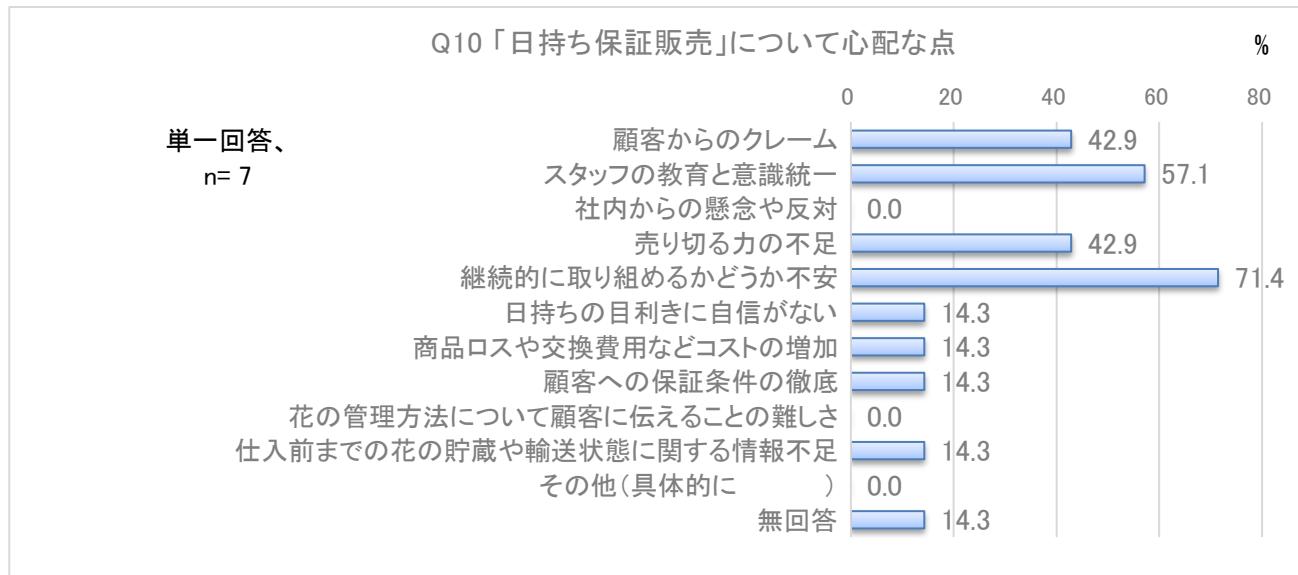
別途行った消費者調査では、ブーケでは他の切り花より日持ちの要求が厳しく、10 日以上を望む人が 45.7% にも達しており、期待されている日持ち日数と、花店が想定する日持ち日数との間の差が大きい。

(6) 「日持ち保証販売」の認知

日持ち保証販売の実施店舗は 14%、認知率は 100% だった (Q9)。ここでの認知率は、「以前から内容まで知っていた 43%、「以前から聞いたことがあったが内容まで分っていなかった」 43% と、実施店舗 14% の合計である。

(7) 「日持ち保証販売」について心配な点

「日持ち保証販売」について心配な点について、選択肢から複数回答で選んでもらった (Q10)。不安点として、7 割が「継続的に取り組めるかどうか」という点を懸念している。



4. 品質管理認証に対する小売店の認知と評価

(1) 花の認証の認知率

① 「日持ち管理認証」の認知率

日持ち管理認証（「リレーフレッシュネス」や「日持ちさん」）の認証取得者は 29%、「以前から内容まで知っていた」43%、「以前から聞いたことがあった」14%で、以上を合計した認知率は 86%を占めた（Q11）。認知率は、「認証取得済」 + 「以前から内容まで知っていた」 + 「以前から聞いたことがあったが内容まで分っていなかった」の合計である。

② 「花の JAS」の認知

「花の JAS」は、セミナー前の認知率 71%、セミナーで初めて知った人が 29%だった（Q12）。認証実務はまだ始まっていないため「認証取得済」の選択肢はなく、花の JAS と GAP の認知率は、「「以前から知っていた」と「以前から聞いたことがあったが内容まで分っていなかった」の合計である。

③ 「花の GAP 認証」の認知率

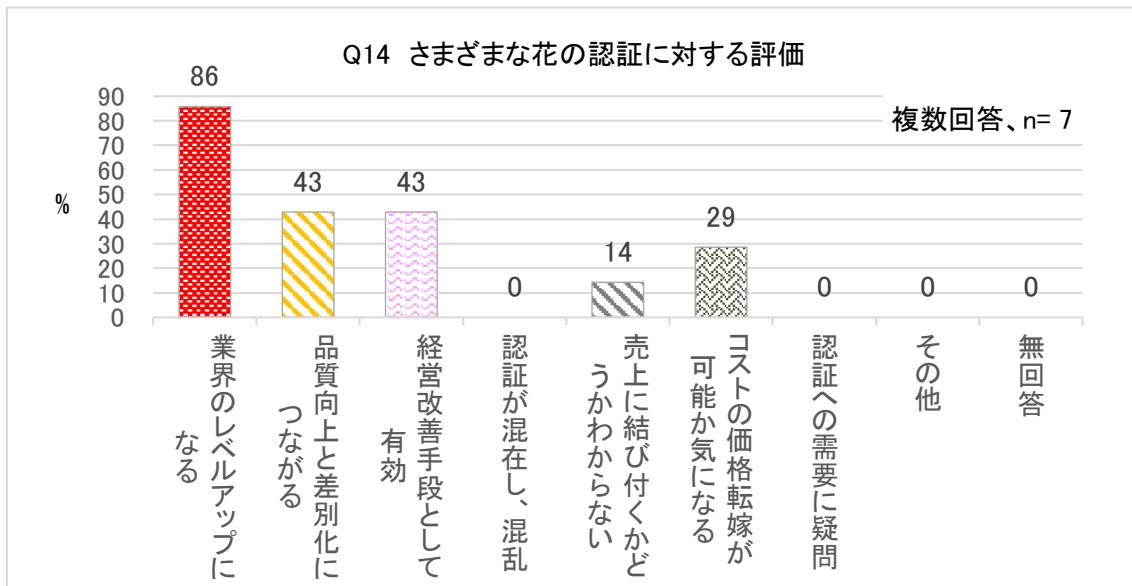
「花の GAP 認証」については、セミナー前の認知率 29%、セミナーで初めて知った人が 71%だった（Q13）。なお、現在ある主な花の GAP は、MPS-GAP（日本では 2018 年開始）と、グローバル G.A.P. の花き認証（消費者向けラベルは GGN）である。

(2) 花の認証への評価

花の認証への評価を尋ねた（Q14）。花の認証は、「業界のレベルアップ」（86%）や「品質向上と差別化手段」（43%）、「経営改善手段」（43%）としての有効性に期待がかけられている（生産者と共に）。

一方、「コストや事務負担の価格転嫁」（29%）や、「売上との結び付き」（14%）など、認

証が経営的に引き合うかどうかについても、生産者調査と同様に疑問が持たれている。



(3) 認証内容に関する選好

以下、回答者にとって望ましい認証の内容について、項目別に 4 点尺度で尋ねた。

認証の内容選択肢は 4 段階だが、以下、「そう思う」「ややそう思う」の合計を肯定的、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計を否定的姿勢とみなして集計している。

①難易度（要求水準）

まず、認証の難易度（要求水準）としては、「ベーシックで取り組みやすい水準」と「差別化につながる高めの水準」の評価が拮抗している（Q15-1）

②認証の主体

政府による認証に対する評価が高く、肯定評価は 100%である（Q15-2）。生産者調査では、政府認証に対する支持は 6 割台であったのに対し、対照的な結果となった。

③カバー範囲

生産部門特化型（42.9%）よりも、生産～流通～小売と、サプライチェーンを通じて品質管理を行う形の認証（100%）が支持されている（Q15-3）。生産部門特化型とサプライチェーン型を両方選んでいる回答者が 4 割いることになり、回答に矛盾はあるものの、小売店としては、自らも包摂されるような認証形態を望んでいると解釈する余地はある。

④小規模事業者への配慮

中小事業者に配慮した裾野の広い認証と、高い水準のステータスある認証への評価は、同水準であった（Q15-4）。

⑤認証品取り扱いの検討条件

認証品取り扱いの検討条件としては、「支援や優遇制度があれば」が 71.4%で最も高い（Q15-5）。（生産者では、「取引条件として求められることが増えれば」が首位）。次いで、「事実上の標準となる認証ができれば、扱いたい」「認証間の関係が整備され、ステップアップしていくなら扱いたい」がそれぞれ 57.1%だった。

一方、品質管理向上を目指して「自己負担でも扱いたい」小売店は 42.9%と半数を割っている。

表 認証内容に関する選好 肯定:否定評価集計(花小売店)

項目	肯定的	否定的
Q15-① 要求水準		
(1) ベーシックで取り組みやすく、基本事項の底上げになる方がよい	85.7	14.3
(2) 高い水準で、差別化につながる方がよい	85.7	14.3
(3) 国際水準で輸出入にも対応した水準を目指す方がよい	57.1	42.9
Q15-② 認証の主体		
(1) 政府認証である方が望ましい	100.0	0.0
(2) 実績のある中立的機関であれば、民間認証でもよい	71.4	28.6
(3) 国際認証か、国際規格に対応した認証が望ましい	71.4	28.6
Q15-③ 認証のカバー範囲		
(1) 生産部門に特化した認証がよい	42.9	42.9
(2) 総合的な品質保証には、生産-流通-小売まで参加した認証がよい	100.0	0.0
(3) 品質だけでなく、安全、労働、環境まで総合的にカバーした認証がよい	57.1	42.9
Q15-④ 小規模事業者への配慮／要求水準		
(1) 中小事業者の負担に配慮し、参加者の裾野を広げた認証の方がよい	71.4	28.6
(2) 高い水準の達成に重点を置いた、ステータスのある認証の方がよい	71.4	28.6
Q15-⑤ 認証品取り扱いの検討条件		
(1) 全体的な品質管理水準が向上するなら、自己負担でも扱いたい	42.9	57.1
(2) 取引条件として求められるケースが増えれば、扱いたい	28.6	71.4
(3) 認証への支援や優遇制度があれば、扱いたい	71.4	28.6
(4) 業界で「事実上の標準」となる認証ができれば、扱いたい	57.1	42.9
(5) 諸認証間の関係が整備され、ステップアップしていくなら扱いたい	57.1	42.9

5. 認証品の花に対する支払意思額

(1) 「日持ち管理認証」取得品に対する支払意思額

認証品の花に対する受容価格（支払意思額、WTP）について、小売店として、通常品に対してどれくらいの割増価格なら、店での販売を検討するかどうか、尋ねた（Q16）。

「日持ち管理認証」については、通常価格（割増なし）と「10%増」が 43%ずつを占めた。

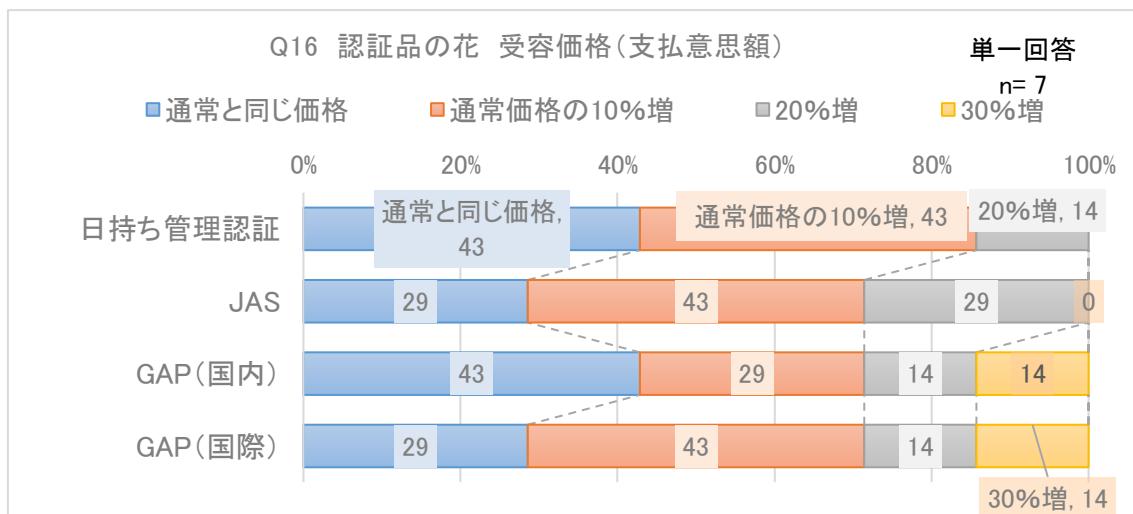
(2) 「花の JAS」取得品に対する支払意思額

「花の JAS」では、既存の日持ち管理認証と比較して、ややプレミアム価格が上がり、「10%増」 43%、「20%増」が 29%となった。一方、「通常と同じ価格」は 29%で、何らかのプレ

ミアム価格を認める回答者が多かった。

(3) 「花の GAP」取得品に対する支払意思額

「花の GAP」は、国内認証では「通常と同じ価格」43%、「10%増」29%だった。一方、国際認証の場合は、回答者の7割以上がプレミアム価格を認めるという結果になった。



6. 小売店調査からみた JAS 受容可能性

認証については、小売店回答者の100%が「生産～流通～小売」を通じたサプライチェーン一体型の認証を支持している。また、政府認証についても、100%が肯定的だった。

認証品の花の扱い受容価格（支払意思額）を見ても、民間の「日持ち管理認証」はプレミアム価格容認は57%と低めだが、「花の JAS」（政府認証）では、71%が通常価格の10%以上の価格を受け入れており、3割弱は20%増でも可と答えている。

GAPは花の小売にはやや距離のあるテーマかもしれないが、国際認証の場合は、JASと同じく71%がプレミアム価格を受け入れている。

花き小売店は、JASはじめ花の認証に対して、経営管理向上などプラス面の効果があると考えている。その半面、生産者同様、認証に伴うコストの価格転嫁や認証品への需要に対する懸念を抱いている。

ただし、以上の結果は、花き小売店対象の調査は、回答者が7名と非常に少ないとため、あくまで参考値である。

V 消費者調査

1. 結果の要約

調査結果のポイントは以下の通りである。

●花の購買行動と日持ち

- ・花の購入率は 45.5%(最近 1 年間)。
- ・購入時、自宅用では 37.9%が「日持ち」重視。価格、花の種類に次いで重視されている。
- ・表示では「日持ち保証」重視は 18.8%。品種、価格販促情報、花の特徴に次ぎ 4 番目。
- ・花を買わない理由としては、「すぐに枯れたりして持たない」(40.8%)がトップ。
- ・満足する日持ち日数は、切花では 7 日位で 6 割が満足、ブーケでは半数弱が 10 日～それ以上の日持ちを期待。鉢物では 3 週間程度で半数が満足するが、2～3 割は「ずっと育てたい」と考える。

●花の管理の知識と実践

- ・花の管理法として、69.8%が水替えを、27.9%が鮮度保持剤を認知。管理の仕方を知らない人は 24.2%。
- ・全体の 45.8%は水替えを実践。鮮度保持剤使用は 10.8%。回答者の約半数=48.3%は花の管理をしない・方法を知らない。

●品質表示、認証に対する認知と評価

- ・「日持ち保証販売」の認知率は 15%、意味まで知っている人は 2.5%。
- ・リレーフレッシュネス(日持ちは向上対策品質管理認証)の認知率は 4.4%。
- ・農産物・加工品のラベルでは、JAS 本体は 8 割を超える突出した認知率があり、「JAS」には認知の底上げ効果の可能性がある。
- ・品質情報の信頼源としては、「ブランド」(65.4%)が最も重視されている。政府認証は 54.4%で比較的高いが、民間の認証は、中立機関によるものであっても 45.9%と信頼度はやや落ちる。

●認証品に対する支払意思額

- ・通常価格=100 として、認証花きに対する平均支払意思額は、以下の順になる。
JAS 認証切花 108.3 > JAS 認証鉢物 108.0 > GAP 認証花 107.8 > 民間日持ち品質管理認証切花 107.6 > 環境配慮の花 107.4 > 民間日持ち品質管理認証鉢物 107.3
- ・通常価格の 10%以上の割増価格を支払ってもよいと考える人々の割合は、支払意思額が最も高かった JAS 認証切花においても、47.4%と半数を切っている。環境配慮と GAP 認証では、花は食品(野菜)に対して相対的に低い評価となっている可能性がある。
- ・認証だけでは、「直接的」割増価格の受容余地は限られる。認証は、消費者の品質知覚やブランドとしての総体的評価向上を通じて、プレミアム価格やロイヤリティ向上に結び付ける手段として重視すべきである。

2. 実施概要

(1) 調査方法

以下では、2018年7月30日(月)～31日(火)にかけて行ったインターネット調査結果について報告する（マクロミル、全国の20～50代男女モニター対象）。単純集計表は、卷末にまとめて掲載している。

(2) 回答者属性

調査回答者は、日本国内の20～50代のインターネットモニター520人である。年齢や男女の比率は、年代ごとにほぼ均等になるように設定し、職業等の属性も極端に偏らないように配分している。

表 回答者の性別と年代分布

	全体	20代	30代	40代	50代
全体	520	25.0	25.0	25.0	25.0
男性	208	25.0	25.0	25.0	25.0
女性	312	25.0	25.0	25.0	25.0

表 回答者の婚姻状況

未既婚	N	%
未婚	213	41.0
既婚	307	59.0
全体	520	100.0

表 回答者の職業

職業	N	%
公務員	12	2.3
経営者・役員	3	0.6
会社員(事務系)	74	14.2
会社員(技術系)	65	12.5
会社員(その他)	68	13.1
自営業	21	4.0
自由業	6	1.2
専業主婦(主夫)	122	23.5
パート・アルバイト	86	16.5
学生	23	4.4
その他	15	2.9
無職	25	4.8
全体	520	100.0

表 回答者の居住地域

地域	N	%
北海道	29	5.6
東北地方	38	7.3
関東地方	171	32.9
中部地方	99	19.0
近畿地方	88	16.9
中国地方	28	5.4
四国地方	14	2.7
九州地方	53	10.2
全体	520	100.0

表 回答者の世帯年収

世帯年収	N	%
200万未満	42	8.1
200～400万未満	97	18.7
400～600万未満	107	20.6
600～800万未満	76	14.6
800～1000万未満	34	6.5
1000～1200万未満	15	2.9
1200～1500万未満	11	2.1
1500～2000万未満	5	1.0
2000万円以上	2	0.4
わからない	56	10.8
無回答	75	14.4
全体	520	100.0

3. 花の購買行動

(1) 最近1年間の花の購入率

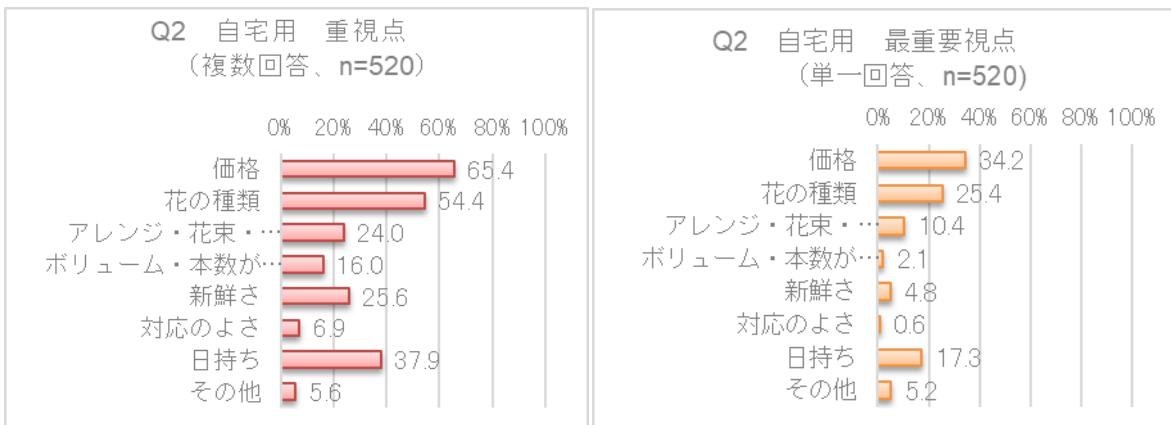
最近1年間の花購入率は45.5%だった（Q1）。「この1年は購入していない」人の比率は41.2%、「今までに花を購入したことはない」人は13.5%を占める。

(2) 花を購入する際に重視する点

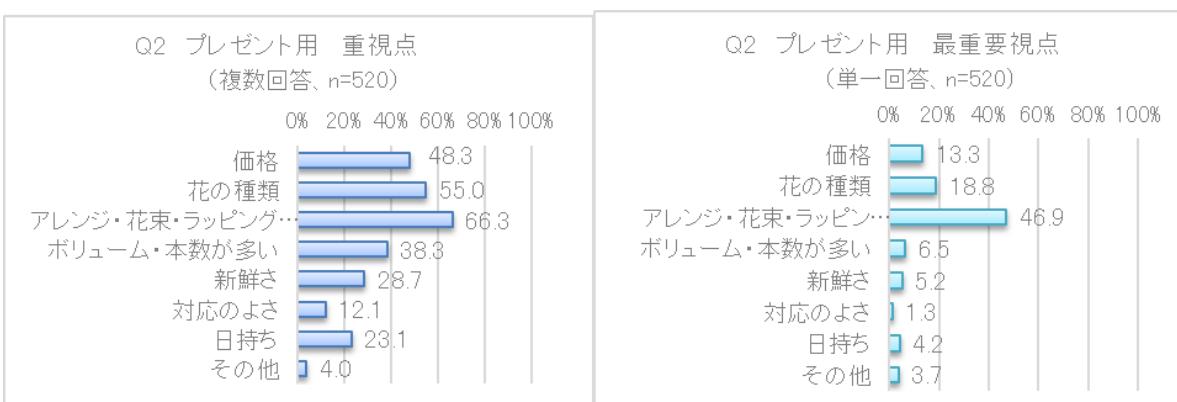
花を購入する際に重視する点について、自宅用、プレゼント用に分けて質問した（Q2）。もっとも重要なものの、重要なものを別々に回答してもらった。

自宅用では、「価格」が 65.4%、「花の種類」 54.4%、次いで「日持ち」 37.9%と続いた。「日持ち」は例年、3 割強で重視されている。プレゼント用では、「アレンジ、花束、ラッピングのセンスのよさ」が 66.3%と突出している。

図表 自宅用 花を購入する際に重視する事柄 重要なこと、最も重要なこと (n=520)



図表 プрезент用 花を購入する際に重視する事柄 重要なこと、最も重要なこと (n=520)

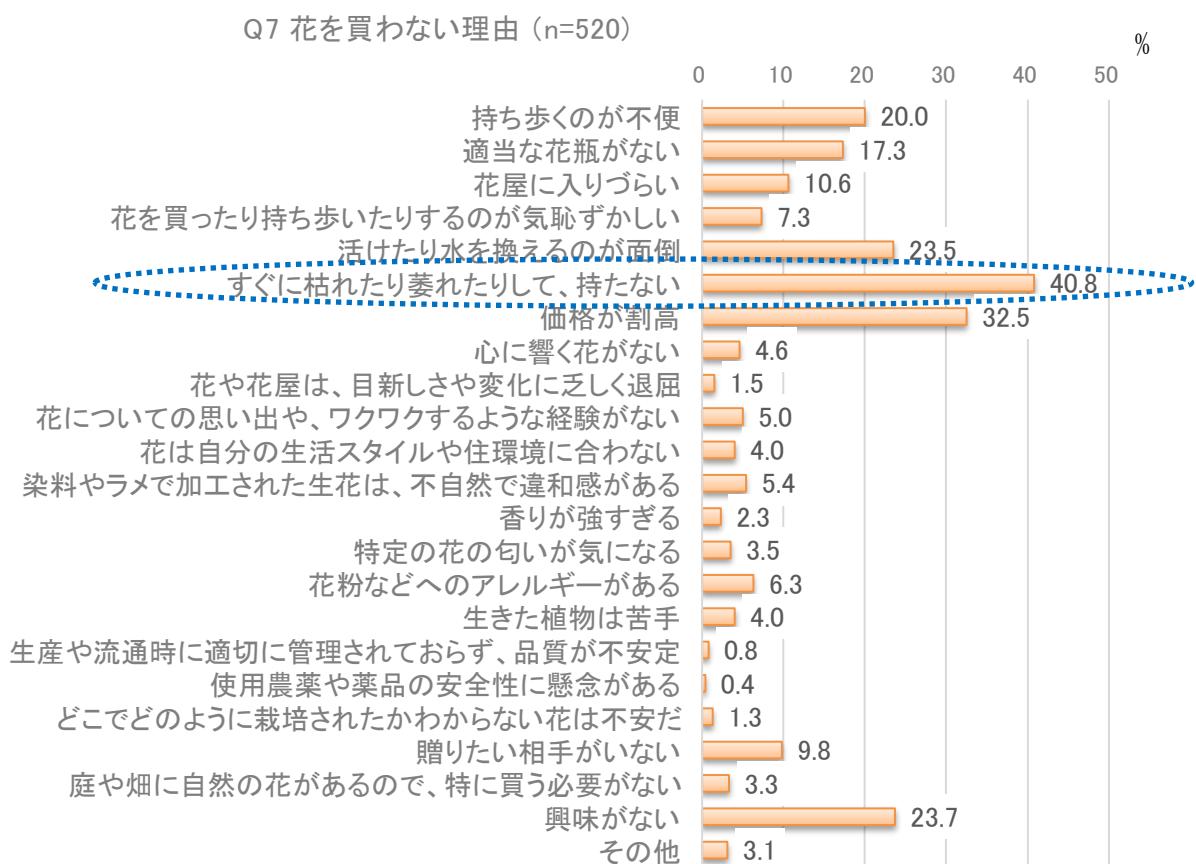


(3) 花を買わない理由

花を買わない理由を、全員に尋ねた (Q3)。花一般でも、特定の花でも、あてはまる選択肢を選んでもらった。

買わない理由としては、「すぐに枯れたり萎れたりして、持たない」と考える人が最も多く、40.8%にのぼった。次いで、「価格が割高」 32.5%、「活けたり水換えをするのが面倒」 23.5%、「持ち歩くのが不便」 20%など、価格や利便性に関する理由が上位を占めた。

図表 花を買わない理由 (n=520)



4. 花の管理

(1) 花の管理についての知識

消費者の花の管理に関する実態と、日持ち保証販売に関する評価について調べた。花の管理の仕方で最もよく知られている項目は、「水替え」69.8%、「花を置く場所に配慮」46.7%、「切り戻し」31.3%、「鮮度保持剤の使用」27.9%だった (Q4)。「花の管理の仕方を知らない」人たちの割合は、24.2%だった。

(2) 実践していること

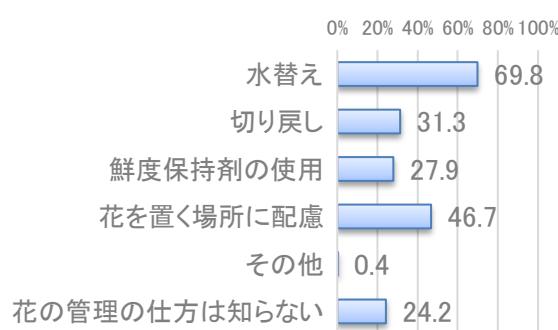
花の管理について、実践度を調べた (Q5)。前問の各選択肢で、「知っている」と答えた回答者に対して、実践しているかどうかを尋ね、全回答者 (n=520) に対する割合を算出した。

日頃実践している花の管理方法の比率は、「水替え」45.8%、「花を置く場所に配慮」22.5%、「切り戻し」15.6%、「鮮度保持剤の使用」10.8%だった。管理の仕方を知らない人 (Q4) と、何も管理を実践していない人 (Q5) を合わせた「花の管理を知らない・実践していない

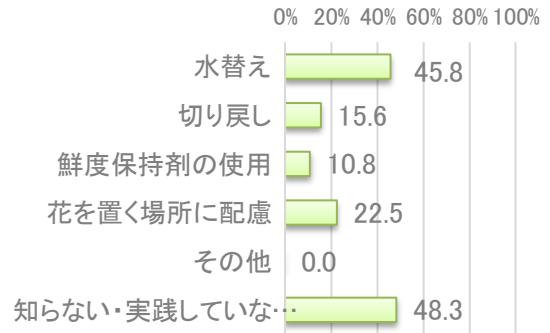
人」の合計は、48.3%にのぼる。

図表 花の管理の仕方として知っていること、実践していること (n=520)

Q4 花の管理の仕方で知っているもの
(複数回答、n=520)



Q5 日頃実践している花の管理
(複数回答、n=520)



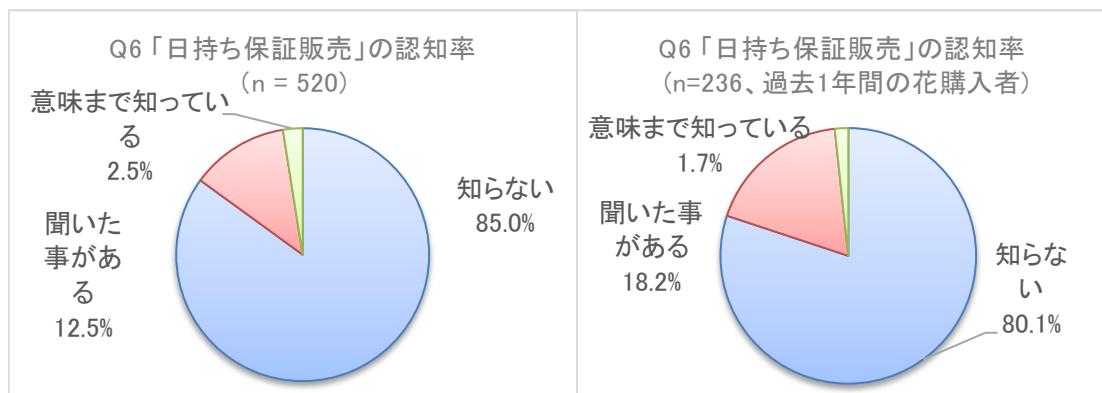
5. 日持ち保証

(1) 「日持ち保証販売」の認知率

「日持ち保証販売」について説明後、認知を尋ねた (Q6) (設問文は「最近、花店やスーパーなどでは、生花の品質保証の試みとして、「日持ち保証販売」が広がっています。これは、花購入後、一定の日数（通常3～5日）以内に枯れた場合、かわりの花との交換を保証するサービスです。あなたは、「日持ち保証販売」を知っていますか？」)。

「意味まで知っている」2.5%、「聞いたことがある」12.5%を合計した「日持ち保証販売」の認知率は15%となる。最近1年の花購入者に限ると19.9%に上がる。一方、購入経験のない層での認知率は4.3%にとどまった。

図表 「日持ち保証販売」の認知率(n=520)



(2) 満足する日持ち日数

切り花と鉢物について、どれくらい日持ちすれば満足と感じるかを尋ねた（Q7、Q8）。

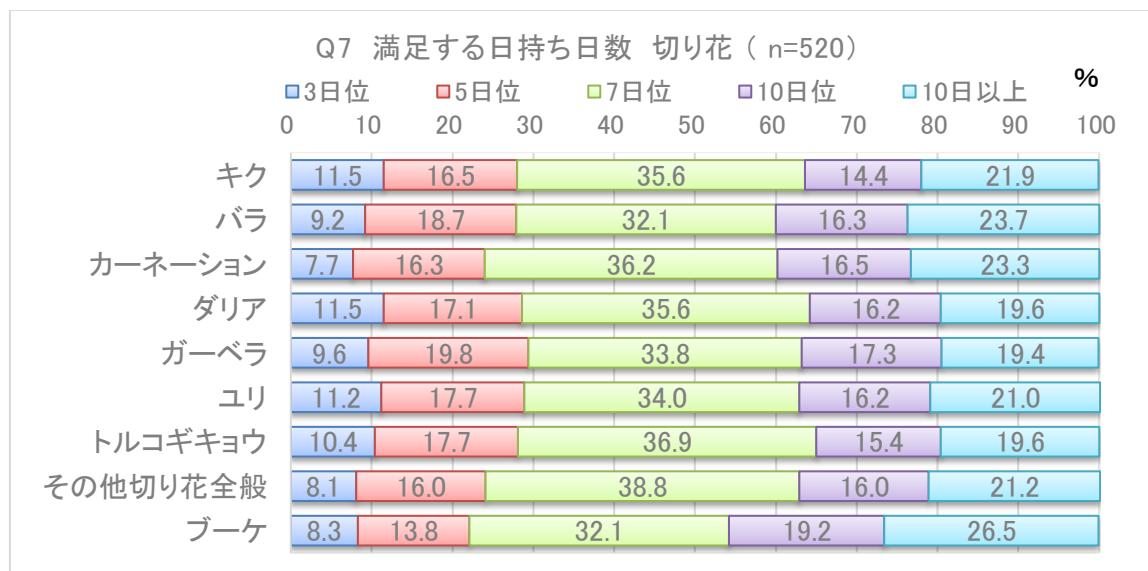
①切り花

切り花では、キク、バラ、カーネーション、ダリア、ガーベラ、ユリ、トルコギキョウ、その他切り花一般、ブーケのそれぞれについて、満足する日持ち日数を尋ねた。

全体として、7割の消費者を満足させるには、10日程度の日持ちが必要である。また、ブーケでは他の切り花より日持ちの要求が厳しく、10日以上を望む人が45.7%にも達する。

農研機構の品目別日持ち保証可能日数の基準によれば、常温（23°C）／高温（30°C）での日持ちは、キク 14日／10日、バラ 7日／5日、カーネーション 10日／7日、ダリア 5日・30°Cでは不可、ガーベラ、ユリはいずれも 7日／5日、トルコギキョウ 10日／7日とされている³。実際に日持ちする日数に対して、消費者の期待する日数は、キクでは短めだが、ダリアなどでは期待値が長い。花の特性について、消費者への啓蒙、情報提供が必要と思われる。

図表 消費者が満足と感じる日持ち日数 切り花・ブーケ(n=520)



②鉢物

鉢物では、アジサイ、シクラメン、パンジー、キク、ポットローズ、ポットカーネーション、ポインセチアおよび「その他鉢物全般」について尋ねた（Q8）。消費者の7割を満足させようとすると、3週間程度の日持ちが求められる。

また、鉢物では、どの品目でも、2～3割の人々が「ずっと育てたい」と答えている。

³ 出典：農研機構花き研究所（2014）『日持ち保証に対応した切り花の品質管理マニュアル 増補改訂版』、81頁。
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/flower/flower-pamph/052743.html

図表 消費者が満足と感じる日持ち日数 鉢物(n=520)



6. 農産物の認証やラベルに対する意識

以下では、農産物の認証・ラベルについて、消費者の考え方を尋ねている（Q9～Q12）。花きの認証は少ないため、比較のため、野菜など他の農産物（一部加工品を含む）も選択肢に含めている。

(1) 農産物のラベルについて

以下のラベルについて、ロゴを提示して認知率をまとめた。各ラベルの内容を要約する。

① 農産物・加工品ラベル

- ・JAS マーク：農林水産省の日本農林規格（JAS）のマーク。品位、成分、性能等の規定
- ・有機 JAS：有機農産物・加工品に付ける認証
- ・生産情報公表 JAS マーク：牛肉等事業者が自主的に食品生産情報を伝え第三者認証
- ・特定 JAS マーク：特別な生産や製造方法に関する JAS 規格。肉やリンゴジュース対象
- ・定温管理流通 JAS マーク：一定温度で流通させている米飯加工品に付される
- ・GI（地理的表示保護）マーク：品質が生産地と結びつく産品の地理的表示を保護。農水省が管理
- ・総合衛生管理（HACCP）厚生労働大臣承認マーク：HACCP衛生管理工場の畜産加工品などに付与
- ・特定保健用食品（トクホ）：保健機能成分の摂取効果を表示。安全性を消費者庁が審査
- ・和牛統一マーク：血統やトレーサビリティ証明付和牛肉。中央畜産会導入。国内外使用
- ・飲用乳公正マーク：消費者庁と公取委の表示規定に従った乳の証。飲用牛乳公正取引協議会運用

- ・トップバリュ グリーンアイ：イオン PB。安全と環境配慮基準で農水産加工品に付与
- ・USDA（米国農務省）有機認証：米政府の有機農業基準に基づく農産物・加工品に付与
- ・MSC（海洋管理協議会）：持続可能な管理漁業に対する認証。海洋水産物にラベル付与
- ・FSC（森林認証）：適切な森林管理に関する認証
- ・JGAP/AsiaGAP（日本版農業生産工程管理認証）：農薬管理など安全や環境保全を担保する生産管理基準
- ・グローバル G.A.P.：農業生産工程管理に関する国際認証。主に食用農産物対象
- ・フェアトレード：開発途上国の生産者や労働者の生活改善の取り組みを認証

②花き認証

- ・MPS（花き産業総合認証）：花きの生産業者と流通業者を対象とした環境負荷低減のための国際認証
- ・MPS ジャパン：MPS 認証の日本におけるマーク
- ・リレーフレッシュネス（花き日持ち品質管理認証）：花きの日持ち品質管理を生産、流通、小売部門で認証
- ・グローバル G.A.P（GGN）花き・植物：グローバル G.A.P.の花と植物に関する国際認証

（2）農産物ラベルの認知率

それぞれのラベルについて、ロゴを見せながら、認知率を調べた（Q9、Q10）（図表 8、9）。認知率は、「見たことがある」「意味がわかる」という回答の数値の合算値を指す。なお、回答者が、他の似たデザインや略称の団体やプログラム、ロゴやシンボルと取り違えて答えている可能性（特に、あまり知られていないラベル）は排除できないことは、考慮しておくべきである。⁴

政府系の認証として、既存の JAS（品質規格）は 8 割を超える認知率を誇る。有機 JAS（45.7%）、熟成肉やリンゴジュースなどを対象にした特定 JAS マーク（調査時点での名称）（12.7%）など、「JAS」を冠したラベルの認知率は相対的に高い。花においても、「JAS」の名称とロゴが付くことで、認知の底上げ効果が得られることが予想される。

花きの認証の認知度は、最も高い MPS でも 6.4% と一桁台にとどまる。なお、グローバル G.A.P. 花き・植物認証の GGN ラベルは、トレーサビリティをうたっているが現状ドイツの生産者が中心で、日本で見る機会は限られるため、認知率は参考値である。

輸出品質 PR 型の表示は、日本国内の產品にも付けられている。たとえば、和牛統一マークは、業界が統一的に品質規格やトレーサビリティを定め、認証を運営・PR しており、2007 年導入と新しいラベルであるが国内消費者認知も 8.9% と比較的高い。

企業 PB では、イオンのトップバリュ グリーンアイは有機や環境負荷削減をうたった、

⁴ 例えば、グローバル GAP のラベル（ユニリーバのロゴに似ている）は基本的に B2B 向けである。FFP は日本ではほとんど目にする機会がなかったうえ、2017 年末にラベル自体が打ち切りとなっている。

リテール主導の環境ラベルといえるが、53.8%と過半数が認知している。ユニリーバとWWF（世界自然保護基金）が運営する水産物のMSCの認知が12.1%、フェアトレードは14.3%と、いずれも国際環境認証としては比較的高いが、日本ではイオンで積極的に取り扱われている。民間企業のイニシアティブが、徐々に浸透しつつあることが示唆される。

農場の生産管理に対して認証されるGAP認証は、基本的にB2Bで、直接消費者に訴求するタイプの認証ではない。特に、グローバルG.A.P.は従来店頭表示を想定しておらず、ロゴによる認知率は参考値である。グローバルG.A.P.でトレーサビリティを打ち出した消費者向け表示GGNはロゴも全く別で、本調査時点ではまだ店頭に出ていなかった。

海外の認証は、政府によるものであっても認知が低めである。USDAのオーガニック認証品は、有機JASと同等性があり、日本にも入っているが、認知は5.4%にすぎない。

図表 農産物ラベルの認知率 (n=520)

運営主体	ラベル	対象	認知率(%)
政府	JASマーク	農産物加工品	84.6
政府・国際	有機JAS	農畜産物、加工品	45.7
政府	生産情報公表JASマーク	特定品目(肉など)	19.8
政府	特定JASマーク	特定品目(熟成肉など)	12.7
政府	定温管理流通JASマーク	米製品	8.7
政府・国際	GI(地理的表示保護)マーク	農畜水産物、加工品	6.5
政府	総合衛生管理(HACCP)厚生労働大臣承認マーク	農産物、加工品	21
政府	特定保健用食品(トクホ)	食品	87.3
民間	和牛統一マーク	和牛肉	8.9
民間	飲用乳公正マーク	乳製品	61.9
企業PB	トップバリュグリーンアイ	農産物、加工品	53.8
政府・国際	USDA(米国農務省)有機認証	農産物、加工品	5.4
民間・国際	MSC(海洋管理協議会)	水産物	12.1
民間・国際	FSC(森林認証)	林産加工品	15.2
民間・国際	JGAP/ASIAGAP(日本版農業生産工程管理認証)	農畜水産物(農場)	6.1
民間・国際	グローバルG.A.P.	農産物(農場)	5.4
民間・国際	フェアトレード	農畜産物(農場)	14.3

図表 花きラベルの認知率 (n=520)

運営主体	ラベル	対象	認知率(%)
花き・国際	MPS(花き産業総合認証)	花き(農場・流通)	6.9
花き・国際	MPS ジャパン	花き(農場・流通)	5.6
花き・国際	グローバルG.A.P.花き・植物認証	花き(農場)	4.6
花き	リレーフレッシュネス(花き日持ち品質管理認証)	花き(農場・流通)	4.4

(3) 品質情報の信頼源

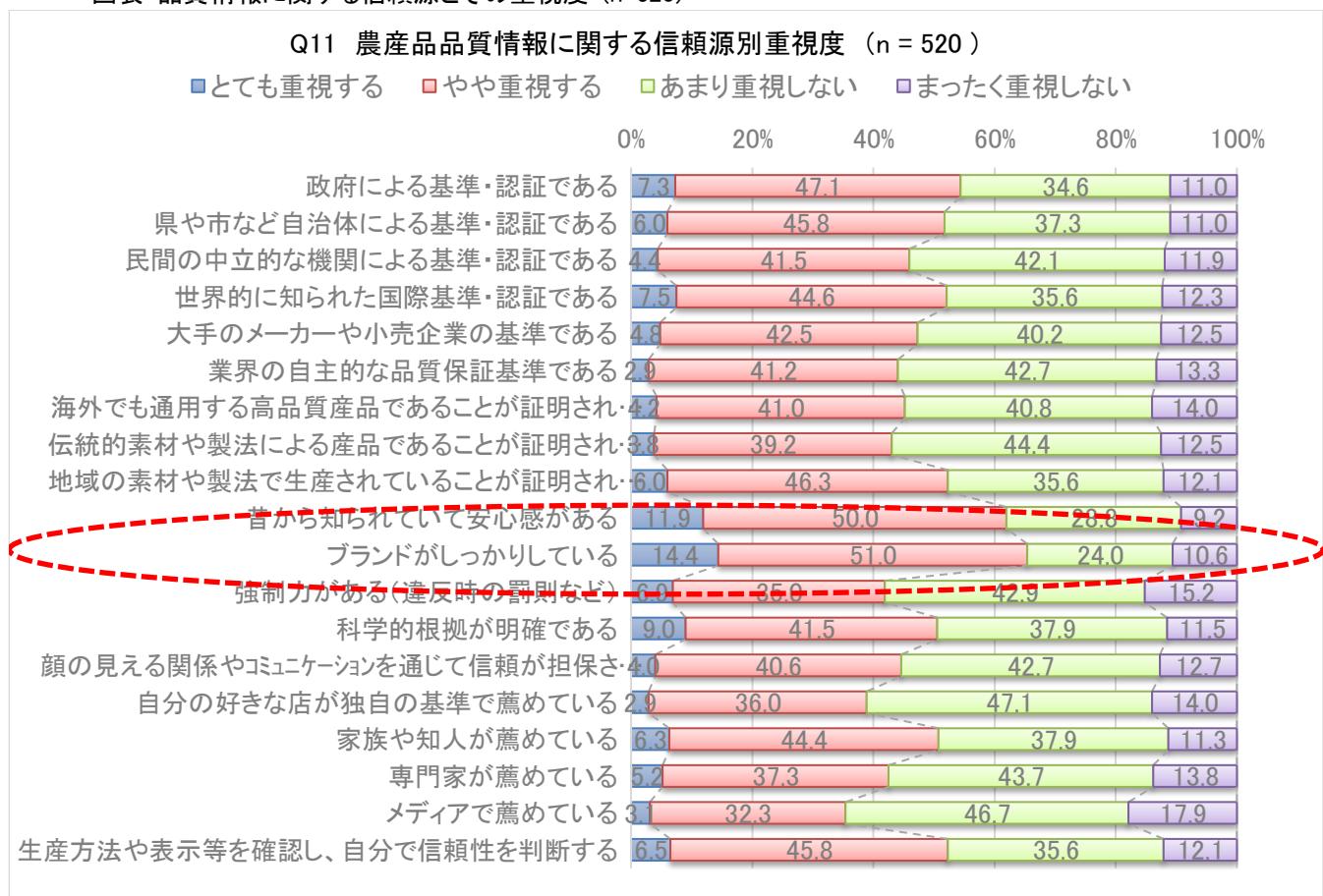
農産品（加工品を含む）品質情報について、情報源としてどんな要素を重視するか、多角的に尋ねた。（Q11）。

品質情報源としての重視度（「重視する」と「やや重視する」の合計）で最も高いのは、「しっかりしたブランドであること」65.4%、次いで「昔から知られていて安心感があること」61.9%だった。基準や認証は、政府や自治体が運営主体である場合は重視度は過半数を超えるが、民間や業界のものでは半数以下に下がる。

「ブランド」は他の選択肢と異なり、総合的な概念であって、ブランドが上位に来るはある意味当然である。ブランド論の代表的研究者である D.A.・アーカーによれば⁵、ブランドは、ロイヤリティ、ブランド名認知、品質イメージ、ブランド連想（心理的・感情的連想）、資産（特許や商標等）から構成される資産価値（ブランド・エクイティ）を持つ。

基準や認証などは、それだけで消費者の信頼や付加価値を獲得する手段というよりは、むしろ、消費者の知覚品質の基盤を下支えし、ブランドとして選ばれる商品になるための一要素と考えられる。

図表 品質情報に関する信頼源とその重視度（n=520）



⁵ アーカー、デービッド・A. 陶山計介他訳（1994）『ブランド・エクイティ戦略』、ダイヤモンド社。

7. 花きの認証に対する消費者評価

近年、花き業界では、日持ち性を軸にした生産管理の標準化に向けての動きがある⁶。一方、花とともに、野菜など他の農産物生産現場でも、GAP に代表される生産工程管理の普及が政策的に後押しされている。また、2017 年に、新しい JAS 規格の第一号として、「日持ち生産管理切り花」(JAS0001) が創られ、2018 年度から日持ち性に優れた花の JAS 認証制度が施行されている。以下では、各種の花き認証品に対する支払意思額を尋ね、消費者の評価の水準を調べる。

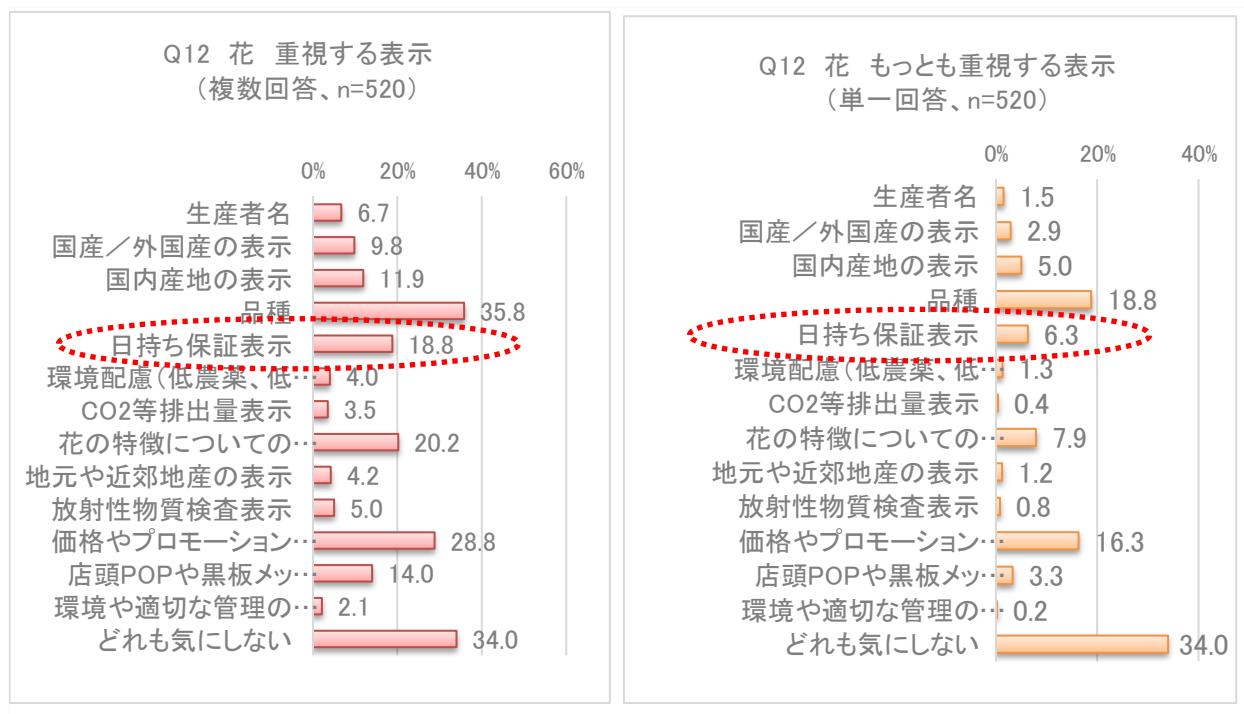
(1) 花における表示のニーズ

まず、消費者が購入時に重視している表示について、「重視する点」(複数回答) と「もっとも重視する点」(単一回答) を尋ねた (Q12)。

花では、購入時に重視する表示は「品種」で、35.8% の人が重視点として挙げている。产地については、それほど重視されない。次いで、「価格やプロモーション情報」28.8%、「花の特徴についての情報」20.2% と続く。「日持ち保証表示」は 18.8% で 4 番目だった。

一方、「環境配慮や適切な生産流通管理を表す認証」を重視する人は、2.1% にすぎない。

図表 表示に関する意識 重視する点、もっとも重視する点 花 (n=520)



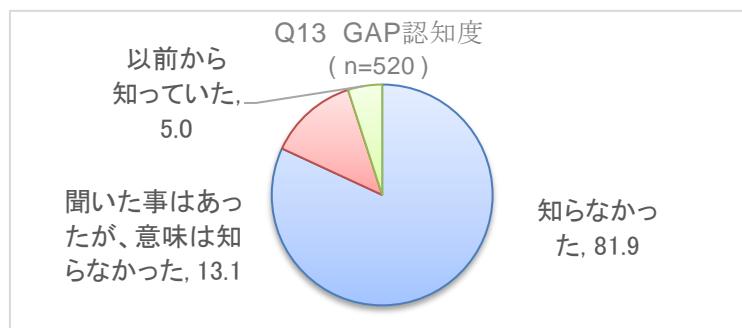
⁶ 本調査の実施主体である MPS ジャパンは、花き環境認証の MPS (国際認証) およびリーフレッシュネス (花き日持ち品質管理認証) の認証の運営を手掛ける一方、花きの新 JAS 規格策定にあたっても、検討メンバーとして参加している。

(2) GAP の認知

まず、設問文で GAP について説明した（「農畜産物の生産現場において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組は、GAP（Good Agricultural Practice:農業生産工程管理）と呼ばれています。東京オリンピック・パラリンピックの選手村等での食材は、GAP 認証取得農場からの調達が要件とされています」）。

その後、認知を尋ねると、「聞いた事はあったが、意味は知らなかった」が 13.1%、「以前から知っていた」が 5.0%で、合計で認知率は 18.1%であった（Q13）。

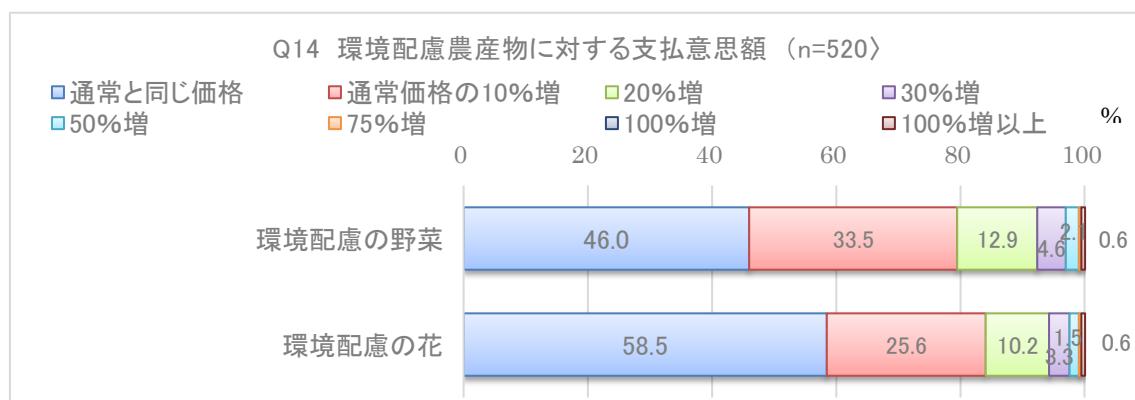
図表 GAP 認知度 (n=520)



(3) 環境配慮農産物に対する支払意思額

以下では、環境配慮、GAP 認証、JAS 花き日持ち認証、民間の花き日持ち品質管理認証済の農産物について、慣行品に対する支払意思額を調べた（Q14～Q17）。「通常と同じ価格」から、10%増、20%増、30%増、50%増、75%増、100%増、100%増以上の 8 段階で尋ねた。GAP、JAS、日持ち品質管理認証については、その内容の概略を説明した後に答えてもらった。まだ市場に出ていない、出でても少ない、あるいは B2B 認証であり、大方の回答者（JAS では全員）にとって、仮想的回答である。

図表 環境配慮農産物に対する支払意思額 (n=520)

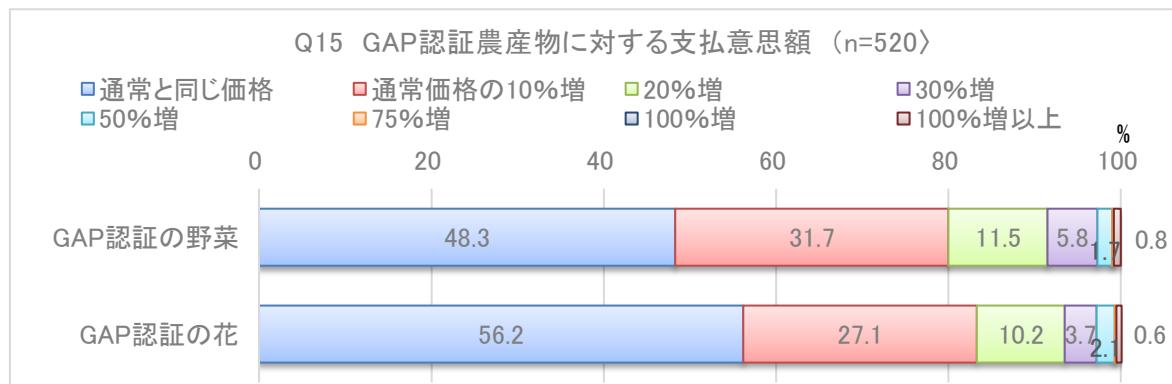


環境配慮農産物では、通常価格の10%以上のプレミアム価格の支払意思額合計は、「環境配慮の野菜」で54.0%、「環境配慮の花」では41.5%と、12.5ポイントの違いがある。

(4) GAP認証農産物に対する支払意思額

GAP認証品について、Q13の認知を聞く設問文で内容を説明し、後の設問で支払意思額を尋ねた（Q15）。

図表 GAP認証農産物に対する支払意思額（n=520）

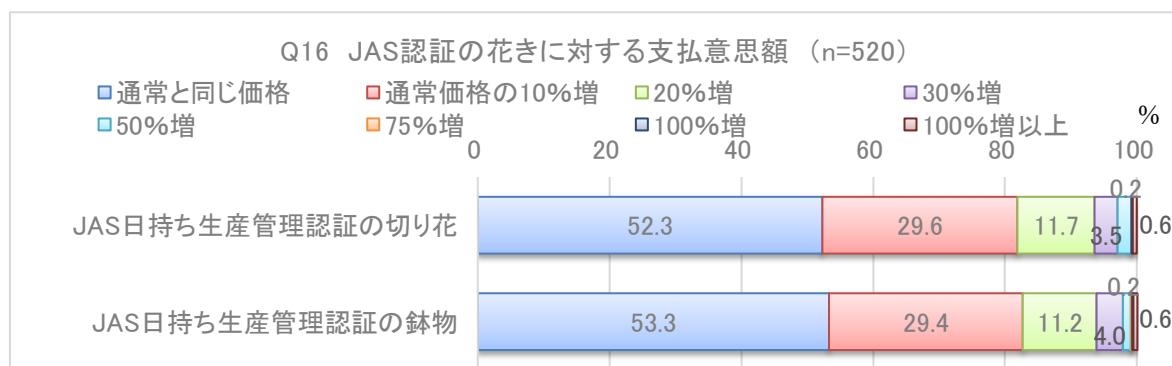


(5) JAS認証の花きに対する支払意思額

JAS認証の花きについて、設問文で内容を説明した（「JAS（日本農林規格）は農産物の品質に関する農林水産省の国家規格です。最近では、ブランド化や輸出を目的とした、差別化のための「新しいJAS」が生まれています。花では「日持ち生産管理切り花のJAS規格」として、栽培、採花から出荷まで「生産段階」での作業・衛生・低温管理の標準規格が定められ、今後、日持ち性に優れた花のJAS認証が始まります」）。

そのうえで、JAS認証済の花について、いくらまでだったら購入を検討するか尋ねた（Q16）。切り花、鉢物とも認証品はまだ市場にないので、仮想的回答である。

図表 JAS認証の花きに対する支払意思額（n=520）

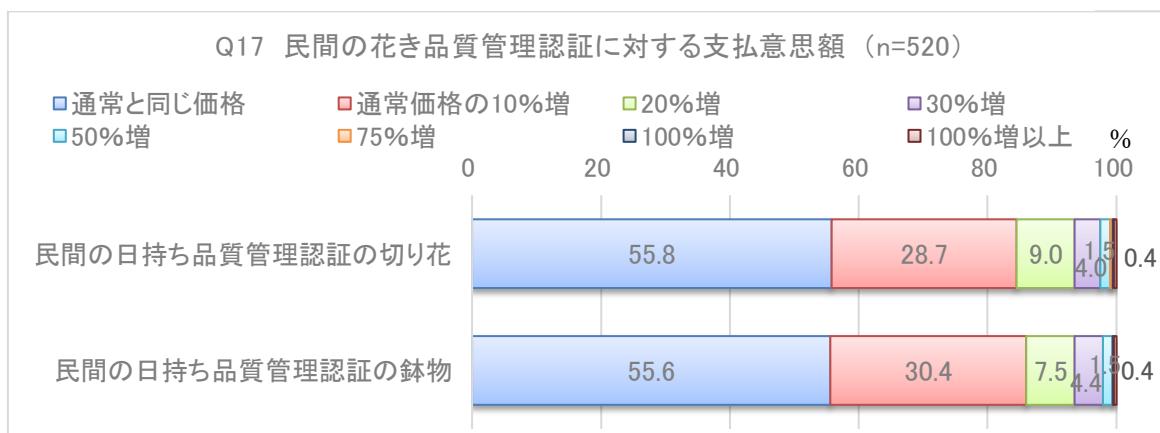


(6) 民間の日持ち品質管理認証の花に対する支払意思額

花の日持ち認証としては、すでに民間で、日本花き生産協会の「日持ち性向上品目別生産管理基準認証制度」や、MPS ジャパンの「花き日持ち品質管理認証制度」(リレーフレッシュネス)がスタートしている。

そこで、民間の花き日持ち品質管理認証についても、概要を説明後、支払意思額を尋ねた（「生産～流通～小売の各段階」で、道具の管理や花の滞留日数、保管温度、顧客対応などの管理要件を定めた、民間の「品質管理認証」もあります。生産から小売段階までをカバーする日持ち品質管理認証済の花について、いくらまでだったら購入を検討しますか？）(Q17)。切り花と鉢物について、回答してもらった。

図表 民間の花き品質管理認証に対する支払意思額 (n=520)



(7) 差別化農産物に対する消費者評価（プレミアム価格の支払意思）

以上、環境配慮および、GAP 認証、JAS 花き日持ち認証、民間の花き日持ち品質管理認証済の農産物について、慣行品に対する支払意思額を算出した。

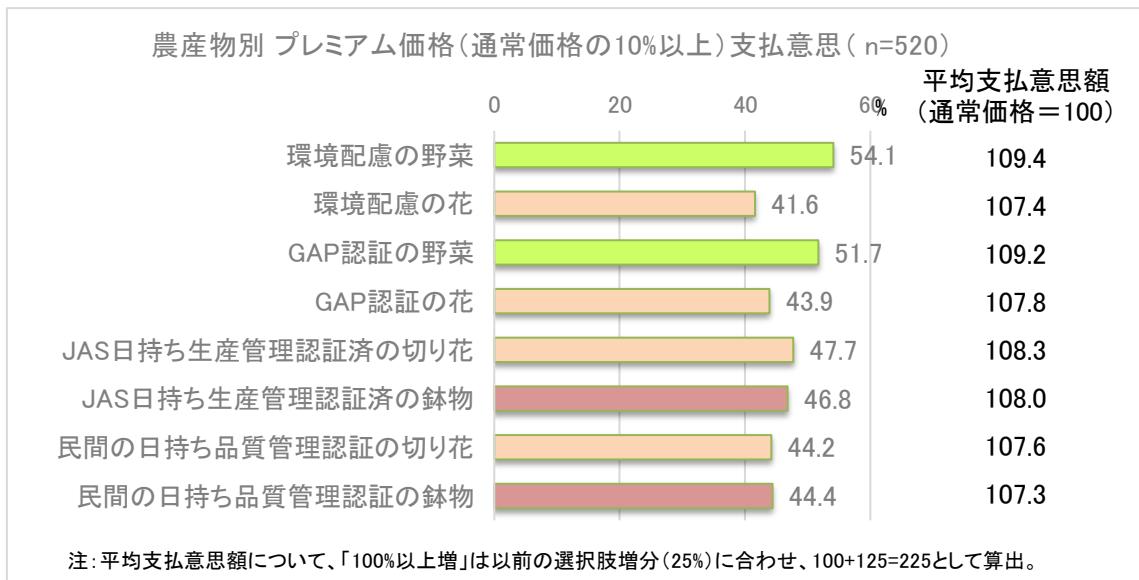
複数の性質の農産物間での、支払意思額の相対的な違いに注目して比較する⁷。通常価格の10%以上の何らかのプレミアム価格を支払ってもよいと考える人々の割合は、「環境配慮の野菜」で最も高く 54.1%、「GAP 認証の野菜」51.7%が続く。花では、JAS 認証切花が 47.4%で最も高い。

通常価格=100として、平均支払意思額を算出すると（図表の右側の数値、なお「100%以上増」は以前の選択肢増分（25%）に合わせ、 $100+125=225$ として計算）、環境配慮野菜 109.4 > GAP 認証野菜 109.2 > JAS 認証切花 108.3 > JAS 認証鉢物 108.0 > GAP 認証花 107.8 > 民間日持ち品質管理認証切花 107.6 > 環境配慮の花 107.4 > 民間日持ち品質管理認証鉢物 107.3 の順になった。

なお、環境配慮と GAP 認証は、どちらも野菜の認証のあるカテゴリーであるため、設問で野菜と比べる形になり、結果として相対的に低い数値となった可能性がある。

⁷ 回答者にとっては抽象性が高いので、詳細に調べるとすれば、具体的な価格帯や品質イメージなどの他の属性設定し、属性セットを示したうえで選好を尋ねる形で受容性を分析する手法（コンジョイント分析）も考えられるが、今回は簡略な調査とした。

図表 農産物にプレミアム価格(通常価格の10%以上)を支払ってもよいと考える人の割合 (n=520)



8. 消費者調査からみた JAS 受容可能性

消費者が花を購入する際、自宅用では37.9%が「日持ち」を重視しており、価格、花の種類に次いで重要な項目となっている。花を買わない理由としては、「すぐに枯れたりして持たない」(40.8%)がトップに来ているため、日持ち性のニーズはそれなりに高いと考えられる。

一方、「日持ち保証販売」の認知率は、15%、意味まで知っている人は2.5%に過ぎないため、取扱店を増やすとともに、日持ち保証の取り組みの普及活動が必要である。

農産物・加工品のラベルでは、JAS本体は8割を超える突出した認知率があり、「JAS」には認知の底上げ効果の可能性がある。品質情報の信頼源としては、「ブランド」(65.4%)が最も重視されている。

認証花に対して通常価格の10%以上の割増価格の受容率は、支払意思額が最も高かったJAS認証切花においても、47.4%と過半数を切っている。認証花というだけでは、「直接的な割増価格の受容余地は限られる。だが、認証の取り組みは、消費者の品質への評価や、品質知覚(品質に対するコストパフォーマンス)の向上などにより、ブランドの総体的評価向上を通じて、プレミアム価格に結び付く手法になりうると推測できる。

花きの認証が広がるかどうかは、究極的には消費者の評価にかかっている。消費者からの支持が、小売やバイヤーなどの評価の向上と、生産者にとっての認証取組のインセンティブの基盤となると考えられるからである。

VI まとめ

以上、生産者、小売、消費者調査の結果を総合すると、以下の点が課題として浮かび上がってくる。

第一に、諸認証全体の制度設計の課題として、現在並存し、部分的には競合している3つの日持ち管理認証について、認証間の関係を整備する必要がある。それぞれの認証スキームの特長と違いについて、専門家以外にもわかるように示していかなければならない。

生産者のJAS取得への関心は高いとは言えない。認証は業界水準向上の点から評価はされている一方、似たスキームの認証が複数存在し、わかりにくい。何が目安とすべき標準なのかわからなければ、生産者にとっては不確実性が増す。さらなるコスト負担への疑問や、サンクコストへの懸念が生じてしまう。花き認証の受容性を高めるには、諸認証の関係のハーモナイゼーションを前提に、段階的な発展を促すような「見通し」を提示することが望ましい。

上の点と関連して、第二に、認証のメリットに関して、業界で共通の理解を醸成していくことが重要と考えられる。生産者も小売店も、花の認証のプラス面の効果を認めつつも、認証に伴うコストの価格転嫁や認証品への需要に対する懸念を抱いている。

認証品が、市場での割増価格に直結するとは限らない。消費者調査によると、認証品に対して通常品の10%以上の割増価格を支払ってもよいと考える消費者の割合は、JAS認証切花では47.4%と半数以下であり、受容可能な割増額は10%に満たない。

認証に取り組むことは、取り組みの客観化や継続的な経営改善、生産や流通小売の現場の意識改革を促し、それが媒介となって全般的な品質向上につながるという効果がある。認証を付加価値に結び付けていくには、広い意味での経営の質の向上が前提になるという点について、認証スキームの参加者に理解してもらうことが重要である。

第三に、コミュニケーション上の課題がある。取引先や消費者へ、認証品のメリットを伝えていくことが必要と考えられる。認証の取り組みを通じて品質水準が上がることで、消費者の品質知覚やブランドとしての総体的評価向上を通じて、プレミアム価格やロイヤリティ向上に結び付ける手段として重視すべきである。

日持ちは、消費者も重視している。自宅用の花の購入時には、価格、花の種類に次いで、消費者の約4割が日持ちを重視している。また、花を買わない理由では「すぐに枯れたり萎れて持たない」が4割で首位であり、日持ちは重要な向上である。

花き日持ちは、消費者も重視している。自宅用の花の購入時には、価格、花の種類に次いで、消費者の約4割が日持ちを重視している。また、花を買わない理由では「すぐに枯れたり萎れて持たない」が4割で首位であり、日持ちは重要な向上である。

最後に、中期的課題として、取り組むべき「品質」の幅に関する問い合わせが残されている。現存の日本発の花き認証は、日持ちという特定「品質」に特化している。そこでは、環境や労働面での公正さ、経営の質などについては、問われていない。だが、世界の花き業界における「品質」は多元化している。日持ち品質は当然の前提であり、そのうえで社会的・環境的な課題解決を織り込んだ「品質」が問われるようになっている。日本の花業界には、小規模農家向けの GAP がなく（MPS-GAP は MPS の環境認証参加が条件で、かつ国際認証のため、審査員の海外からの招聘などの費用がかかり高額になる）、環境、労働安全、経営、法令遵守などの取り組みに対する認証が手薄になっている。

新しい JAS には、輸出ツールとしての性格がある。中長期的には、また輸出先によっては、社会的・環境的な「品質」についても、問われるようになっている。そのことにどう対応すべきかは、現在ある「花の JAS」規格を超える課題である。

参考資料

参考資料 1. 「日本農林規格 JAS 0001 日持ち生産管理切り花」

日本農林規格 (JAPANESE AGRICULTURAL STANDARD) JAS 0001

日持ち生産管理切り花 (Cut flowers produced under controls for vase life in growers)

2018年3月28日制定

農林水産省

まえがき

この規格は、日本農林規格等に関する法律に基づき、農林物資規格調査会の審議を経て、農林水産大臣が制定した日本農林規格である。この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。農林水産大臣及び農林物資規格調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権及び出願公開後の実用新案登録出願にかかる確認について、責任はもたない。

日本農林規格 JAS0001:2018

日持ち生産管理切り花

1 適用範囲

この規格は、花き生産者が行う切り花の日持ちは性向上のための、栽培管理、採花から出荷までの作業管理の基準等を規定する。

2 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

2.1 採花

花きを収穫すること。

2.2 切り花

花きを採花(2.1)したもの。

2.3 日持ち

切り花(2.2)が観賞できる期間。

2.4 ほ場

花きを栽培する場所。

2.5 水揚げ

切り花(2.2)に水分を補給させること。

2.6 品質保持剤

エチレン阻害剤、抗菌剤、糖類等の品質の保持を目的とした薬剤。

2.7 前処理

採花後の切り花(2.2)の日持ちを向上させる目的で、品質保持剤(2.6)を施すこと。

2.8 作業場

調整、結束、こん包、その他採花以降出荷前までの全ての作業工程を行う場所。

2.9 出荷

生産者が集荷場、卸売市場等に輸送すること。

2.10 湿式輸送

切り花(2.2)を水等に浸して運ぶ形態。

3 日持ち管理

3.1 栽培管理

- ほ場は、次の事項を満たさなければならない。
- a) 除草していなければならない。
 - b) 病害虫を誘引する可能性がある病気にり患した花き、これを取除いたその一部、ごみ等をほ場内に放置してはならない。
また、施設栽培の場合にあっては、あらかじめ栽培期間中の管理温度を設定した上で、その温度で管理されていなければならない。

3.2 採花時の管理

強光下での作業や葉がしおれた花きの採花は、行ってはならない。

3.3 水揚げ及び前処理の管理

水揚げ及び前処理を行うに当たり、次の事項を満たさなければならない。

- a) 清潔な状態で行わなければならない。
- b) 使用する水は、水道水を使用しなければならない。ただし、清澄な水に抗菌剤を適切に使用した水を使用する場合は、この限りではない。
- c) 必要に応じて、品質保持剤を適切に使用しなければならない。

3.4 作業場の管理

病害虫を誘引する可能性がある病気にり患した花き、これを取除いたその一部、ごみ等を作業場に放置してはならない。

3.5 採花から出荷前までの管理

採花から出荷前までの管理は、次のいずれかによる。

- a) 作業中の気温は 25 °C以下とし、採花からおおむね 24 時間以内に作業を終了し、作業を行わないときは気温 15 °C以下で保管する。また、採花から出荷前までの時間は 72 時間以内とする。
- b) 作業中の気温管理が困難な場合は、採花からおおむね 12 時間以内に作業を終了し、作業を行わないときは気温 15 °C以下で保管する。また、採花から出荷前までの時間は 72 時間以内とする。
- c) 保管中の気温管理が困難な場合は、作業中の気温は 25 °C以下とし、採花から出荷前までの時間をおおむね 24 時間以内とする。
- d) 作業中及び保管中の気温管理が困難な場合は、採花から出荷前までの時間をおおむね 12 時間以内とする。

3.6 出荷管理

3.6.1 出荷

出荷先までは、直射日光や風雨にさらされない状態で 15 °C以下の温度管理が可能な輸送手段を使用しなければならない。ただし、出荷先までの輸送にかかる所要時間がおおむね 1 時間以内の場合における温度管理については、この限りではない。

3.6.2 濡式輸送

濡式輸送を行う場合は、抗菌剤を主成分とする品質保持剤を使用しなければならない。

4 保守点検

4.1 設備

ほ場内の機械及び器具類の作動状況については、日常点検及び定期点検を実施しなければならない。

4.2 冷蔵保管する場所

切り花の保管に使用する場合は、適切に管理しなければならない。

4.3 器具

4.3.1 採花及び調整

ハサミ等の器具は、使用前に消毒をしなければならない。

4.3.2 水揚げ及び前処理

使用する器具は、清潔な状態を維持しなければならない。

5 表示

格付の表示に近接して、出荷の年月日を出荷の年月日である旨がわかるように記載しなければならない。

附属書A(参考)生産行程の管理体制

この規格に適合する切り花には、次の管理体制以上の管理体制が要求される。

A.1 生産及び保管に係る施設

A.1.1 生産に係る施設

ほ場及び作業場は、3.1 及び 3.4 の基準に適合していなければならない。また、4.1 に従い、管理を行うのに支障のない広さ及び構造でなければならない。

A.1.2 保管に係る施設

3.5 の基準に従い、管理を行うのに支障のない広さ及び構造であり、適切に清掃されていなければならない。

また、4.2 の項の基準に従い、管理を行うのに支障のない広さ及び構造であり、適切に清掃されなければならない。

A.2 生産行程の管理又は把握の実施方法

A.2.1 生産行程管理責任者の職務

A.3 b)に規定する生産行程管理責任者に、次の職務を行わせなければならない。

- a) 生産行程の管理(外注管理(生産行程の管理の一部を外部の者に委託して行わせることをいう。)を含む。)
又は把握に関する計画の立案及び推進
- b) 生産行程の管理において外注管理を行う場合にあっては、外注先の選定基準、外注内容、外注手続等当該
外注に関する管理又は把握に関する計画の立案及び推進
- c) 生産行程において生じた異常等に関する処置又は指導

A.2.2 内部規程の整備

次の事項について、内部規程を具体的かつ体系的に整備していなければならない。

- a) 栽培管理に関する事項
- b) 採花時の管理に関する事項
- c) 水揚げ及び前処理の管理に関する事項
- d) 作業場の管理に関する事項
- e) 採花から出荷前の管理に関する事項
- f) 切り花を冷蔵保管する場合にあっては、保管管理に関する事項
- g) 出荷管理に関する事項
- h) 生産に使用する機械及び器具に関する事項
- i) 生産行程の管理又は把握に係る記録の作成並びに当該記録及びその根拠となる書類の保存期間に関する事項
- j) 苦情処理に関する事項
- k) 年間の生産計画の策定及び当該計画の認証機関(登録認証機関又は登録外国認証機関をいう。以下同じ。)への通知に関する事項
- l) 生産行程の管理又は把握の実施状況についての認証機関による確認等の業務の適切な実施に関し、必要な事項

A.2.3 記録の管理

内部規程に基づいて生産行程の管理を行い、その記録を作成及び保存していなければならない。

A.2.4 内部規程の見直し

内部規程の適切な見直しを定期的に行い、かつ、従業員に十分周知しなければならない。

A.3 生産行程の管理又は把握を担当する者の能力及び人数

生産行程管理担当者及び生産行程管理責任者については、次の事項を満たさなければならない。

- a) 生産行程管理担当者 生産行程の管理又は把握を担当する者として、日持ち生産管理切り花の生産行程管理に関する知識をもつ者が一人以上（当該生産行程管理者が複数の生産及び保管に係る施設を管理し、又は把握している場合にあっては、当該施設の数、分散の状況等に応じて適正な生産行程の管理又は把握を行うのに必要な人数以上）置かれてなければならない。
- b) 生産行程管理責任者 生産行程管理責任者を、次のとおり選任されていなければならない。
 - 1) 生産行程管理担当者が一人置かれている場合にあっては、その者を生産行程責任者として、選任されていなければならない。
 - 2) 生産行程管理担当者が複数置かれている場合にあっては、生産行程管理担当者の中から一人選任されていなければならない。

出典：農林水産省「日本農林規格 JAS 0001 日持ち生産管理切り花」
http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/attach/pdf/kikaku_itiran2-4.pdf

参考資料 2. 単純集計表（生産者調査）

§ 1 切り花の品質管理状況

各管理項目の実践状況について、あてはまるものをチェックしてください。(各行一つずつ回答)

Q1 ほ場や作業場の清掃、 管理状況は? 単一回答		N (全回答 者数)	1	2	3	4		
			実施して いる	だいたい 実施して いる	あまり実 施してい ない	全く実施 していな い	無回答	回答者数
1	ほ場内や外周を計画的 的に除草、清掃してい る	45	25	16	4	0	0	45
		100.0	55.6	35.6	8.9	0.0	0.0	100.0
2	ハウス内は、管理温度 を設定して管理してい る	45	23	17	4	0	1	44
		100.0	51.1	37.8	8.9	0.0	2.2	97.8
3	作業場は、計画的に清 掃している	45	24	16	3	0	2	43
		100.0	53.3	35.6	6.7	0.0	4.4	95.6

Q2 温度管理(採花時) は? 単一回答		N (全回答 者数)	1	2	3	4		
			実施して いる	だいたい 実施して いる	あまり実 施してい ない	全く実施 していな い	無回答	回答者数
1	朝、夕の気温の低い時 間に採花する(目安:朝 10時まで、夕方16時 以降)	45	27	11	4	3	0	45
		100.0	60.0	24.4	8.9	6.7	0.0	100.0

Q3 温度管理(作業中)は?		N (全回答者数)	1	2	3	4		
単一回答			実施している	だいたい実施している	あまり実施していない	全く実施していない	無回答	回答者数
1	作業場は、25°C以下で管理し使用している	45	13	10	13	5	4	41
		100.0	28.9	22.2	28.9	11.1	8.9	91.1

Q4 輸送中の温度管理は?		N (全回答者数)	1	2	3	4		
単一回答			実施している	だいたい実施している	あまり実施していない	全く実施していない	無回答	回答者数
1	冷蔵車で15°C以下に管理して輸送(市場出荷)	45	18	8	4	9	6	39
		100.0	40.0	17.8	8.9	20.0	13.3	86.7
2	風雨や直射日光に晒されない状態で輸送(近隣)	45	32	7	0	1	5	40
		100.0	71.1	15.6	0.0	2.2	11.1	88.9

Q5 水揚げ／前処理用容器の洗浄は?		N (全回答者数)	1	2	3	4		
単一回答			実施している	だいたい実施している	あまり実施していない	全く実施していない	無回答	回答者数
1	中性洗剤等を用い、スポンジ等により丁寧に洗浄	45	15	14	6	8	2	43
		100.0	33.3	31.1	13.3	17.8	4.4	95.6

Q6 水揚げ／前処理用の水 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3		
			水道水	水道水以外	水道水以外の水に抗菌剤	無回答	回答者数
1	水揚げ用	45	24	11	8	2	43
		100.0	53.3	24.4	17.8	4.4	95.6
2	前処理用	45	23	9	7	6	39
		100.0	51.1	20.0	15.6	13.3	86.7

Q7 前処理剤、花持ち剤の使用状況 は？ 単一回答		N (全回答者数)	1	2		
			使用している	使用していない	無回答	回答者数
1	前処理剤の使用	45	32	11	2	43
		100.0	71.1	24.4	4.4	95.6
2	花持ち剤の使用(湿式)	45	16	13	16	29
		100.0	35.6	28.9	35.6	64.4

Q7-SQ1 前処理剤の使用銘柄 自由回答		N	%
クリザール		4	12.5
クリザール K20C		1	3.1
クリザール K-200		1	3.1
美咲プロ		1	3.1
ハイフローラ		1	3.1
ケミクロン		1	3.1
美ターナル		1	3.1
無回答		22	68.8
回答者数		10	31.3
N(全回答者数)		32	100.0

注:回答対象は、Q7_1「前処理剤使用」と答えた 32 名 回答者は 9 名(1 人で複数回答)

Q7-SQ2 花持ち剤の使用銘柄は？		N	%
自由回答			
クリザール バケット	1	6.3	
エコゼリー	1	6.3	
無回答	14	87.5	
回答者数	2	12.5	
N(全回答者数)	16	100.0	

注:回答対象は、Q7_2「輸送時花持ち剤使用」と答えた 16 名 回答者は 2 名

Q8 採花、水揚げ／前処理用器具の管理は？		N (全回答者数)	1	2	3	4	無回答	回答者数
	単一回答		実施している	だいたい実施している	あまり実施していない	全く実施していない		
1	ハサミ等採花用器具は、使用前に消毒	45	16	14	6	8	1	44
		100.0	35.6	31.1	13.3	17.8	2.2	97.8
2	水揚げ／前処理用器具は、清潔な状態で保管	45	19	16	6	4	0	45
		100.0	42.2	35.6	13.3	8.9	0.0	100.0

Q9 設備の保守点検は？		N (全回答者数)	1	2	3	4	無回答	回答者数
	単一回答		実施している	だいたい実施している	あまり実施していない	全く実施していない		
1	ほ場内の機械類は、使用前に作動状況を点検	45	25	13	2	1	4	41
		100.0	55.6	28.9	4.4	2.2	8.9	91.1
2	ほ場内の機械類は、最低年1回定期点検を実施	45	17	19	4	2	3	42
		100.0	37.8	42.2	8.9	4.4	6.7	93.3
3	冷蔵庫(ある場合)は、計画的に清掃・消毒を実施	45	10	17	10	2	6	39
		100.0	22.2	37.8	22.2	4.4	13.3	86.7

記録管理の状況について、お教えください。

Q10 以下の項目に関して記録やその保存をしていますか？あてはまるものをすべて選んでください。

Q10 記録とその保存、活用 複数回答		N (全回答 者数)	1	2	3		
			記録	記録を 保存	記録を データ化 して活用	無回答	回答者数
1	ほ場や作業場の清掃実施	45	20	7	3	25	20
		100.0	44.4	15.6	6.7	55.6	44.4
2	採花時間・日	45	23	7	2	22	23
		100.0	51.1	15.6	4.4	51.1	51.1
3	作業場の温度計測	45	13	3	2	32	13
		100.0	28.9	6.7	4.4	71.1	28.9
4	前処理剤（薬剤名、使用量、希釀倍率、処理時間）	45	16	5	1	29	16
		100.0	35.6	11.1	2.2	64.4	35.6
5	輸送時花持ち剤 (薬剤名、使用量、希釀倍率)	45	10	5	1	35	10
		100.0	22.2	11.1	2.2	77.8	22.2
6	市場・集荷所への輸送（出荷／到着時間、温度）	45	14	4	1	31	14
		100.0	31.1	8.9	2.2	68.9	31.1
7	ハサミ等器具類消毒実施	45	14	3	2	31	14
		100.0	31.1	6.7	4.4	68.9	31.1
8	機械類使用前作動や定期点検	45	13	2	2	32	13
		100.0	28.9	4.4	4.4	71.1	28.9
9	冷蔵庫(ある場合)清掃・消毒実施	45	14	2	1	31	14
		100.0	31.1	4.4	2.2	68.9	31.1
10	農薬、肥料の使用	45	36	15	6	9	36
		100.0	80.0	33.3	13.3	20.0	80.0
11	苦情処理	45	21	10	5	24	21
		100.0	46.7	22.2	11.1	53.3	46.7
12	労務管理	45	23	10	4	22	23
		100.0	51.1	22.2	8.9	48.9	51.1

§ 2 品質管理認証に対する認知と評価

Q11 数年前から、切花の日持ち性向上を目的に、生産や流通、小売段階での花の扱いや、器具の管理要件を定めた認証制度が始まっています。「花き日持ち品質管理認証(リレーフレッシュネス)」についてご存知でしたか？

Q11 「リレーフレッシュネス」認知 単一回答		N	%
1	既に認証を取得している	54	36.2
2	以前から内容まで知っていた	31	20.8
3	以前から聞いたことはあったが、内容までは分っていない	49	32.9
4	聞いたこともなく、内容も知らない	14	9.5
	無回答	1	0.7
回答者数		148	99.3
N(全回答者数)		149	100.0

注: Q11 以下の設問は、IFEX での調査票(1 票)には採用しなかった。

Q12 「花き日持ち管理認証(リレーフレッシュネス)」について、生産者を対象にした認証制度「日持ちさん」が 2017 年度から始まっています。これについてご存知でしたか？

Q12 「日持ちさん」認知 単一回答		N	%
1	既に認証を取得している	21	14.1
2	以前から内容まで知っていた	22	14.8
3	以前から聞いたことはあったが、内容までは分っていない	49	32.9
4	聞いたこともなく、内容も知らない	56	37.8
	無回答	1	0.7
回答者数		148	99.3
N(全回答者数)		149	100.3

Q13 2018 年度から、差別化と輸出強化のための新しい「JAS」(日本農林規格:農林水産省)規格の一つとして、「日持ち生産管理切り花の JAS 規格」(花の JAS)がスタートしました。

花の JAS では、栽培、採花から出荷までの生産段階における作業・衛生・温度管理の標準規格が定められ、今後、日持ち性に優れた切り花の認証が始まります。花の JAS 認証をご存知でしたか？

Q13 「花の JAS」認知 単一回答		N	%
1	以前から内容まで知っていた	31	20.8
2	以前から聞いたことはあったが、内容までは分っていない	66	44.3
3	今日初めて知った	50	33.6
4	無回答	2	1.3
回答者数		147	98.7
N(全回答者数)		149	100.0

Q14 農産物の生産現場では、「持続可能性」を確保する手法として、GAP(農業生産工程管理)が注目されています。GAP では、食品・労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理の標準規格が定められています。花でも、海外では GAP 認証が広がりつつあります。あなたは、花にも GAP があることをご存知でしたか？

Q14 「花の GAP」認知 単一回答		N	%
1	以前から内容まで知っていた	27	18.1
2	以前から聞いたことはあったが、内容までは分っていない	65	43.6
3	今日初めて知った	55	36.9
4	無回答	2	1.3
回答者数			147
N(全回答者数)			149

Q15 さまざまな花の認証について、あなたはどのように評価しますか？(複数回答)

Q15 花の認証に対する評価 複数回答		N	%
1	品質管理の標準規格があれば、業界全体のレベルアップにつながる	92	61.7
2	自分の商品の品質向上と差別化につながる	67	45.0
3	鮮度や品質管理、スタッフの意識の底上げなど、経営改善手段として有効だ	67	45.0
4	さまざまな認証が混在していて、混乱を招く	33	22.1
5	抽象的で、売上にどう結び付くのかわからない	32	21.5
6	コストや事務負担の増加を、価格転嫁できるかどうか気になる	48	32.2
7	認証に対する需要があるのかどうか、疑問だ	33	22.1
8	他の作物では GAP が推奨されているが、花では何が標準になるのか見通せない	19	12.8
9	認証よりむしろ、栽培技術の向上など他の課題に労力を注ぎたい	24	16.1
10	その他	5	3.4
	無回答	4	2.7
回答者数		145	97.3
N(全回答者数)		149	100.0

Q15_FA 認証評価の自由回答

- 花は生ものもあるが、ほとんどは食べ物ではない生産品です。その中で、一嗜好品として、製品としての花の価値を上げるためにには、必要なことなのかとは思います。
- GGAP は日本に合わない部分があるのではないか？
- 認証団体の認証商売でしかない。

Q16 花の認証を取得するしたら、あなたの考えに近いのはどれですか。

各項目について、「そう思う」～「そう思わない」の4段階のうち、あてはまるものを選んでください。

Q16-1 要求水準(認証の難易度) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
1	ベーシックで取り組みやすく、基本的管理の底上げになる方がよい		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
	149	74	40	9	1	25	124	
2	比較的高い水準で、差別化につながる方がよい	100.0	49.7	26.8	6.0	0.7	16.8	83.2
		149	37	50	27	3	32	117
3	輸出入に対応した国際的水準を目指す方がよい	100.0	24.8	33.6	18.1	2.0	21.5	78.5
		149	31	39	38	3	38	111
		100.0	20.8	26.2	25.5	2.0	25.5	74.5

Q16-2 認証の主体 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
1	政府認証である方が望ましい		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
	149	30	39	36	6	38	111	
2	実績のある中立的機関であれば、民間認証でもよい	100.0	20.1	26.2	24.2	4.0	25.5	74.5
		149	51	48	16	4	30	119
3	政府、民間を問わず国際的認証(世界に通じる認証)が望ましい	100.0	34.2	32.2	10.7	2.7	20.1	79.9
		149	30	41	29	9	40	109
		100.0	20.1	27.5	19.5	6.0	26.8	73.2

Q16-3 認証のカバー範囲 (認証内容) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
1	生産部門に特化した認証がよい		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
	149	23	37	45	4	40	109	
2	生産～流通～小売まで参加できる認証がよい	100.0	15.4	24.8	30.2	2.7	26.8	73.2
		149	70	43	9	0	27	122
3	品質から安全、労働、環境まで総合的にカバーした認証がよい	100.0	47.0	28.9	6.0	0.0	18.1	81.9
		149	17	49	39	4	40	109
		100.0	11.4	32.9	26.2	2.7	26.8	73.2

注:選択肢3設問文は、ver.2では「品質、安全、労働、環境まで総合的にカバーしたGAP型の認証がよい」

<参考> Q16-3 選択肢3比較:(選択肢ワーディングの違い「総合的にカバーした認証」(ver.1)／「総合的にカバーしたGAP型の認証」(ver.2)

Q16-3-3 「総合的にカバーした認証」(単一回答) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
Ver. 1	品質、安全、労働、環境まで総合的にカバーした認証がよい		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
	14	38	25	4	24	81	105	
Ver. 2	品質から安全、労働、環境まで総合的にカバーしたGAP型の認証がよい	13.3	36.2	23.8	3.8	22.9	77.1	100.0
		3	11	14	0	16	28	44
		6.8	25.0	31.8	0.0	36.4	63.6	100.0

Q16-4 認証取得の検討条件 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	全体的な品質管理水準が向上するなら、自己負担でも検討する	149	22	54	32	3	38	111
		100.0	14.8	36.2	21.5	2.0	25.5	74.5
2	取引条件として求められるケースが増えれば、検討する	149	46	54	7	1	41	108
		100.0	30.9	36.2	4.7	0.7	27.5	72.5
3	認証への支援や優遇制度があれば検討する	149	43	48	15	1	42	107
		100.0	28.9	32.2	10.1	0.7	28.2	71.8
4	業界で「事実上の標準」となる認証ができれば検討する	149	38	58	9	2	42	107
		100.0	25.5	38.9	6.0	1.3	28.2	71.8
5	諸認証の関係が整備され、ステップアップしていくなら検討する	149	31	64	9	2	43	106
		100.0	20.8	43.0	6.0	1.3	28.9	71.1

Q17 あなたの農場では、花の年間認証費用として、いくらまでだったら許容できますか(入会金や審査交通費は除く)？「花のJAS」、「花のGAP」(国内、国際認証)それぞれについてお答えください。

Q17 認証費用支払意思額(年間) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4	5	6	7		
			3万円程度	5万円程度	10万円程度	20万円程度	30万円程度	50万円程度	50万円以上でもよい	無回答	回答者数
1	花のJAS	149	74	21	5	4	0	0	0	45	104
		100.0	49.7	14.1	3.4	2.7	0.0	0.0	0.0	30.2	69.8
2	花のGAP (国内認証)	149	62	29	5	4	0	0	0	49	100
		100.0	41.6	19.5	3.4	2.7	0.0	0.0	0.0	32.9	67.1
3	花のGAP (国際認証)	149	52	26	12	4	1	2	0	52	97
		100.0	34.9	17.4	8.1	2.7	0.7	1.3	0.0	34.9	65.1

Q18 花の品質管理や認証について、あなたのご意見、疑問や感想をお聞かせください。(自由回答)

- コールドチェーン、リレーフレッシュネス等については知っているが、家族経営の農家が多く、設備の導入にかかる資金が問題となっている。
- リレーフレッシュネスを取得しているので、(他の認証は)不要。もっと消費者へメリットを伝えてほしい。生産者の所得につながらないと、取得件数の向上や、取り組み姿勢の変化はしづらい。
- 花の生産をはじめたばかりで、かつ、小規模で家族のみで生産している我が家では、少し不安があります(認証が受けられず、出荷を市場にすることができなくなってしまうのではないか)。もう少し学んでいきたいと思います。
- 消費者サイドにも広く理解をしてほしい。
- 全国共通。
- 品質管理、確かに重要ですが、追えば追うほどコストは上がる。薬剤が有効なのはもちろんわかりますが、自然と共に生きるのが農家です。薬剤はそのまま捨ててもいいのか?できるだけ、生産の技術で花持ちを大幅に伸ばす努力をしたい。自然素材の花持ち剤であれば、積極的に使いたい。
- 野菜でもそうだが、認証の数が多くなりすぎている。国内で取得すべき認証をまとめた方がよい。
- 団体で安く。個人では高すぎる。年間では高いと思う。
- 品質管理の方法等が解れば、当然取り組むが、お金がかかるのはちょっと。
- 私は花の部会や生産者となってまだ2年目なので、初めて知りました。今日は勉強になりました。
- 認証の金額が高くなると、やりたくない。
- 鶏が先か、卵が先か...そんな話になるかもしれません、花屋さん、消費者までこうした取り組みが浸透する前に費用の掛かる認証の必要性には、疑問を感じてしまいます。
- 日本の認証は高すぎる 農家主体で取り組み、安くすべき。
- 個人的に話をしている人がいて、うるさかった。
- 皆が取り組めるものとより高度なもの、またはレベルを2段階に設けてもよいかもしれない。
- それぞれが 何が日持ちに必要か考えて一番ベストを尽くす事が良いと思う。

§ 3 フェースシート

差支えない範囲で、お客様についてご記入ください。

F1 貴社名(自由回答)

個人情報につき、掲載省略

F2 所在地(都道府県・市)(自由回答)

個人情報につき、掲載省略

F3 栽培品目数(花き) 単一回答		N	%
1	1 品目	24	16.0
2	2~5 品目	57	38.0
3	6 品目以上	15	10.0
	無回答	54	36.0
回答者数		96	64.0
N(全回答者数)		150	100.0

F3_S1 栽培品目(花き) 自由回答	N	%
アスター	4	2.7
アリストロメリア	2	1.3
オリエンタルユリ	1	0.7
カーネーション	5	3.3
ガーベラ	4	2.7
カスミソウ	8	5.3
花壇苗	1	0.7
カラー	2	1.3
キク	3	2.0
キンギヨンソウ	5	3.3
草花	1	0.7
啓翁桜	1	0.7
ケイトウ	1	0.7
小菊	3	2.0
胡蝶蘭	2	1.3
スターチス	1	0.7
ストック	6	4.0
スナップ	2	1.3
スノーボール	1	0.7
スプレーマム	5	3.3
千両	1	0.7
ダリア	3	2.0
ディアボロ	1	0.7
デルフィニウム	1	0.7
電照菊	1	0.7
トルコキキョウ(リシャンサス)	30	20.0
バラ	3	2.0
パンジー	1	0.7
ビオラ	1	0.7
ヒマワリ	3	2.0
ブブリウム	6	4.0
フリージア	1	0.7
ブルースター(オキシペタルム)	5	3.3
紅花	2	1.3
ベビーハンズ	3	2.0
マム	2	1.3
マリーゴールド	1	0.7
野菜苗	1	0.7
ユーカリ	2	1.3
ユリ	1	0.7
ラナンキュラス	2	1.3
リンドウ	5	3.3
無回答	80	53.3
回答者数	70	46.7
n(全回答者数)	150	100.0

F4 花きの種類 複数回答		N	%
1	切り花	99	66.0
2	鉢物	10	6.7
3	その他	0	0.0
	無回答	42	28.0
回答者数		108	72.0
N		150	100.0

F5 スタッフ数 単一回答		N	%
1	5人未満	76	50.7
2	5~10人	23	15.3
3	11~20人	1	0.7
4	21~50人	8	5.3
5	50人以上	0	0.0
無回答		42	28.0
回答者数		108	72.0
N		150	100.0

F6 経営組織		N	%
複数回答			
1	家族経営	85	56.7
2	農事組合法人	3	2.0
3	株式会社	7	4.7
4	有限・合名会社等	6	4.0
5	農協・公益法人等	4	2.7
6	認定農業者	24	16.0
無回答		36	24.0
回答者数		114	76.0
N		150	100.0

F7 ほ場面積		N	%
単一回答			
1	1,000 坪未満	40	26.7
2	1,000～3,000 坪未満	44	29.3
3	3,000～5,000 坪未満	13	8.7
4	5,000～10,000 坪未満	4	2.7
5	10,000 坪以上	2	1.3
無回答		47	31.3
回答者数		103	68.7
N		150	100.0

F8 栽培 単一回答		N	%
1	露地	20	13.3
2	施設	101	67.3
無回答		45	30.0
回答者数		105	70.0
N		150	100.0

F9 回答者の性別 単一回答		N	%
1	男性	99	66.0
2	女性	15	10.0
無回答		36	24.0
回答者数		114	76.0
N		150	100.0

F10 回答者の年代 単一回答		N	%
1	20 代	4	2.7
2	30 代	25	16.7
3	40 代	23	15.3
4	50 代	27	18.0
5	60 代以上	35	23.3
無回答		36	24.0
回答者数		114	76.0
N		150	100.0

§ 参考情報:セミナー、イベント参加地域

開催日	地域	出席者合計	生産者				小売		
			出席者	回答者	回答率	質問票	出席	回答者	回答率
9月28日	山形	26	18	16	88.9%	ver.1	0	0	0.0%
9月29日	秋田	9	4	4	100.0%	ver.1	0	0	0.0%
10月18日	高知	63	35	20	57.1%	ver.2	0	0	0.0%
10月23日	静岡	32	20	10	50.0%	ver.2	0	0	0.0%
10月29日	函館	32	20	4	20.0%	ver.2	2	2	0.0%
10月30日	長沼 (北海道)	35	24	10	41.7%	ver.2	1	0	0.0%
11月5日	会津	65	45	28	62.2%	ver.1	1	1	100.0%
11月9日	福岡	83	59	36	61.0%	ver.1	3	3	100.0%
11月10日	八代 (熊本)	71	40	21	52.5%	ver.1	2	1	50.0%
12月4日	小山 (栃木)	—	—	—	—	—	—	—	—
10月10日	IFEX (幕張)		1	1	—	ver.3	0	0	—
合計(名)		416	266	150	56.4%	—	9	7	77.8%

参考資料3. 単純集計表（小売店調査）

以下、特に記載のない場合、上段=N、下段=%

§1 小売店頭での品質管理の状況

Q1	水揚げ時、桶の水の中に鮮度保持剤を入れていますか？	単一回答	N	%
1	いつも入れている		3	42.9
2	花材によっては入れないこともある		3	42.9
3	入れていない		0	0.0
	無回答		1	14.3
	回答者数		6	85.7
	N(全回答者数)		7	100.0

Q2	店頭陳列時、桶の水の中に鮮度保持剤を入れていますか？	単一回答	N	%
1	いつも入れている		3	42.9
2	花材によっては入れないことがある		3	42.9
3	入れていない		0	0.0
	無回答			
	回答者数			
	N(全回答者数)		7	100.0

Q3	商品を販売するとき、お客様に鮮度保持剤を渡していますか？	単一回答	N	%
1	すべての商品に無料提供する		3	42.9
2	一定金額以上のお客様に無料提供する		2	28.6
3	品目を限定して無料提供する		0	0.0
4	有料で販売している		1	14.3
5	用意していない		0	0.0
	無回答		1	14.3
	回答者数		6	85.7
	N(全回答者数)		7	100.0

Q4 使用している桶は、どのように洗っていますか？(複数回答)

Q4-1 桶を洗う道具		N	%
複数回答			
1	たわし	4	57.1
2	スポンジ	2	28.6
3	手	0	0.0
4	その他	0	0.0
	無回答	2	28.6
	回答者数	5	71.4
	N(全回答者数)	7	100.0

Q4-2 桶を洗うタイミング		N	%
複数回答			
1	花が入荷した時	4	57.1
2	汚れたと感じた時	2	28.6
3	その他	1	0.0
	無回答	1	14.3
	回答者数	6	85.7
	N(全回答者数)	7	100.0

Q4-3 桶を洗う際の使用薬品		N	%
複数回答			
1	中性洗剤を使用する	2	28.6
2	水だけで薬品は使用しない	4	57.1
3	その他	0	0.0
	無回答	1	14.3
	回答者数	6	85.7
	N(全回答者数)	7	100.0

Q5	あなたのお店では、お花の店頭陳列(滞留)日数は平均何日くらいですか？	N	%
	单一回答		
1	2日以下	0	0.0
2	3日	0	0.0
3	4日	4	57.1
4	5日	1	14.3
5	6日	1	14.3
6	7日以上	0	0.0
7	わからない	0	0.0
8	その他	0	0.0
	無回答	1	14.3
	回答者数	6	85.7
	N(全回答者数)	7	100.0

Q6	店頭で販売している花は、どのようになったら売り場から下げますか？？	N	%
	複数回答		
1	見た目で、劣化が認められる時(首下がりなど)	5	71.4
2	経験からお客様に届く時点での劣化が予想される時	4	57.1
3	あらかじめ決められた滞留日数を超えた時	1	14.3
4	あらかじめ決められた花の鑑賞基準を下回った時	0	0.0
5	桶の水の汚れが目立つ時	0	0.0
6	次の新しい花の納品時	1	14.3
7	その他	0	0.0
8	無回答	0	0.0
	回答者数	7	100.0
	N(全回答者数)	7	100.0

Q7	下げた花はどうしますか？	N	%
	複数回答		
1	短いブーケ等に仕立て直して、販売する	0	0.0
2	サービス品として、値引きして販売する	3	42.9
3	破棄する	5	71.4
8	無回答	0	0.0
	回答者数	7	100.0
	N(全回答者数)	7	100.0

Q8 お店で販売している花は、お客様の家で何日ぐらい日持ちしていると思いますか？ 単一回答		1	2	3	4	5		
		3日	5日	7日	10日	10日以上	無回答	回答者数
1 キク		0	1	1	1	3	1	6
		0.0	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	85.7
2 バラ		0	3	3	0	0	1	6
		0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3	85.7
3 カーネーション		0	0	1	3	2	1	6
		0.0	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	85.7
4 ガーベラ		0	3	2	0	1	1	6
		0.0	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3	85.7
5 ブーケ		2	2	2	0	0	1	6
		28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	85.7
6 その他切り花 全般		0	2	4	0	0	1	6
		0.0	28.6	57.1	0.0	0.0	14.3	85.7

上段=N、下段=%

Q9 「日持ち保証販売」という販売方法を知っていますか？				N	%
単一回答					
1 既に実施している				1	14.3
2 以前から内容まで知っていた				3	42.9
3 以前から聞いた事はあった				3	42.9
4 今日初めて知った				0	0.0
無回答				0	0.0
回答者数				0	0.0
N(全回答者数)				7	100.0

Q10 「日持ち保証販売」を実施するとしたら、どんなことが心配ですか？		N	%
複数回答			
1	顧客からのクレーム	3	42.9
2	スタッフの教育と意識統一	4	57.1
3	社内からの懸念や反対	0	0.0
4	売り切る力の不足	3	42.9
5	継続的に取り組めるかどうか不安	5	71.4
6	日持ちの目利きに自信がない	1	14.3
7	商品ロスや交換費用などコストの増加	1	14.3
8	顧客への保証条件の徹底	1	14.3
9	花の管理方法について顧客に伝えることの難しさ	0	0.0
10	仕入前までの花の貯蔵や輸送状態に関する情報不足	1	14.3
11	その他(具体的に)	0	0.0
	無回答	1	14.3
回答者数		6	85.7
N(全回答者数)		7	100.0

§ 2 品質管理認証に対する認知と評価

Q11 数年前から、花きの業界団体が中心となり、日持ちは向上を目的に、生産または流通・小売段階で、各段階で花の扱いや設備の管理要件を定めた認証制度が始まっています。こうした日持ち管理認証をご存知でしたか？

Q11 「日持ち管理認証」の認知率		N	%
単一回答			
1	既に認証を取得している	2	28.6
2	以前から内容まで知っていた	3	42.9
3	以前から聞いた事はあった	1	14.3
4	今日初めて知った	1	14.3
	無回答	0	0.0
回答者数		7	100.0
N(全回答者数)		7	100.0

Q12 2018 年度から、差別化と輸出強化のための新しい「JAS」(日本農林規格:農林水産省)規格の一つとして、「日持ち生産管理切り花の JAS 規格」がスタートしました。花の JAS では、栽培、採花から出荷まで「生産段階」での作業・衛生・低温管理の標準規格が定められ、今後、日持ち性に優れた切り花の認証が始まります。

花の JAS 認証をご存知でしたか？

Q12 「花の JAS 認証」の認知率		N	%
単一回答			
1	以前から内容まで知っていた	0	0.0
2	以前から聞いた事はあった	5	71.4
3	今日初めて知った	2	28.6
4	無回答	0	0.0
回答者数		7	100.0
N(全回答者数)		7	100.0

Q13 農産物の生産現場では、「持続可能性」を確保する手法として、GAP(農業生産工程管理)が注目されています。GAP では、食品・労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理の標準規格が定められています。花でも、海外では GAP 認証が広がりつつあります。

あなたは、花の GAP をご存知でしたか？

Q13 「花の GAP」認知		N	%
単一回答			
1	以前から内容まで知っていた	0	0.0
2	以前から聞いた事はあった	2	28.6
3	今日初めて知った	5	71.4
	無回答	0	0.0
回答者数		7	100.0
N(全回答者数)		7	100.0

Q14 さまざまな花の認証について、あなたはどのように評価しますか？(複数回答)

Q14 花の認証に対する評価				N	%
複数回答					
1	品質管理の標準規格があれば、業界全体のレベルアップにつながる			6	85.7
2	自社の商品の品質向上と差別化につながる			3	42.9
3	鮮度や品質管理、スタッフの意識の底上げなど、自社の経営改善手段として有効だ			3	42.9
4	さまざまな認証が混在していて、混乱を招く			0	0.0
5	抽象的で、売上にどう結び付くのかわからない			1	14.3
6	コストや事務負担が増え、価格転嫁できるかどうか気になる			2	28.6
7	認証に対する需要があるのかどうか、疑問だ			0	0.0
8	その他			0	0.0
	無回答			0	0.0
回答者数				7	100.0
N(全回答者数)				7	100.0

Q15 花の認証品を取り扱うとした場合、あなたの考えに近いのはどれですか。各項目について、「そう思う」～「そう思わない」の4段階のうち、あてはまるものを選んでください。

Q15-1 要求水準(認証の難易度) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	ベーシックで取り組みやすく、基本的管理の底上げになる方がよい	7	4	2	1	0	0	7
		100.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	100.0
2	高い水準で、差別化につながる方がよい	7	3	3	1	0	0	7
		100.0	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	100.0
3	国際水準で輸出入にも対応した水準を目指す方がよい	7	2	2	3	0	0	7
		100.0	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0	100.0

Q15-2 認証の主体 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	政府認証である方が望ましい	7	3	4	0	0	0	7
		100.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0
2	実績のある中立的機関であれば、民間認証でもよい	7	1	4	1	1	0	7
		100.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	100.0
3	国際認証か、国際規格に対応した認証が望ましい	7	2	3	1	1	0	7
		100.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	100.0

Q15-3 認証のカバー範囲 (認証内容) 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	生産部門に特化した認証がよい	7	0	3	1	2	1	6
		100.0	0.0	42.9	14.3	28.6	14.3	85.7
2	総合的な品質保証には、生産-流通-小売まで参加した認証がよい	7	3	4	0	0	0	7
		100.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0
3	品質だけでなく、安全、労働、環境まで総合的にカバーした認証がよい	7	0	4	2	1	0	7
		100.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	100.0

Q15-4 小規模事業者への配慮／要求水準 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	中小事業者の負担に配慮し、参加者の裾野を広げた認証の方がよい	7	1	4	2	0	0	7
		100.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	100.0
2	高い水準の達成に重点を置いた、ステータスのある認証の方がよい	7	1	4	2	0	0	7
		100.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	100.0

Q15-5 検討条件 単一回答		N (全回答者数)	1	2	3	4		
			そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	回答者数
1	全体的な品質管理水準が向上するなら、自己負担でも扱いたい	7	0	3	4	0	0	7
		100.0	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0
2	取引条件として求められるケースが増えれば、扱いたい	7	0	2	3	2	0	7
		100.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	100.0
3	認証への支援や優遇制度があれば、扱いたい	7	2	3	2	0	0	7
		100.0	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	100.0
4	業界で「事実上の標準」となる認証ができれば、扱いたい	7	2	2	3	0	0	7
		100.0	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0	100.0
5	諸認証間の関係が整備され、ステップアップしていくなら扱いたい	7	2	2	3	0	0	7
		100.0	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0	100.0

Q16 認証品の花について、小売価格でいくらまでだったら、お店での販売を検討しますか？

「日持ち管理認証」、「花の JAS」、「GAP」それぞれについて、お答えください。

Q16 認証品の花 受容価格 単一回答		N (全回答者 数)	1	2	3	4	5	6	7	8		
			通常 と同 じ価 格	通常 価格 の 10% 増	通常 価格 の 20% 増	通常 価格 の 30% 増	通常 価格 の 50% 増	通常 価格 の 75% 増	通常 価格 の 100% 増	通常 価格 の 100% 増以上	無回 答	回答 者数
1	日持ち管理 認証	7	3	3	1	0	0	0	0	0	0	7
		100.0	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2	花の JAS	7	2	3	2	0	0	0	0	0	0	7
		100.0	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
3	花の GAP (国内認証)	7	3	2	1	1	0	0	0	0	0	7
		100.0	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
4	花の GAP (国際認証)	7	2	3	1	1	0	0	0	0	0	7
		100.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

Q17 花の品質管理や認証について、あなたのご意見、疑問や感想をお聞かせください。(自由回答)

- 店頭販売が主なので、切り花の品質管理はとても重要と考えています。今日はとても勉強になり、ありがとうございました。
- 今日初めて参加して、生産者の品質保持の努力の話など聞けて、たいへん参考になりました。

参考資料4. 単純集計表（消費者調査）

以下、特に記載のない場合、上段=N、下段=%

Q1	あなたは、ここ1年間に「花」を購入しましたか？ 単一回答		
		N	%
1	購入した	236	45.4
2	この一年は購入していない	214	41.2
3	今までに「花」を購入したことない	70	13.5
	全体	520	100.0

Q2	花を購入する時に何を重要視しますか？ 以下の用途について、重要なものの、最も重要なものをそれぞれお選びください。※(以下の用途で)購入したことのない方は想定でお答えください。 複数回答／単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			価格	花の種類	アレンジ・花束・ラッピングのセンスがよい	ボリューム・本数が多い	新鮮さ	対応のよさ	日持ち	その他
1	自宅用 重要なこと (いくつでも)	520 100.0	340 65.4	283 54.4	125 24.0	83 16.0	133 25.6	36 6.9	197 37.9	29 5.6
2	自宅用 最も重要なこと (一つだけ)	520 100.0	178 34.2	132 25.4	54 10.4	11 2.1	25 4.8	3 0.6	90 17.3	27 5.2
3	プレゼント用 重要なこと (いくつでも)	520 100.0	251 48.3	286 55.0	345 66.3	199 38.3	149 28.7	63 12.1	120 23.1	21 4.0
4	プレゼント用 最も重要なこと (一つだけ)	520 100.0	69 13.3	98 18.8	244 46.9	34 6.5	27 5.2	7 1.3	22 4.2	19 3.7

Q3	花を買わない理由として、あてはまるものを選んでください。 花一般についてでも、特定の花についてでも結構です。		
		N	%
	複数回答		
1	持ち歩くのが不便	104	20.0
2	適当な花瓶がない	90	17.3
3	花屋に入りづらい	55	10.6
4	花を買ったり持ち歩いたりするのが恥ずかしい	38	7.3
5	活けたり水を換えるのが面倒	122	23.5
6	すぐに枯れたり萎れたりして、持たない	212	40.8
7	価格が割高	169	32.5
8	心に響く花がない	24	4.6
9	花や花屋は、目新しさや変化に乏しく退屈	8	1.5
10	花についての思い出や、ワクワクするような経験がない	26	5.0
11	他の植物や雑貨と比べて、花は自分の生活スタイルや住環境に合わない	21	4.0
12	染料やラメで加工された生花は、不自然で違和感がある	28	5.4
13	香りが強すぎる	12	2.3
14	特定の花の匂いが気になる	18	3.5
15	花粉などへのアレルギーがある	33	6.3
16	生きた植物は苦手	21	4.0
17	生産や流通時に適切に管理されておらず、品質が不安定	4	0.8
18	栽培や流通時に使われる農薬や薬品の安全性に対して、懸念がある	2	0.4
19	どこでどのように栽培されたかわからない花は不安だ	7	1.3
20	贈りたい相手がいない	51	9.8
21	庭や畠に自然の花があるので、特に買う必要がない	17	3.3
22	興味がない	123	23.7
23	その他	16	3.1
	全体	520	100.0

Q4		花の管理の仕方で知っている項目はなんですか？	N	%
		複数回答		
1	水替え		363	69.8
2	切り戻し		163	31.3
3	鮮度保持剤の使用		145	27.9
4	花を置く場所(日当たり、風通し等)に配慮		243	46.7
5	その他		2	0.4
6	花の管理の仕方は知らない		126	24.2
	全体		520	100.0

Q5		花の管理として、日頃実践している項目はなんですか？	N	%
		複数回答		
1	水替え		238	65.6
2	切り戻し		81	49.7
3	鮮度保持剤の使用		56	38.6
4	花を置く場所(日当たり、風通し等)に配慮		117	48.1
5	その他		0	0.0
6	特に実践していない		125	31.7
	全体		394	100.0

* 各選択肢(1～5)の回答対象は、Q13 の対応する各選択肢で「知っている」と答えた人

Q6	最近、花店やスーパーなどでは、生花の品質保証の試みとして、「日持ち保証販売」が広がっています。 これは、花購入後、一定の日数(通常3～5日)以内に枯れた場合、替わりの花との交換を保証するサービスです。 あなたは、「日持ち保証販売」を知っていますか？	N	% 85.0 12.5 2.5
	単一回答		
1	知らない	442	85.0
2	聞いた事がある	65	12.5
3	意味まで知っている	13	2.5
	全体	520	100.0

Q7	以下の切り花・ブーケについて、購入してからどれくらいの日数日持ちがすれば満足と感じますか？最も近いものをお選びください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			3日位	5日位	7日位	10日位	10日以上
1	キク	520 100.0	60 11.5	86 16.5	185 35.6	75 14.4	114 21.9
2	バラ	520 100.0	48 9.2	97 18.7	167 32.1	85 16.3	123 23.7
3	カーネーション	520 100.0	40 7.7	85 16.3	188 36.2	86 16.5	121 23.3
4	ダリア	520 100.0	60 11.5	89 17.1	185 35.6	84 16.2	102 19.6
5	ガーベラ	520 100.0	50 9.6	103 19.8	176 33.8	90 17.3	101 19.4
6	ユリ	520 100.0	58 11.2	92 17.7	177 34.0	84 16.2	109 21.0
7	トルコギキョウ	520 100.0	54 10.4	92 17.7	192 36.9	80 15.4	102 19.6
8	その他切り花全般	520 100.0	42 8.1	83 16.0	202 38.8	83 16.0	110 21.2
9	ブーケ	520 100.0	43 8.3	72 13.8	167 32.1	100 19.2	138 26.5

Q8	以下の鉢物の花について、購入してからどれくらいの日数日持ちがすれば、満足と感じますか？最も近いものをお選びください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			1週間位	2週間位	3週間位	3週間以上	ずっと育てたい
1	アジサイ	520 100.0	93 17.9	123 23.7	64 12.3	83 16.0	157 30.2
2	シクラメン	520 100.0	96 18.5	113 21.7	65 12.5	94 18.1	152 29.2
3	パンジー	520 100.0	90 17.3	109 21.0	84 16.2	98 18.8	139 26.7
4	キク	520 100.0	112 21.5	122 23.5	77 14.8	100 19.2	109 21.0
5	ポットローズ	520 100.0	94 18.1	121 23.3	75 14.4	93 17.9	137 26.3
6	ポットカーネーション	520 100.0	85 16.3	121 23.3	83 16.0	100 19.2	131 25.2
7	ポインセチア	520 100.0	87 16.7	99 19.0	80 15.4	116 22.3	138 26.5
8	その他鉢物全般	520 100.0	93 17.9	97 18.7	68 13.1	99 19.0	163 31.3

Q9	最近、エコが話題になっていますが、以下のラベルについて、各項目ごとに当てはまるものをお選びください。 単一回答		全体	1	2	3
				知らない	見た事がある	意味が分かる
1	エコマーク		520 100.0	54 10.4	301 57.9	165 31.7
2	有機 JAS		520 100.0	282 54.2	190 36.5	48 9.2
3	MSC(海洋管理協議会)		520 100.0	457 87.9	48 9.2	15 2.9
4	FSC(森林認証)		520 100.0	441 84.8	65 12.5	14 2.7
5	エコリーフ環境ラベル		520 100.0	467 89.8	42 8.1	11 2.1
6	グリーンマーク		520 100.0	146 28.1	299 57.5	75 14.4
7	MPS(花き産業総合認証)		520 100.0	484 93.1	26 5.0	10 1.9
8	MPS ジャパン		520 100.0	491 94.4	18 3.5	11 2.1
9	FFP(フェア・フラワーズ、フェア・プランツ)		520 100.0	493 94.8	14 2.7	13 2.5
10	CFP(カーボン・フットプリント)		520 100.0	480 92.3	24 4.6	16 3.1
11	JGAP/ASIAGAP(日本版農業生産工程管理認証)		520 100.0	488 93.8	20 3.8	12 2.3
12	レインフォレスト・アライアンス認証		520 100.0	466 89.6	40 7.7	14 2.7
13	リレーフレッシュネス(花き日持ち品質管理認証)		520 100.0	497 95.6	13 2.5	10 1.9
14	ECOCERT コスメ認証 オーガニック/ナチュラル		520 100.0	493 94.8	12 2.3	15 2.9
15	フェアトレード		520 100.0	446 85.8	42 8.1	32 6.2
16	グローバル G.A.P.		520 100.0	492 94.6	17 3.3	11 2.1
17	グローバル G.A.P. 花き・植物認証		520 100.0	496 95.4	15 2.9	9 1.7

Q10	以下の農産物品質情報ラベルについて、各項目ごとに当てはまるものをお選びください。 単一回答	全体	1	2	3
			知らない	見た事がある	意味が分かる
1	JAS マーク		520 100.0	80 15.4	347 66.7
2	生産情報公表 JAS マーク		520 100.0	417 80.2	81 15.6
3	特定 JAS マーク		520 100.0	454 87.3	47 9.0
4	定温管理流通 JAS マーク		520 100.0	475 91.3	29 5.6
5	GI(地理的表示保護)マーク		520 100.0	486 93.5	23 4.4
6	地域団体商標		520 100.0	489 94.0	20 3.8
7	E マーク(地域特産品認証事業)		520 100.0	485 93.3	25 4.8
8	日本産果実マーク		520 100.0	482 92.7	25 4.8
9	和牛統一マーク		520 100.0	474 91.2	30 5.8
10	総合衛生管理(HACCP)厚生労働大臣承認マーク		520 100.0	411 79.0	82 15.8
11	特定保健用食品(トクホ)		520 100.0	66 12.7	267 51.3
12	飲用乳公正マーク		520 100.0	198 38.1	260 50.0
13	トップバリュ グリーンアイ		520 100.0	240 46.2	215 41.3
14	ローソンファーム		520 100.0	465 89.4	37 7.1
15	GOTS オーガニック繊維認証		520 100.0	487 93.7	20 3.8
16	USDA(米国農務省)有機認証		520 100.0	492 94.6	15 2.9
17	PDO(欧洲連合原産地呼称保護)		520 100.0	497 95.6	13 2.5
18	ヴィーガン認証(ヴィーガン協会)		520 100.0	494 95.0	14 2.7

Q11	農産品の品質情報の信頼性について、以下の要素をどのくらい重視しますか？ 单一回答	全体	1	2	3	4
			とても重視する	やや重視する	あまり重視しない	まったく重視しない
1	政府による基準・認証である	520 100.0	38 7.3	245 47.1	180 34.6	57 11.0
2	県や市など自治体による基準・認証である	520 100.0	31 6.0	238 45.8	194 37.3	57 11.0
3	民間の中立的な機関による基準・認証である	520 100.0	23 4.4	216 41.5	219 42.1	62 11.9
4	世界的に知られた国際基準・認証である	520 100.0	39 7.5	232 44.6	185 35.6	64 12.3
5	大手のメーカーや小売企業の基準である	520 100.0	25 4.8	221 42.5	209 40.2	65 12.5
6	業界の自主的な品質保証基準である	520 100.0	15 2.9	214 41.2	222 42.7	69 13.3
7	海外市場でも通用する高品質な产品であることが証明されている	520 100.0	22 4.2	213 41.0	212 40.8	73 14.0
8	伝統的な素材や製法による产品であることが証明されている	520 100.0	20 3.8	204 39.2	231 44.4	65 12.5
9	地域の素材や製法で生産されていることが証明されている	520 100.0	31 6.0	241 46.3	185 35.6	63 12.1
10	昔から知られていて安心感がある	520 100.0	62 11.9	260 50.0	150 28.8	48 9.2
11	ブランドがしっかりしている	520 100.0	75 14.4	265 51.0	125 24.0	55 10.6
12	強制力がある(違反時の罰則など)	520 100.0	36 6.9	182 35.0	223 42.9	79 15.2
13	科学的根拠が明確である	520 100.0	47 9.0	216 41.5	197 37.9	60 11.5
14	顔の見える関係やコミュニケーションを通じて、信頼が担保されている	520 100.0	21 4.0	211 40.6	222 42.7	66 12.7
15	自分の好きな店が独自の基準で薦めている	520 100.0	15 2.9	187 36.0	245 47.1	73 14.0
16	家族や知人が薦めている	520 100.0	33 6.3	231 44.4	197 37.9	59 11.3
17	専門家が薦めている	520 100.0	27 5.2	194 37.3	227 43.7	72 13.8
18	メディアで薦めている	520 100.0	16 3.1	168 32.3	243 46.7	93 17.9
19	生産方法や品種、表示等を確認して、自分で信頼性を判断する	520 100.0	34 6.5	238 45.8	185 35.6	63 12.1

Q12	花を購入する際に、どのような表示を重視しますか？あてはまるものを全てお選びください。 また、最も重要なものを一つお選びください。 (現在表示がないものは、あったと仮定してお答えください) 複数回答	1		2	
		重視すること (いくつでも)		最も重視すること (ひとつだけ)	
		N	%	N	%
	全体	520	100.0	520	100.0
1	生産者名	35	6.7	8	1.5
2	国産／外国産の表示	51	9.8	15	2.9
3	国内産地の表示	62	11.9	26	5.0
4	品種	186	35.8	98	18.8
5	日持ち保証表示	98	18.8	33	6.3
6	環境配慮(低農薬、低化学肥料)表示	21	4.0	7	1.3
7	CO2 等排出量表示	18	3.5	2	0.4
8	花の特徴についての情報表示	105	20.2	41	7.9
9	地元や近郊地産の表示	22	4.2	6	1.2
10	放射性物質についての安全性検査表示	26	5.0	4	0.8
11	価格やプロモーション情報	150	28.8	85	16.3
12	店頭 POP や黒板のメッセージ	73	14.0	17	3.3
13	環境配慮や適切な生産・流通管理を意味する認証マーク	11	2.1	1	0.2
14	どれも気にしない	177	34.0	177	34.0

Q13	農畜産物の生産現場において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組は、GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)と呼ばれています。 東京オリンピック・パラリンピックの選手村等での食材は、GAP 認証取得農場からの調達が要件とされています。 あなたは、GAPについてご存知でしたか？		
		N	%
1	知らなかつた	426	81.9
2	聞いた事はあつたが、意味は知らなかつた	68	13.1
3	以前から知つていた	26	5.0
	全体	520	100.0

Q14	環境配慮の農産物(低農薬、生態系保全、エネルギー削減など)について、いくらまでだったら購入を検討しますか？野菜と花について、それぞれお答えください。 ※購入したことのない方も想定でお答えください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			通常 と同じ 価格	通常 価格 の 10% 増	通常 価格 の 20% 増	通常 価格 の 30% 増	通常 価格 の 50% 増	通常 価格 の 75% 増	通常 価格 の 100% 増	通常 価格 の 100% 増以 上
1	環境配慮の野菜	520 100.0	239 46.0	174 33.5	67 12.9	24 4.6	11 2.1	2 0.4	0 0.0	3 0.6
2	環境配慮の花	520 100.0	304 58.5	133 25.6	53 10.2	17 3.3	8 1.5	2 0.4	0 0.0	3 0.6

Q15	GAP 認証済の農産物について、いくらまでだったら購入を検討しますか？野菜と花について、それぞれお答えください。 ※購入したことのない方も想定でお答えください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			通常 と同じ 価格	通常 価格 の 10% 増	通常 価格 の 20% 増	通常 価格 の 30% 増	通常 価格 の 50% 増	通常 価格 の 75% 増	通常 価格 の 100% 増	通常 価格 の 100% 増以 上
1	GAP 認証済の野菜	520 100.0	251 48.3	165 31.7	60 11.5	30 5.8	9 1.7	1 0.2	0 0.0	4 0.8
2	GAP 認証済の花	520 100.0	292 56.2	141 27.1	53 10.2	19 3.7	11 2.1	1 0.2	0 0.0	3 0.6

Q16	JAS(日本農林規格)は農産物の品質に関する農林水産省の国家規格です。最近では、ブランド化や輸出を目的とした、差別化のための「新しい JAS」が生まれています。花では「日持ち生産管理切り花の JAS 規格」として、栽培、採花から出荷まで「生産段階」での作業・衛生・低温管理の標準規格が定められ、今後、日持ち性に優れた花の JAS 認証が始まります。JAS 認証済の花について、いくらまでだったら購入を検討しますか？※切り花と鉢物について、想定でお答えください。	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			通常と同じ価格	通常価格の10%増	通常価格の20%増	通常価格の30%増	通常価格の50%増	通常価格の75%増	通常価格の100%増	通常価格の100%増以上
1	JAS 日持ち生産管理認証済の切り花	520 100.0	272 52.3	154 29.6	61 11.7	18 3.5	11 2.1	0 0.0	1 0.2	3 0.6
2	JAS 日持ち生産管理認証済の鉢物	520 100.0	277 53.3	153 29.4	58 11.2	21 4.0	6 1.2	1 0.2	1 0.2	3 0.6

Q17	花の日持ち認証には、「生産～流通～小売の各段階」で、道具の管理や花の滞留日数、保管温度、顧客対応などの管理要件を定めた、民間の「品質管理認証」もあります。生産から小売段階までをカバーする日持ち品質管理認証済の花について、いくらまでだったら購入を検討しますか？※切り花と鉢物についてお答えください。購入したことのない方も想定でお答えください。	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			通常と同じ価格	通常価格の10%増	通常価格の20%増	通常価格の30%増	通常価格の50%増	通常価格の75%増	通常価格の100%増	通常価格の100%増以上
1	民間の日持ち品質管理認証済の切り花	520 100.0	290 55.8	149 28.7	47 9.0	21 4.0	8 1.5	2 0.4	1 0.2	2 0.4
2	民間の日持ち品質管理認証済の鉢物	520 100.0	289 55.6	158 30.4	39 7.5	23 4.4	8 1.5	0 0.0	1 0.2	2 0.4

参考資料 5. 花きおよび農業関連認証の見取り図（生産者アンケート添付資料）

＊品質管理の「品質」は、各認証スキームで考え方が異なる

認証	日持ち管理認証	花のJAS認証	(参考)JGAP * 食品	花のGAP	(参考)ASIAGAP * 食品	MPS-ABC、MPS-Q	フェアトレード、MPS-SQ	有機認証
認証の主領域				商品回収テスト、資材仕入先評価 法令遵守	社会的責任・人権保護(技能実習生の適正な扱いなど)	経済(価格保証)	資材仕入先評価	
					環境負荷削減			
				労働安全(機械・設備・薬品等の管理、保護具)				
		鮮度管理			安全管理(異物混入防止、農薬適正使用)			
					品質管理			
対象	・生産 ・生産～流通 ～小売	生産	生産	生産	生産	・生産 ・流通～小売 にも対応認証 ・生産(MPS)	・生産～加工・輸入・流通(FLO) ・生産(MPS)	生産～加工・小分け
運営主体	生産協会、農林水産省・MPSジャパン	FAMIC	日本GAP協会	GGN(花きグローバルG.A.P.)、MPS-GAP	日本GAP協会	MPSジャパン	国際フェアトレードラベル機構、MPSジャパン	各国農務省など
審査機関(例)	生産協会、MPSジャパン	未定	日本能率协会他	エーカス他	日本能率协会他	エーカス他	FLOCERT、エーカス	COOF、QAI他(海外)
年間審査費用の目安 (交通費、税別、この他入会金などあり)	(例)個別認証 10,000円 団体認証(例)2~10軒 5,000円(軒数増で割引)	未定	10万円程度	(MPS) 25万円 (参考: グローバルG.A.P.=食品) 25~55万円 (場合により海外審査員旅費+通訳料追加)	10万円程度	(ABC) 1,000坪以下 5万円、2,000坪以下 7万円	(FLO)認証料(事業規模により5~15万円)+ライセンス料(小売価格の1%)+各品目基本料金*小規模事業者一律年2万円	(例)年会費・認定申請費・検査日当など計年17~20万円+運営協力費(売上高の0.5%~0.1%)
国内／国際認証	国内認証	国内認証～国際認証(計画)	国内認証	国際認証	国内認証～国際認証(申請中)	国際認証	国際認証	国際認証(花は主に海外)
要求水準難易度	比較的容易(評点評価)	やや難しい	やや難しい	高度	高度	高度	高度(アドオン)	高度

出典:MPS ジャパン作成(農林水産省(2018)「GAP(農業生産工程管理)をめぐる情勢」等を参考)

参考資料 6. 認証ラベルの説明

環境配慮ラベル

ラベル	説明
有機 JAS 	農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品を表す。農産物、加工食品、飼料及び畜産物で認証可能。化学的合成肥料および農薬の使用を避け、播種または植付前2年以上(多年生産物では、最初の収穫前3年以上)の間、堆肥等による土作りを行った圃場で生産された農産物とその加工食品およびその小分けに認証ラベルを付けることができる。
花き産業総合認証 	花きの生産業者と流通業者を対象とした、花き業界の総合的な認証システム(MPS)。花きの先進国オランダ発祥の環境負荷低減のための国際認証。生産者には、農薬、エネルギー、肥料等といった環境負荷項目を次第に減らせるプログラム認証を提供。生産業者と流通業者を対象に鮮度保証、品質管理、顧客対応、トレーサビリティ、労働環境等に関する認証も提供している。
MPS ジャパン 	花き業界の総合認証(MPS)を日本国内で取得した場合、日本産または日本で取得したことを証明するため、MPS ジャパンロゴマークが併用される。
フェアフラワーズ・フェアプランツ 	公平な花の公平な植物(FFP)は持続可能な環境で作られた花きを消費者に提供する際に使われるラベル。環境負荷が低減された方法で栽培されており、かつ、企業内での労働条件は保証される花に対して使用許可。EU のサポートを受けた国際認証。2006年開始、2017年末で終了。
日本版農業生産工程管理認証 	日本版農業生産工程管理認証(JGAP)は、農場や生産者団体が活用する農場管理の基準。120を超える農場のチェック項目があり、農薬の管理、肥料の管理など、食の安全や環境保全に関する農作業について、明確な基準が定められている。
レインフォレスト・アライアンス認証 	レインフォレスト・アライアンスが運営する認証。認証農園や認証森林で作られた、あるいはその产品を材料にした商品に、カエルのマークの使用が認められる。これら農園や森林は、野生生物の保護、土壤と水源の保全、労働者や地域社会の保護・生計の向上など、長期的持続可能性のための環境・社会・経済面の基準に則って管理されている。
リレーフレッシュネス (花き日持ち品質管理認証) 	花きに携わる個人や団体を対象に、花きの日持ち性向上対策、品質管理がなされている申請者に認証を授与する。生産部門、流通部門(市場、仲卸、加工場、輸送)、小売部門の3部門がある。
フェアトレード 	開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す。ロゴは、国際フェアトレードラベル機構の認証。
グローバル G.A.P. 	Good Agricultural Practices(GAP)は、農業生産の環境的、経済的、社会的な持続性に向けた取組み。グローバル G.A.P.は、食の安全と持続可能な生産管理の実現のための世界共通の規格。世界118か国以上で活用されている。
グローバル GAP 花き・植物 	グローバル G.A.P.の花き・植物用の認証。

注: ロゴは各組織サイトから引用

品質情報ラベル

ラベル	説明
JAS マーク 	品位、成分、性能等の品質についての JAS 規格(一般 JAS 規格)を満たす食品や林産物などに付される。農林水産省の規格。
生産情報公表 JAS マーク 	生産情報公表 JAS 規格を満たす方法により、給餌や動物用医薬品の投与などの情報(牛肉や豚肉)や使用農薬・肥料などの情報が公表されている農畜水産物に付けられる。事業者が自主的に食品の生産情報を伝えていることを、第三者登録認定機関が認定。農林水産省の規格。
特定 JAS マーク 	特別な生産や製造方法についての JAS 規格(特定 JAS 規格)を満たす食品や、同種の標準的な製品に比べ品質等に特色があることを内容とした JAS 規格を満たす食品に付与(熟成肉製品やりんごストレートピュアジュースなど)。農林水産省の規格。
定温管理流通 JAS マーク 	製造から販売まで、流通行程を一貫して一定温度を保って流通させている加工食品に付されるマーク。米飯を用いた弁当類(寿司、チャーハン等を含む)について認定。
地理的表示保護(GI) 	品質や評価などが生産地と結びついている产品について、その名称(地理的表示)を保護する制度。地理的表示を、知的財産として国に登録することができる。制度の大枠は農林水産省担当。
地域団体商標 	「地域ブランド」としての地域の名称や、商品(サービス)の名称等からなる文字商標。全国的に知られた「地域名+商品(サービス)名」の組み合わせからなる文字商標登録。経済省特許庁担当。
E マーク (地域特産品認証事業) 	ふるさと認証食品。地域の主原材料を用い、伝統など特色ある製法で地域で製造され、かつ品質が優れている特産品(食品)について、都道府県が認証。
日本産果実マーク 	日本産果実の輸出にかかる統一ブランドマーク。日本青果物輸出促進協議会が策定。海外市場で、高品質な日本産品として、バイヤーや消費者向けが識別できるよう作成。国内使用可。
和牛統一マーク 	日本固有の牛の品種で、血統が証明され、日本で生まれ育った和牛で、そのことがトレーサビリティで証明できる和牛肉にのみ付けられる。公益社団法人中央畜産会が導入。
総合衛生管理(HACCP)厚生労働大臣承認マーク 	厚生労働大臣承認の「総合衛生管理過程(HACCPシステム)」により衛生管理が行われている工場等で製造された食品に付けられる。食肉、乳及び乳製品・アイスクリーム、レトルト食品、魚肉練り製品、清涼飲料水が対象。

特定保健用食品(トクホ) 	その食品の持つ保健機能成分の摂取により、特定の保健目的に対して、何らかの効果が期待できることが科学的に示された食品に対して、許可される。製品ごとに食品の有効性や安全性に関して国(消費者庁)の審査を受け、表示についても許可が必要。
飲用乳公正マーク 	飲用乳の容器に付けられる。消費者庁と公正取引委員会から認められた公正競争規約に基づいた「適正な表示がなされている飲用乳」の証。全国飲用牛乳公正取引協議会が運用。
トップバリュ グリーンアイ 	イオンのプライベート・ブランド。「安全・安心」と「自然環境への配慮」にこだわった農水産物や加工食品を取り扱う。
ローソンファーム 	ローソンファームは、ローソンが出資し、全国各地で生産者が経営・運営する農場。農場はJGAP認証取得、土壤のミネラルバランスを分析しながら健康な作物を育てる「中嶋農法」を採用。ファームの農産物やその加工品は、全国のローソン・グループの店舗で販売される。
GOTS オーガニック繊維認証 	オーガニックコットン・テキスタイルの国際認証。独・英・米と日本(JOCA)の団体が共同で規格を統一。認証原料とトレーサビリティ、化学薬品の使用、環境管理、社会的規範などの認証要件を規定。有機転換期間中の原料使用も可。有機原料の独自基準ではなく、各國・団体の有機基準を採用。
USDA(米国農務省)有機認証 	米国の有機農業基準に基づく、有機農産物等やその加工品の生産・取り扱い、表示に関する基準。米国農務省による規格・運営。日本の有機 JAS と同等性が相互認証されており、日本でも「有機」、「Organic」と表示して販売可能。
PDO(EU 地理的表示・原産地呼称保護) 	EU の地理的表示(GI)。PDO は原産地呼称保護。特定の地域で、受け継がれたノウハウで生産・加工・製造された農産物、食品が対象。EU の GI には、生産・加工・製造の「少なくとも一段階が」その地域で行われることを要件とする PGI(地理的表示保護)もある。
ヴィーガン認証 	肉類や魚、乳製品、卵など一切の動物性原料を使わない純粋な植物性食品の認証。英国のヴィーガン協会の規格。欧米やインドなど、世界 2 万以上のヴィーガン製品に付けられている。

注: ロゴは各組織サイトから引用

日持ち品質管理と JAS 認証受容性 ～生産者・消費者調査

著者 青木 恭子 (Aoki Kyoko)
発行日 2019 年 3 月 31 日
事業名 平成 30 年度 農林水産省
花き日持ち性向上対策実証事業
発行者 国産花き日持ち性向上推進協議会
発行所 MPS ジャパン株式会社
東京都千代田区四番町 4-9
東越伯鷹ビル 5 階